

1. 景気の現状に対する判断理由等

景気の現状に対する判断の理由及びそれに対する追加説明等について、その主だったもの及び特徴的と考えられるものを取りまとめると以下のとおりであった。

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北海道)		一般小売店〔土産〕（経営者）	お客様の様子	・緊急事態宣言下ではあるが、一部の客についてはワクチンを打った安心感から、若干動きが増えている。特に9月の大型連休の際はかなり客が増えた。少しずつではあるが、少数人数での団体旅行もみられるようになってきた。
		百貨店（売場主任）	単価の動き	・9月の売上を前年比でみると7～8月と比べて改善している。新型コロナウイルス新規感染者数が減少してきていることで客の購買心理が上向いており、そのことが来客数増加につながっている。特選品や宝飾品などの高額商材の動きも良い。
		百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・緊急事態宣言が延長されたが、当地の新型コロナウイルス新規感染者数が減少していることから、来客数が徐々に増えてきている。買上客数も増加傾向にある。
		百貨店（マネージャー）	来客数の動き	・来客数の前年比をみると、6月が82%、7月が74%、8月が80%、9月が28日時点で91%となっており、緊急事態宣言下ではあるものの、回復傾向になってきている。
		家電量販店（店員）	来客数の動き	・9月前半は残暑が厳しかったこともあり、来客数が少なかったが、後半になるとプレミアム付商品券の発行に伴い土日を中心ににぎわいがみられた。
		その他専門店〔医薬品〕（経営者）	お客様の様子	・接種を希望する高齢者へのワクチン接種率がほぼ100%まで到達したことで、若干ではあるが、客の安心感が増している。前年は新型コロナウイルスの影響でパブルのような状況であったため、単純には比較できないが、客の相談や購買が回復してきているという手応えを感じている。
		観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・緊急事態宣言下ではあるが、一部のコンサートイベントが催行されたことがプラスとなった。価格訴求型の安価な商材に個人需要が反応していることもプラスであった。
		タクシー運転手	販売量の動き	・新型コロナウイルス感染拡大に伴い発出された緊急事態宣言によって外出自粛の動きが強まった。その上、宣言の期間も今までで最長の1か月以上となったため、大幅な収入減に陥っている。飲食店とは異なり、当業界には明確な支援策もないため、苦慮している。ただ、緊急事態宣言が解除されれば、今よりも景気が良くなると期待している。
		観光名所（従業員）	お客様の様子	・当施設は景勝地にあるため、緊急事態宣言の発出に伴う休業が繰り返されており、非常に厳しい状態にあるが、5～6月の宣言時と比べれば、9月は営業中なのかを確認する問合せやどうすれば眺望観光できるのかといった問合せがとて多くみられた。実際に、駐車場がマイカーで混雑していたり、路線バスが増便などで対応している様子もみられるなど、前回の宣言時と比べて人の動きが増えてきている。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・緊急事態宣言はまだ解除されていないが、新型コロナウイルスの新規感染者数がかかなり減少していることで、客が旅行や食事に出掛ける機会が増えてきて、そうした動きに伴って、美容室への来店頻度も上昇しており、数か月前と比べて人の動きが明らかに活性化している。
	商店街（代表者）	来客数の動き	・高齢者については希望者のワクチン接種がほぼ終了しているが、平日の日中の来街者数が増加する傾向はみられない。9月24日からプレミアム付商品券の発売及び利用が始まったが、目立った利用客の増加もみられない。ここ数日、当地の感染者数はゼロの日が続いているが、地元客の来街者は少ないままである。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		百貨店（営業販売担当）	来客数の動き	・5月後半から続く来客数の減少傾向が改善してこない。客も目的買いのみであり、買い回りがみられない状況が続いている。
		スーパー（企画担当）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染拡大が落ち着いてきているなか、自粛ムードが継続している都市部の店舗では売上が好調な反面、町村部の店舗では今一つ売上に勢いがみられない。消費行動もエリアによって2極化しており、まだら模様の様相を呈している。
		スーパー（企画担当）	来客数の動き	・ワクチン接種率が向上していることで人流が増えてきているが、緊急事態宣言が9月末まで延長されたことから、来客数の伸び率が低いまま推移している。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・緊急事態宣言が発出されたことで来客数が減少しているが、9月後半になり、たばこ値上げの話題が出てきたことで売上がやや回復している。全体的にはプラスマイナスゼロとなっている。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・来客数が相変わらず前年を下回っており、低調に推移している。ただし、客単価が上昇していることで助かっている。景気が急激に良くなるという状況にはなく、既存の客を大事にしていきたい。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・消費者の行動自粛やイベントの縮小といった動きが続いている。飲食店などの外販先との取引も減少傾向が続いている。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・客の動きがやや悪いものの、新型車の導入など、話題に不足がないことから、受注量はどうか確保できている。
		自動車備品販売店（店長）	販売量の動き	・コロナ禍の状況が変わっていないことから、客の流れや購買意欲に大きな変化がみられない。
		その他専門店 [ガソリンスタンド]（経営者）	販売量の動き	・緊急事態宣言中であることもあり、販売量に変化はみられない。
		その他専門店 [造花]（店長）	来客数の動き	・コロナ禍以前の来客数に戻ってこない。
		旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・当地のワクチン接種率が少しずつ上向いてきているが、いまだ緊急事態宣言中のため、客足が上向いてこない。新規予約客も観光以外を目的としている。
		旅行代理店（従業員）	それ以外	・社会の雰囲気や政策、自治体の取組などに説得力がなく、明るい未来が見いだせない。政治面で大きな変動があったが、今後も期待はそうできない。
		旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・ワクチン接種が進んでいるものの、旅行マーケットの需要が戻ってこない。唯一動いているのは教育旅行のみである。
		タクシー運転手	来客数の動き	・コロナ禍の影響で観光客や地元客の流れも全くみられず、人の流れがない状況にある。緊急事態宣言下のため、どうしようもない状況に陥っている。緊急事態宣言が解除された後、状況がどのように動き出すのかを注視していきたい。
		タクシー運転手	お客様の様子	・緊急事態宣言が延長されたことにより、9月のタクシーの稼働が前年から30%落ち込むなど、最低の状況となっている。
		美容室（経営者）	販売量の動き	・8月の売上は前月及び前年を下回ったが、9月は前月や前年から5%以内の増加となっている。景気は多少良くなっているが、余り変わっていないと捉えている。
		住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・これまで新型コロナウイルスの感染拡大がなかなか収まらない状況にあったが、ここに来てようやく新規感染者数が減ってきている。ただ、消費についても、建築についても客のムードは良くない。
		住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・分譲マンションのモデルルームを訪れる客の動向をみると、2極化してきている。商談時間を必要としない即断即決型で経済的にゆとりのある客と、購入はしたいが経済面のことに慎重で意思決定にかなりの時間を要する客に極端に分かれている。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・青果物の収穫状況が非常に悪い。春先からの天候不順と7～8月の雨不足によって深刻な影響が生じている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		スーパー（店長）	来客数の動き	・緊急事態宣言に伴って来客数が減少していることに加えて、前年実施されたプレミアム付商品券、Go To Travelキャンペーンのような施策もないことから、消費を刺激する要素がない。
		スーパー（役員）	販売量の動き	・食用油、小麦粉などを始め、商材が多数値上がりしているため、客の節約志向が強くなってきている。
		スーパー（従業員）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響で来客数の減少が続いているが、前年のような客単価の上昇がみられないため、売上が前年を下回っている。この傾向はしばらく継続することになる。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・車の在庫がかなり減っているなか、東南アジアの多くの国でロックダウンなどの対策が行われていることで、海外からの部品供給が滞っている。このため、生産量が販売量に追いついておらず、納期が長くなっており、このことが売上にも影響している。こうした状況が新聞などで報道されていることもマイナスとなっている。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・新車の受注状況はさほど変わっていないが、新型コロナウイルスの影響で海外からの部品供給が止まっていることで、メーカーにおける新車の生産量が減少している。そのため、納車に遅れが生じており、売上が減少している。
		高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・書き入れ時だったにもかかわらず、インバウンドの入込はゼロが続いており、観光客も余りみられなかった。9月の大型連休はそこそこ観光客がみられたが、それ以外はほとんどみられなかった。まん延防止等重点措置が出ていたため、地元客の来店も余りみられず、景気としては下向きである。
		高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・コロナ禍前の2年前と比べると、売上が3割ほどの水準にとどまっているなど、景気はやや悪い。緊急事態宣言の延長を受けて、9月の後半も休業したため、 unnecessary 経費は掛からなかったが、営業再開後はスタッフの接客意欲に差が生じることが懸念される。主要スタッフは10月から通常出社となるが、パートの出社についてはどうすれば良いのかが悩みの種である。
		高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・緊急事態宣言によって人流抑制が呼びかけられていることで、客の心理面にも影響が生じている。
		旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・お盆まではビジネス客、観光客のいずれも動きが活発だったが、北海道に緊急事態宣言が発出されたことで一気に人の動きが抑制傾向となった。現在も航空機の運休が拡大していることから、人の動きは回復していない。
		タクシー運転手	来客数の動き	・緊急事態措置が発出されている状況にあることから、飲食店からの注文が毎週減少し続けている。予約件数が減少しており、景気はやや悪くなっている。
		通信会社（企画担当）	競争相手の様子	・取扱店や大型商業施設などでの出張販売において、来客数が増加し、販売量も増加しているものの、競合他社の集客を下回っている。そのため、当社の契約が他社に奪われており、道東を除き契約者数がやや減少している。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスへの感染を恐れて外出を控える客が多いことから、客の来店サイクルが大幅に長くなっている。
	×	商店街（代表者）	来客数の動き	・緊急事態宣言が続いていることで、近くの飲食店が軒並み臨時休業するなど、自粛に拍車を掛ける状況となっている。商店街への人出がかなり減少している。
	×	商店街（代表者）	販売量の動き	・緊急事態宣言下において新型コロナウイルス新規感染者数の減少傾向がみられるが、裏を返せば人流が減ったことの成果である。つまり、商業にとっては客足が減少し、商売が立ち行かなくなっていることでもある。そのため、商店街としては大きな落ち込みがみられた月であった。飲食店も休業や時短営業、酒類の提供停止などの要請によって大きな痛手を受けている。
	×	一般小売店 [酒]（経営者）	販売量の動き	・9月中は緊急事態宣言下にあったため、売上はコロナ禍前と比べて85%減少している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	×	スーパー（店長）	それ以外	・8月初めから新型コロナウイルスの新規感染者数が増え始め、8月中旬にまん延防止等重点措置が適用され、8月末に緊急事態宣言が発出されたことで、8～9月にかけて客足が大きく鈍り、大きな影響が生じている。
	×	衣料品専門店（店長）	販売量の動き	・スーツ需要がなくなって1年以上が経過し、底を打っているものの、回復しないまま推移している。
	×	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・当地の基幹産業である大手工場の撤退や漁獲量の低迷による影響がみられる。新型コロナウイルスが経済全体に影響を及ぼしているなか、車の生産活動にも大きな影響が出ており、販売量に大きなブレーキが掛かっている。
	×	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・緊急事態宣言が発出され、道内はもちろん道外からの入込も減少している。主だった観光施設の休業も相次いでおり、客足が遠のいている状況から抜け出せないまま、厳しい状況が続いている。
	×	スナック（経営者）	来客数の動き	・9月は休業しているため、何ともいえない状況にある。
	×	観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・緊急事態宣言が続いていることで、宿泊客数が大きく減少している。
	×	タクシー運転手	来客数の動き	・9月30日まで緊急事態宣言が延長され、飲食店の営業時間短縮、アルコールの提供停止要請が続いているため、夜間の飲食店や繁華街でのタクシー利用がほとんどみられない。売上は前年比でマイナス20%、コロナ禍前の前々年比ではマイナス60%と大きく落ち込んでいる。
	×	タクシー運転手	販売量の動き	・9月の売上は前々年の50%、前年の70%となっており、過去最悪を記録している。緊急事態宣言が発出されるたびに落ち込みがひどくなっており、回復速度も遅くなっている。現状は飲食、宿泊、交通などの一部業種の業績悪化にとどまっているが、今後は地域経済全体にも影響を及ぼすことが必至である。
	×	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・長引く緊急事態宣言の影響から、前年と比較しても著しく輸送量が減少している。
企業動向関連 (北海道)		食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・9月の販売量は前年比マイナス12%だったが、3か月前の6月の販売量は前年比マイナス46%だったことから、景気は良くなっている。
		家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大が収まりつつあることから、景気は良い方向に転じている。
		輸送業（支店長）	取引先の様子	・上期の受注量が前年と比べて若干上向きにあることから、景気はやや良くなっている。
		その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	受注量や販売量の動き	・売上の推移をみると、前月までの勢いはないものの、依然として前年を上回る状況が続いている。公共工事の発注が順調に推移していることから、しばらくは拡大傾向が続くとみられる。
		食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・前年と比べれば受注量は多少上向いているが、3か月前と比べると、状況はほとんど変わっていない。
		金融業（従業員）	取引先の様子	・足元の新型コロナウイルスの新規感染者数は漸減傾向にあるものの、9月一杯は緊急事態宣言下であり、経済活動の抑制が続いているため、コロナ禍の影響がみられた3か月前と状況は変わらない。
		司法書士	取引先の様子	・ワクチンを接種することで自粛が不要になるのかよく分からないこと、新型コロナウイルス変異株の発生もみられることなどから、景気判断が非常に難しくなっている。これからも新型コロナウイルスが経済全体に大きな影響を与えるとみられるが、ワクチン接種が進んでいることで景気も少しずつ上向くことになる。ただし、効果が現れるまでしばらく時間が掛かるとみられる。
		その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	取引先の様子	・緊急事態宣言期間中であるが、飲食以外の業種については健闘している。
		その他非製造業〔鋼材卸売〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・現場使用製品などのベース商材の動きが良くなく、内部での製作も少ない状況だが、大型受注案件の成約が増えており、売上自体は悪くない状況にある。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・今年度後半の案件の出方が鈍いことから、景気はやや悪い。
		建設業（役員）	受注量や販売量の動き	・手持ち工事は天候にも恵まれ順調に進行しているが、新型コロナウイルスの影響で経済活動の停滞が長期化していることで、新規案件の引き合いが減るなど、受注競争が一層厳しさを増している。足元の受注実績は、完工高、利益のいずれも年度計画を下回っている。
		輸送業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・ここ数か月、本州向けの生乳の出荷量が伸び悩んでいる一方で、バター在庫量が積み上がっている。また、飲料関連は見込みよりも動きが少なく、紙パルプは原料の古紙不足の影響が出ている。砂糖や粉乳などの農産物は新物の入庫に備えて若干の荷動きが出始めているものの、総じてみれば、北海道から本州向けの物量が例年と比べて落ち込んでいる。今後、農産物の収穫繁忙期を迎えることから、その効果に期待したい。
		司法書士	取引先の様子	・依然としてコロナ禍による営業活動の自粛が継続している。営業活動が低調にならざるを得ないため、景気が回復する要素がない。
		その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・スキルが低い人向けの仕事が減ってきている。
	x	-	-	-
雇用 関連 (北海道)		求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・9月の状況を見ると、求人件数が前年から10%ほど伸びている。特に医療福祉、スーパー、小売、派遣などが堅調に推移している。ただし、それ以外についてはほぼ横ばいでの推移となっている。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・求人数だけをみれば堅調に推移している。経営者に話を聞くと、既存の業務を正確かつスピーディーにこなす人材も必要だが、新しい発想を持った人材を採用したいと考えている一方で、そのようなスキルの人材になかなか出会えないとのことである。コロナ禍が続くなか、会社組織が変わらなければ、今後生き残ることができないという経営者の危機感が読み取れる。
		求人情報誌製作会社（編集者）	求職者数の動き	・飲食業において、季節型の請負、派遣や短期の紹介などで職を求めている人材が多いようである。非正規の求職者数が収入を確保するための行動とみられ、こうした動きが活発化している。
		求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・ここ数か月、大きな変化がみられない。緊急事態宣言が発出されると景気が落ち込み、解除されると盛り返すという動きが繰り返されている。
		職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・緊急事態宣言が続くなか、現状では特に改善したという話も、悪化したという話も聞いていないため、景気は変わらない。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・当地における8月の有効求人倍率は0.83倍となり、3か月前との比較では0.01ポイントの改善にとどまっていることから、景気は変わらない。
		職業安定所（職員）	それ以外	・8月の新規求人数が前年を上回っており、有効求人倍率が1.36倍となっている。ただし、今後、大手工場の事業撤退に伴って地域経済に影響が生じることが懸念される。
		学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・新卒者の求人状況を見ると、全体的に景気が上向きになっている傾向がみられるものの、飲食、観光、百貨店などでは先行き不安から採用の手控えが顕著である。また、コロナ禍のなか、業績が好調な業界も、採用計画は非常に伸長である。全体的な雇用動向としては、大きく変わっておらず、今後についても同様の状況がしばらく続く。
		求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・緊急事態宣言が長引いているなか、企業や店舗などの先行き不透明感が強くなっている。特に飲食業や宿泊業、それらと関連する周辺業種の募集意欲が低調になっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	x	-	-	-

2. 東北（地域別調査機関：公益財団法人東北活性化研究センター）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (東北)		-	-	-
		一般小売店〔寝具〕（経営者）	販売量の動き	・ようやく売上に徐々につながるような客との対面ができるようになった。
		スーパー（経営者）	お客様の様子	・イベント等のときは集客があるが、通常の販促時はそれほどでもない。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・6月時点の売上は前年比96.6%、来客数は前年比97.2%に対して、現在の売上が前年比100.9%、来客数は前年比99.4%となっている。売上、来客数共に月を追うごとに前年並みに近づいている状態である。
		家電量販店（店長）	販売量の動き	・季節的な商品は前年よりも売上が悪いが、テレビなどの大型商品が好調となっている。新型コロナウイルスの影響も収まりつつあり、客の購買意識も改善しているようである。
		乗用車販売店（従業員）	来客数の動き	・ワクチン接種が進んできており、サービス入庫による来店客が少しずつ戻ってきている。
		住関連専門店（経営者）	販売量の動き	・新型コロナウイルス新規感染者数が減少している。また、お彼岸で当店の主な客である高齢者が買物等にやや動き出しているため、売上もやや持ち直している。
		観光型旅館（スタッフ）	単価の動き	・来客数は3か月前と比べても変化はないが、客単価が2000円ほどアップしている。宿泊単価が高い部屋が3か月前と比べて5倍の売行きとなっている。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・サービスエリアの拡張により放送サービスの新規加入者が若干増えている。これまで無料のサービスを提供してきた特定エリアを有料化した。自宅時間が増えた影響もあり、有料契約に移行してくれる客が増えている。通信サービスも僅かであるが、純増で推移している。
		観光名所（職員）	単価の動き	・様々な場所での宣言解除により、来客数は少しずつではあるが増えている。さらに、訪れた客が金を使い単価が非常にアップしており、やや上向きになっている。
		その他住宅〔住宅展示場運営会社〕（従業員）	来客数の動き	・9月の来場者数は前年比約70%、過去5年平均比約65%となっている。週末の来場者数は少しずつ向上しているが、感染症対策の兼ね合いから集客を狙ったイベント開催はまだ難しい。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・割り増し商品券等の効果がみえず、景気が浮上する気配がない。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	来客数の動き	・客単価は良く、前年並みかそれ以上となっているが、来客数は相変わらず減少傾向にある。3か月前と状況は変わらない。
		百貨店（買付担当）	お客様の様子	・新規感染者数の増加、自治体のワクチン接種の遅れ、県独自の緊急事態宣言により、8月から状況がどんどん悪化していった。月中の緊急事態宣言解除後も状況は変わらず厳しかったが、月末になりようやく改善し、上向きになってきている。
		スーパー（経営者）	単価の動き	・月半ばまでは前年並みだった売上は後半失速している。平均1品単価は前年と同じ推移であり、来客数と買上点数は前年よりも減少している。結果として前月と同じになった。地域をみると、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置等、新型コロナウイルス感染対策の長期化により業績が一層厳しくなっているところも多い。また、今年の米価の低下、食品の値上げ、雇止め等雇用に対する不安の声もある。外出自粛や買い控えもある。よって消費動向は良くない。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・ここ4週で新型コロナウイルス感染の落ち着きがみられ、来客数への影響も弱くなっている。しかし、年末へ向けてまた増加する可能性もあり、来客数への影響を懸念している。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・来客数の減少が続き、厳しい状況である。客単価が下がっていないのが救いである。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響で人の動きが余りない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・来客数前年比は8月より90%前半で推移している。緊急事態宣言解除まで厳しい状態が続く。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・前月前半までは高気温により来客数が伸びた。その頃と前月下旬から現時点までのそれぞれの期間での来客数前年比を比較すると数値に下落が見受けられる。
		衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・売場は依然として客足が鈍く、人出が全くない状態である。外商で売上を作っているが職種により購入額に違いがみえる。電設関連の企業が順調のようである。
		衣料品専門店（総務担当）	来客数の動き	・コロナ禍における営業時間の短縮や消費動向の変化により、来客数及び買上点数が減少している。
		家電量販店（店長）	来客数の動き	・来客数が前年よりも少ない状況は変わらない。
		乗用車販売店（従業員）	来客数の動き	・新型車効果もあり、来客数は以前と比べ増加している。受注も増えつつあるが、販売単価はやや下がり気味である。トータルでは3か月前とほぼ変わらない。
		乗用車販売店（店長）	お客様の様子	・ここ数か月で各社の新型車発表が続いたこともあり、その話題性から来客数も多くなってきている。販売店としてはうれしいことといえるが、一方でメーカーの生産調整による長納期の影響も大きく、来場増が販売にうまく結び付かないのが現状である。
		その他専門店【靴】（従業員）	販売量の動き	・人口10万人当たりの感染者数が都道府県別で上位となり、来客数が更に減少している。
		その他専門店【白衣・ユニフォーム】（営業担当）	販売量の動き	・前年よりは観光地などに客が少し戻りつつあるが、それでも例年の半分以下で、そこから制服への注文にはならない。外食産業も同じく、地元のレストランや食堂からの注文はほぼゼロに等しい。
		その他小売【ショッピングセンター】（統括）	お客様の様子	・感染状況が落ち着いてきたせいで多少客足は伸びてきているが、まだまだ購買にはつながっていない様子が見える。
		高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・僅かだが、レストラン利用の客が増えてきている。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・低空飛行が続いている状況である。最近では感染状況が落ち着いてきたこともあり、来月以降の予約問合せの電話が多少入り始めているが、今のところはまだまだ客が来ない状況である。
		観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・緊急事態宣言は解除されたが、客足は思うようには伸びていない。
		観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・全国的に緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が出ている限り、消費者の経済活動は活発化しないとみている。
		観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・新規感染者数は減ってきたが緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が出ていることもあり、売上は低調のままである。
		旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・緊急事態宣言やまん延防止等重点措置による人流抑制により、個人旅行や団体旅行が上向きに転じるには至っていない。ワクチン接種と県をまたぐ移動の規制解除が業界にとっての生命線である。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・4～5月実施の修学旅行が9～10月に変更となっていたが、それも更に延期・中止が続いている。反面、自治体の受託事業の取扱が増えており、全体的には低調のままだが、総じて変わらない状況である。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・旅行業につき、感染者の動向と人流の影響が直結する。9月は緊急事態宣言等により中旬までは大変厳しい状況であった。前年はGo To Travelキャンペーンが部分的に開始していたこともあり、前年比でも厳しい状況であった。しかし、中旬以後は新規感染者数の減少に伴い受注は増加傾向にある。今後の行動規制緩和の中身によっては、需要が一気に噴き出すことにも期待が持てる。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・前月同様変化はない。高級志向が年々下がり、ブランド志向も変わり、良いものを安く購入する人が増えている。薄利多売のため変わらない。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・客の設備投資意欲に変化はみられない。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が継続している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		競艇場（職員）	来客数の動き	・元々多くはなかったが、緊急事態宣言が発出され時短営業を行ったため、来客数がますます減少している。
		その他サービス 〔自動車整備業〕（経営者）	お客様の様子	・コロナ禍による消費者マインドの疲弊は大きく、売れない状況が続いている。引き籠り状態で、前向きの明るい気持ちになれない人があふれている。
		住宅販売会社 （経営者）	販売量の動き	・少額資金の客向けに低価格の建売事業を始め、そこそこの受注はあるが、依然動きが鈍い。
		その他住宅〔リフォーム〕（従業員）	販売量の動き	・住宅設備機器については給湯器の納品遅れにより工事が減っている。リフォームについては増改築、塗装の大型工事が減っている。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・ワクチン接種者数は増加し、新規感染者数も減少傾向にあるものの、消費意欲が鈍く景気回復感はない。
		一般小売店 〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・新型コロナウイルス新規感染者数の増加が続いたことが影響し、夜の飲食店及び旅館関係への販売量が著しく減少している。週末の日中は多少なりとも人の動きはあるが、平日の夜ともなると繁華街でも人通りが全くないと客からは悲鳴があがっている。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	来客数の動き	・売上が極端に落ちるといってもなく、コロナ禍前とさして変わらない。しかし、全般的に来客数が減って、単価の高い客のみが残っているという状況である。
		百貨店（売場主任）	来客数の動き	・中旬以降はやや持ち直してきているものの、新型コロナウイルスの感染拡大により前月から来客数が前年割れの状況が続いている。
		百貨店（営業担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染第5波による感染拡大で来客数は大きく減った。落ち着きを取り戻したものの、回復の鈍さが続いている。
		スーパー（営業担当）	来客数の動き	・売上前年比は100.0%を維持しているが、来客数が97.8%で前年を割っている。巣籠り需要で好調な推移をしていた生鮮、日配部門が前年を割り込んできていて、特に酒、雑貨は前年から大きく割り込み、生活必需以外は慎重な買物動向になっている。
		スーパー（営業担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルス新規感染者数が減少傾向になっているが、来店頻度に変化はなく、まとめ買いも一時より節約志向に転じている。ポイントや割引サービスへの集中が増えていることから、価格競争が強まるのではないかと懸念している。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・来客数が増えず前年より減少している。それにつれて、たばこ、弁当等の主力商品の販売量は減少している。逆にスイーツやワイン、洋酒などの家飲み関係の需要が増えている。
		コンビニ（経営者）	お客様の様子	・一時期人流が増えたことで新型コロナウイルスの新規感染者数が爆発的に増え、人の動きがかなり鈍くなり来客数も減った。新型コロナウイルス新規感染者数はかなり減ってきているが、客自体の動きがなければ売上が厳しい状態が続く。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・夏場に予想以上に売上が上がらず、利益もかなり減った。今月も前年割れを起こしている。多様な施策により廃棄もかさんでいる。来月には最低賃金が上がり、再来月から除雪の支払も始まる。とにかく厳しい。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・来客数の減少を購入単価でカバーしている状況に変化がない。
		コンビニ（店長）	単価の動き	・9月は連休が多く、緊急事態宣言下にあったため、来客数はかなり厳しくなっている。しかし、前年を割ってはいない。
		衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・全国的な新型コロナウイルスの感染拡大から、少しずつ落ち着きを見せつつある。
		家電量販店（従業員）	販売量の動き	・単価の低い商品が購入されている傾向がある。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・部品欠品による新車納期遅れが発生し、売上が例年と比較して約50%減少している。
		その他専門店 〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	販売量の動き	・車両の動きが減ったことにより、燃料油の販売量は減少している。新型コロナウイルス感染対策の影響で落ち込んだ前年実績から更に10%減少している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		高級レストラン（経営者）	お客様の様子	・9月30日で緊急事態宣言等が解除されるが、コロナ禍において現在は非常に良くない。
		タクシー運転手	来客数の動き	・乗車回数を3か月前と比較すると、8～17時までの乗務で平均3～4回の乗車回数減少となっている。緊急事態宣言が解除され、まん延防止等重点措置へと移行されているにもかかわらず乗車回数が減っていることは、明らかに景気の悪化を意味しているといえる。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・今月前半は来客数が前年の8割程度まで落ち込んだ。しかし、まん延防止等重点措置が月末で解除となりそうな状況になってきたことから、前年比90%くらいに戻りつつある。景気は悪いが良い兆候もみられるようになってきている。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響もあるが、会社も余り良くないようで、客の動きが少なくなってきている。
		設計事務所（経営者）	競争相手の様子	・専門誌の官公庁案件の建築設計及び工事監理業務の落札率を確認すると、直接工事費にも満たない落札、最低制限価格や調査基準価格を想定した金額での応札の割合が増えていることから、低価格での受注が増え、状況が悪化していることがうかがえる。
	×	一般小売店〔書籍〕（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染者数とワクチンの接種状況を鑑みると、消費マインドは相当落ち込んでいるとみられる。
	×	一般小売店〔医薬品〕（経営者）	お客様の様子	・3か月前は時間短縮営業をしていたが、その後、緊急事態宣言の発出があり酒の提供が一切できなくなった。それが9月12日に終了したが、同時にまん延防止等重点措置に替わり、時間短縮営業となっている。客からは「酒を出せない繁華街は面白くない」という声が聞かれ、繁華街にほとんど客が来なくなっている。
	×	百貨店（経営者）	来客数の動き	・再び緊急事態宣言下となり、来客数が4割減少している。催事の中止、飲食店の時短営業など売上にも大きく響いている。好調だった高額商品も横ばい状態になっている。
	×	スーパー（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの影響により、原材料高による値上げ商品が相次ぎ、客の動向としても安いものを買いたい求める傾向がある。
	×	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・緊急事態宣言により人の動きが悪くなっており、来客数は大幅に減少している。新規感染者数が非常に多いこともあって、リモートワークや外出制限も徹底されており、前年と比べると、売上に非常に悪い影響が出ている。
	×	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスで停滞感があるのか、来客数が少ない。
	×	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・県独自の緊急事態宣言が解除され少しずつ人流は増えているようだが、来客数は余り増加していない状況である。
	×	衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・ここ数か月の動きを見ていると、お盆前後くらいから非常に景気が悪くなっている。都会からの来訪や東京オリンピック等々で人流が制限され、さらに8～9月の緊急事態宣言により大変悪い状態が続いた。そこから浮かび上がってきていないというのが現状である。
	×	住関連専門店（経営者）	販売量の動き	・個別注文家具なので、大型の物件がなければ販売量も増えない。
	×	その他専門店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・7月からここまで飲食店と店頭販売の両方が悪い状況が続いていた。店頭販売がやや持ち直したものの、まだまだ厳しい状況が続いている。
	×	その他専門店〔食品〕（経営者）	来客数の動き	・2年前と比べて来客数が半分以下である。緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の対象地域ではないが、県から不要不急の外出はしないようにいわれている。店舗も個人も感染対策をしているのに、責任を負いたくないのだろう。
	×	一般レストラン（経営者）	それ以外	・緊急事態宣言から移行し、9月30日まではまん延防止等重点措置が適用されている。現在休業中なので良くはない。
	×	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・今月は緊急事態宣言やまん延防止等重点措置により店が営業できなかったり時短営業だったりしたため、まともな営業ができず、比較する対象にならない。売上が全く立たない日があり、決して良い状態ではない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	x	一般レストラン（経営者）	お客様の様子	・相変わらず新型コロナウイルスに対する警戒心は高い。仕事途中の食事も含めランチタイムの来店はあるが、夜はゴーストタウン並に街が静まり返っており、飲食店はまだまだ厳しい状況である。
	x	タクシー運転手	お客様の様子	・ワクチン接種が大分進み2回目が終わった人もかなり多くいる。しかし、日々の生活においては、景気が上向くほど人が動いてはいない状況である。
	x	通信会社（営業担当）	販売量の動き	・スーパー系の小売業は好調だが、飲食業は廃業に追い込まれる店舗が散見される。宿泊施策も厳しい状況が続いている。
	x	遊園地（経営者）	来客数の動き	・8月からまん延防止等重点措置、緊急事態宣言発出、まん延防止と推移した影響が大きい。さらに、前年の4連休が3連休となり、前年比で大きく下回っている。
企業 動向 関連 (東北)		建設業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・取引状況については良くなっている。街中でも新規着工している様子が見られる。
		金属製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・カメラ業界は、全体的に受注状況が良い。
		農林水産業（従業者）	受注価格や販売価格の動き	・農協出荷分のももの精算書は遅滞の影響による品不足のため、例年より2割程度販売単価が高くなっている。
		食料品製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・販売量が前年比95%となっており、前年割れの状態に変化はない。
		出版・印刷・関連産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・今年も秋のイベントが軒並み中止となり、印刷物の注文がない。
		出版・印刷・関連産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・3月期末までに新型コロナウイルスの感染が収束状態にあれば、来年度に向けた動きが少しずつ発生するかもしれない。しかし、見通しが立たない今の状態では景気回復までに1年は要するのではないかとみている。
		電気機械器具製造業（企画担当）	受注価格や販売価格の動き	・半導体製品の大口価格が徐々に下降している。しかし、これは従来の傾向であるため、景気としては大きな変化はない。
		輸送用機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・半導体不足の影響による部品供給の停滞など、大きくはないが影響を受けている。
		建設業（従業者）	それ以外	・新型コロナウイルスの影響で売上が減少したなどの直接的なことはない。ただし、現場で新型コロナウイルスに感染した作業員などが出れば、現場が止まるため工期が延長になるなどの影響はある。
		建設業（従業者）	受注量や販売量の動き	・一定の受注契約はあったものの、大型の受注はない状況である。
		輸送業（経営者）	受注量や販売量の動き	・9月に入って若干ではあるが売上が前年並みのところまで戻ってきた。上半期の売上は前年比99%である。ただし、前々年比だと85%であり、依然として厳しい状況である。
		通信業（営業担当）	取引先の様子	・客もりネットワークにシフトするニーズに変わりつつあり、その傾向に合わせていく必要を感じる。
		広告業協会（役員）	受注量や販売量の動き	・新規感染者数は減少傾向にあるが、秋の行楽シーズンに関する広告出稿は前年同様全くみられない。イベントの中止も多く、厳しい状態が依然として続いている。
		広告代理店（経営者）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスによるイベント中止などが引き続きある。
		経営コンサルタント	それ以外	・街の様子をみていると、緊急事態宣言発出、まん延防止等重点措置などがガラガラと続き、ひっ塞感が停滞している印象を受ける。
	その他非製造業 [飲食料品卸売業]（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・新型コロナウイルスの感染が収まってきていると認識している。2～3か月前よりは商品の流れが良くなっている。しかし、価格の安いものが主流で動いており、コロナ前と同様の商売に戻っているかという点と分りかねる。	
	その他企業 [企画業]（経営者）	それ以外	・緊急事態宣言の中でいまだ先は見えず、町内の温泉街も景気回復というような状況にはなっていない。	
	農林水産業（従業者）	受注価格や販売価格の動き	・農協の米買入概算金が確定し、前年比で大幅下落となっている。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
		食料品製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・時短営業要請、酒類提供の制限等で飲食売上は依然として厳しい。土産品の動きも鈍く、生産数を極力落として様子を見ている状況である。	
		窯業・土石製品製造業（役員）	受注量や販売量の動き	・業界の出荷は4月以降、前年比10%減少で推移しており、上向き気配がない。	
		金融業（広報担当）	取引先の様子	・新型コロナウイルス感染の一服感とともに観光、宿泊関連が活気を取り戻しつつあった。しかし、東京オリンピック開催前後から県内でも感染が再拡大し、県外からの人の流れも再び細った。9月には県が独自の対策により、人の移動や密状態形成の自粛を主導している。その結果、個人消費も伸び悩んでいる。	
		広告代理店（経営者）	受注量や販売量の動き	・まん延防止等重点措置が9月末までとなったが、正直、何も良い方向に向かっていない。解除後の10月以降に期待するしかない。	
		公認会計士	取引先の様子	・客の月次、決算状況から判断している。飲食、小売、サービス業は相変わらず低空飛行で、ここに来て住宅関係の建設業も業績が少し落ちてきている。全体として景気は悪くなっているとみられる。	
		コピーサービス業（従業員）	受注量や販売量の動き	・半導体の品薄状況に変化はなく、メイン商品であるIT機器の入荷が遅れた状態が続いている。他の商品でカバーしようとしたが埋めきれしていない。	
	x	食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・4～7月までは前々年よりは悪いが前年よりはプラスで推移していた。しかし、8月からは前年も割るようになってきた。新型コロナウイルスの影響で当県も緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が出ているため、売上がかなり厳しい。	
	x	その他非製造業 [飲食料品卸売業]（経営者）	受注量や販売量の動き	・県内の緊急事態宣言は解除されたものの、まん延防止等重点措置の適用により、市内飲食店での酒類の提供停止要請が継続している。	
雇用 関連 (東北)		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・定期大口派遣の依頼とワクチン接種関連の派遣業務などにより、3か月前から安定して明るい。	
		人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・求人数の増加に伴い、求職者の登録者数も増加傾向になっている。求職者側の転職理由を見ていても、一時は業績不安や年収減少に伴う転職の比率が高まったが、前向きな転職理由の人の活動意欲が高まっている。	
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・コロナ禍が続いていて、あらゆる業種で企業の事業の成長が止まっている印象を受ける。飲食業はもちろん物流、倉庫、専門商社といった各企業からの求人はここ数か月停滞した状況が続いている。	
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・現状、企業側の採用の動きも大きな変化はない。年内はこの動きは続くと考えられる。	
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・求人数はほぼ横ばいである。	
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人数に大きな増減はない。	
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・3か月前と比較して、新規求人数、有効求人数共にほぼ同数となっている。	
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・販売、接客に関する需要が伸びず、停滞が継続している。	
		アウトソーシング企業（社員）	求人数の動き	・求人を出したが応募者が例年よりかなり多い。多くの職場で仕事を失っていることが分かる。	
		新聞社 [求人広告]（担当者）	それ以外	・新型コロナウイルスによる影響でイベント中止が相次ぎ、広告の出稿が減少している。	
		職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・製造業を中心とした事業所からの採用意欲はコロナ前の水準に戻りつつあったが、半導体不足の影響が長引くとともに別の原材料値上げが経営を圧迫しているという声が聞こえてきている。	
		学校 [専門学校]	周辺企業の様子	・県独自の緊急事態宣言が発出され、自粛の要請により、各企業の動きや活動が鈍化したとみている。	
		x	新聞社 [求人広告]（担当者）	それ以外	・コロナ禍により社会活動が停滞している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	×	新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・緊急事態宣言発出に伴い、若干動きが見えた経済活動、イベント、広告などが一気にストップし、7～8月の売上が急減している。今月も先が見通せず動きは止まったままである。経済活動再開の見極めもできず、宣言が解除されてもしばらく様子見が続きそうである。

3. 北関東（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北関東)		-	-	-
		商店街（代表者）	お客様の様子	・新型コロナウイルスのワクチン接種の進展で、新規感染者数の減少がみられるものの、来街者が増えている様子はない。店の売上も伸び悩んでいるなか、客からはワクチン接種の進展に期待する声が、多く聞かれる。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	販売量の動き	・3か月前と比較すると、販売量は今月の方が良く、景気が上向いてきていると感じられる。新型コロナウイルスの新規陽性者数が減少傾向になると、当社の売上は少し上向く。しかし、新型コロナウイルス以前の2019年度と比較すると、売上達成度は3割前後で推移しており、依然として厳しい状態である。
		百貨店（店長）	来客数の動き	・8月以降、緊急事態宣言発出が継続しているが、新型コロナウイルスの感染者数減少やワクチン接種率上昇とともに、徐々にではあるものの、来客数が増加傾向にある。これに伴い、売上も徐々に増加しつつある。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・10月1日からたばこが値上がりするため、まとめ買い等の客がいる。そのほかにも気温の高い日も続いたため、やや良くなっている。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・前年比で売上103%、来客数96%、単価107%となっている。売上微増で推移するものの、夜時間帯の来客は戻らず、来客数は前年割れである。新型コロナウイルスの影響は大きい。リモートワークの浸透により、人の流れは大きく減少し、土日の観光客も減り、交通量が少なく感じる。
		家電量販店（店長）	お客様の様子	・緊急事態宣言が解除されれば、多少は販売に動きが出る。
		都市型ホテル（支配人）	来客数の動き	・緊急事態宣言解除の見込みもあり、徐々にではあるものの来館者数が増えている。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・緊急事態宣言解除の見込みで、少し先が見えつつある。しかし、従来までに戻るには程遠い。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスのワクチン接種の進捗で、少しずつ客足が戻り、エステのオプションメニューや高額な化粧品購入が増え始めている。
		設計事務所（所長）	お客様の様子	・アフターコロナを見据えた居住場所等検討の動きが活発になっているようである。
		百貨店（営業担当）	来客数の動き	・今月に入り、新型コロナウイルス感染者数は減少しているが、依然緊急事態宣言下でもあり、顧客の自粛傾向は継続している。一部富裕層による高額消費はあるものの、厳しい状況に変わりはない。
		スーパー（商品部担当）	販売量の動き	・来客数、客単価共に、ほぼ横ばいで推移している。緊急事態宣言が発出されても、以前のような変化はない。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・売上自体は前年比100%でも、来客数が93%と落ち込んでいる。その分客単価が上がっているが、客の減少が少し気になっている。新型コロナウイルスということも考えると、売上自体はまあまあだと思いが、不安要素もあるので変わらない。
		衣料品専門店（統括）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染防止対策が発出されてから、2年が経過する。経済活動はなかなか元気が出ない状況であった。今になると、何か個人的な期待を持ちたいということなのか、自己アピールをするための商材の動きが出てきている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		衣料品専門店 (販売担当)	来客数の動き	・何か月も前から相当悪い状態が続いたままである。特に、当店の顧客は高齢者がほとんどなので、緊急事態宣言下で自己防衛に走り、全くといってよいほど人出がない。景気ウォッチャーとして判断をできる材料が何もないほどひどい状況である。新型コロナウイルスのワクチン接種のお陰で、ある程度先が見えてくるのではないかという希望的観測を含めて、変わらない。
		乗用車販売店 (経営者)	販売量の動き	・当地域の自動車メーカーは、相変わらず半導体不足や新型コロナウイルス禍による労働生産性の落ち込み等により、生産体制は辛い状況となっている。これは当地域だけの話でなく、国内全体の自動車メーカーにもいえることではある。
		自動車備品販売店 (経営者)	来客数の動き	・3か月前は販売量も人の動きもかなり低迷していた。現在は販売量はそれほど伸びていないものの、少しずつ客が顔を出してくれるようになってきている。努力次第で、販売量も伸びるのではないかと期待している。
		住関連専門店 (店長)	競争相手の様子	・緊急事態宣言下で飲食業を中心に時短営業となり、廃業が増えている。
		旅行代理店(所長)	来客数の動き	・今月末まで、当県並びに首都圏を始め各地で緊急事態宣言が発出されており、教育旅行を中心にほとんどの案件が中止に追い込まれている。秋の行楽シーズンに入り、週末や連休を中心に個人客の動きは見られるものの、限定的だと感じている。
		タクシー(経営者)	お客様の様子	・昼の動きがやや良かったので、前年同月比7%の増収である。ただし、2年前の同月と比べると35%減少している。
		通信会社(営業担当)	販売量の動き	・量販店や携帯会社等では新型スマートフォンの販売による来客数増加はあるものの、実際の販売数には大きく影響がなく、厳しい状況が続いている。
		通信会社(局長)	来客数の動き	・販売量、来客数の動きに変動はないが、広告宣伝の要望が出てきている。
		テーマパーク (職員)	来客数の動き	・首都圏の緊急事態宣言が延長中のため、学生団体のほとんどがキャンセルになり、個人客も低調である。また、天候不順な日も多く、来園者が伸びない。
		競輪場(職員)	来客数の動き	・8月末から緊急事態宣言が発出されたことにより、今月は無観客開催や場外発売中止となったため、来場者はいない。
		設計事務所(所長)	お客様の様子	・新型コロナウイルスのワクチン接種率はかなり上がってきているものの、緊急事態宣言発出の影響等もあり、まだしばらくは景気が上向くとは思えない。
		住宅販売会社 (経営者)	お客様の様子	・やはり新型コロナウイルスのせいか、飲食店の撤収、閉鎖が目立ってきている。街なかをみても、貸店舗のシャッターが下りて、テナント募集の看板が目につく。アパート関係は、人の動きが止まっているようでほとんどない。同様に、土地の動きも停滞気味である。
		その他住宅[住宅管理・リフォーム](営業)	販売量の動き	・新型コロナウイルス禍により、在宅時間が増えたためか、家のちょっとした修繕の依頼が多い。しかし、リフォームと呼べるほどの規模の物は少ない。
		百貨店(店長)	販売量の動き	・一昨年同月と比べて、売上が2割近く落ちている。
		家電量販店(営業担当)	販売量の動き	・前年はまだテレワーク商材が動いていた影響もあり、買物点数が多かったが、現状は前年比87%と苦戦している。
		乗用車販売店 (販売担当)	販売量の動き	・自動車販売店だが、半導体不足の影響で、仮に契約しても納車ができないような状態である。キャンセルが相次いでいるので、これからしばらくの間、景気は良くない。
		乗用車販売店 (販売担当)	販売量の動き	・現在、緊急事態宣言が発出されているので、来客数が圧倒的に少ない。それに比例して、販売量の動きや整備関係の入庫台数も減少しており、2～3か月前と比べて何もかも段々悪くなっている感じだが、このあたりが底ではないか。観光客は緊急事態宣言を無視しているのか分からないが、観光地には、ぼちぼち人が来ている。ただし、売店、レストラン、ドライブイン関係には全く客が入っていない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		任関連専門店 (仕入担当)	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数は減少しているが、来客数に伸びが見られない。一つの要因は降雨の多さによるものかと思うが、緊急事態宣言下というマインドが消費の停滞を招いている。
		その他専門店 [靴小売業] (経営者)	来客数の動き	・この3か月、来客数は前年比80%が続いている。新型コロナウイルスの影響で、高齢者だけではなく若い世代の家族客でも動きがない。学校行事がストップしているのが、大きな原因になっている。10月の緊急事態宣言解除では、はっきりと線を引いて、行動をしてほしい。
		その他専門店 [燃料] (従業員)	販売量の動き	・受注が減少しており、非常に厳しい。
		その他飲食 [給食・レストラン] (総務)	販売量の動き	・事業所給食部門の社員食堂等は、受託企業の夏休み等の影響も例年と変わらず、提供食数、売上共に変動は少ない。その一方、レストラン部門は緊急事態宣言期間延長の影響を大きく受け、前年と比較しても来客数が大きく減少し、売上が更に半減した店舗もある。
		通信会社 (総務担当)	来客数の動き	・緊急事態宣言発出による外出自粛の影響がみられる。
		その他サービス [自動車整備業] (経営者)	お客様の様子	・新型コロナウイルス禍が浸透しているせい、相変わらず財布のひもは固い。見積依頼だけの客も増えている。
	×	一般小売店 [青果] (店長)	販売量の動き	・結婚式場、ホテル等の大口取引先が全面休業状態のため、大きく荷物を動かすことができない。
	×	家電量販店 (店員)	販売量の動き	・好調な商材はパソコン本体のみで、他の商材群はほとんど前年割れである。前年同月比83%、前月比86%と消費の落ち込みが顕著である。
	×	一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・緊急事態宣言発出中で人出は少なく、テイクアウトも以前とさほど変わらない。売上は大きく減少している。
	×	一般レストラン [居酒屋] (経営者)	来客数の動き	・緊急事態宣言発出中のため、休業している。居酒屋なのでアルコール提供停止の影響は多大である。
	×	都市型ホテル (経営者)	販売量の動き	・当県への緊急事態宣言発出により、飲食店や観光業への客の動きが止まり、新型コロナウイルス以前と比べて10%程度の売上となっている。もう限界である。
	×	都市型ホテル (総支配人)	来客数の動き	・緊急事態宣言発出の影響もあり、9月は前年と比べても売上が大幅に落ち込んでいる。
	×	旅行代理店 (経営者)	販売量の動き	・9月中は緊急事態宣言発出の影響で、団体旅行はゼロとなっている。カウンターに来店する個人客も数件で、全然採算ベースに乗らない。
	×	タクシー (役員)	それ以外	・国の新型コロナウイルス対策が余りにもレベルが低いことが悪くなっている原因である。
	×	ゴルフ練習場 (経営者)	来客数の動き	・今回の緊急事態宣言で、できるだけ新型コロナウイルスを沈静化させたいという希望が客からも聞かれる。そのため、外出を控えているようである。
企業 動向 関連 (北関東)		-	-	-
		-	-	-
		窯業・土石製品 製造業 (総務担 当)	受注量や販売量 の動き	・大きな変動もなく、粛々と稼働している。
		金属製品製造業 (経営者)	受注量や販売量 の動き	・売上目標3000万円に対して2100万円前後と、7割くらいである。
		電気機械器具製 造業 (経営者)	受注量や販売量 の動き	・受注量はそこそこあるが、全ての部材が入手困難で、段々と物が作れなくなっている。当社だけでなくそこらの会社がそうなる。大手の自動車メーカーさえ、部材が足りなくて操業が止まっている。当社もそろそろ限界が近づいている。納品できなければ売上はないので、危ない状況になる。
	輸送用機械器具 製造業 (経営 者)	取引先の様子	・取引先の様子について、7～8月はやや良いと感じていたが、9月は主要な取引先等で、若干落ちているようである。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		輸送業（営業担当）	取引先の様子	・9月に入り、初回の冬物家電、こたつ、カーペット等の荷物量が増えている。また、新型コロナウイルスの影響による巣籠り生活での調理家電、電気圧力鍋、ホットプレート等の物量も増え、全体的には予定どおりの物量確保ができています。しかし、前年比10%ダウンの物量で、燃料価格高騰も続いており、利幅は薄くなっている。
		広告代理店（営業担当）	受注量や販売量の動き	・相変わらず受注は少なく、何も良くなっているはいない。
		司法書士	受注量や販売量の動き	・私どもの仕事は、業種的に必要に迫られて来る客ばかりなので、余り大きな変化はない。今年の9月は一般的には大変だったと思うが、それでも余り変わっていない。
		その他サービス業〔情報サービス〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・緊急事態宣言下で、活動が抑制され影響が出始めてきている。
		一般機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・国内主要自動車メーカーの組立ラインの稼働停止の影響が色濃く出ている。関連メーカーの多くで休業日数を増やしている。
		不動産業（管理担当）	受注量や販売量の動き	・緊急事態宣言期間延長により、管理物件の飲食テナントが休業を延長している。清掃等の維持管理作業の再開も延期になったため、今月見込んでいた売上が減少している。
		経営コンサルタント	それ以外	・緊急事態宣言期間延長の影響が大きく、飲食店等の営業自粛と時短等もあり、商店街や商業施設の出店はさっぱりである。地域の経済活動の沈下が甚大である。
		社会保険労務士	取引先の様子	・緊急事態宣言が延長されて厳しい状況が続いているものの、製造業で半導体不足の影響のない事業所は元に戻っている。
	x	輸送用機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・従来からの半導体不足に、ベトナムでのロックダウンにより海外からの調達部品が欠品し、完全に自動車生産が停止してしまっている。
	x	建設業（開発担当）	受注量や販売量の動き	・公共工事主体で売上の95%を占める建設業を営んでいる。今期公共工事は前年比12%減で、当社受注も前期比10%減と厳しい状況である。
雇用 関連 (北関東)		-	-	-
		人材派遣会社（経営者）	求人数の動き	・緊急事態宣言解除が決定されたので、飲食店全般に求人募集傾向がみられる。住宅、土木関連では職人募集が出ている。生産関係では、大手自動車メーカーの減産影響や材料等をなかなか調達できない中小企業等があるようで、工業団地の従業員が通勤する車も少ない目である。
		人材派遣会社（社員）	周辺企業の様子	・周辺の会社経営者の方と話す機会があるが、「新型コロナウイルスの影響から、大きく改善してきているということはなく、いまだ不透明である」という意見が多い。
		人材派遣会社（管理担当）	採用者数の動き	・派遣依頼が多くなり、採用数も上昇しているため、やや良くなっている。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・前年同月比では事務系の派遣依頼数が増加している。増加理由は業績向上による増員ではなく、退職者の補充が多い。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・前年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響等により求人が落ち込んでいたが、今年は回復傾向にある。産業別にみると、半導体需要が高まっている影響で、電子機器等の半導体原材料製造業や、災害復旧作業等の需要による電気機械器具製造業からの求人が多くみられている。
		職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・緊急事態宣言発出により、休業要請が出されている事業所及びその取引事業所からの、雇用調整助成金申請が増加している。
		学校〔専門学校〕（副校長）	求人数の動き	・新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言発出が続くなかではあるが、経済は少しずつ前進しているように感じる。しかし、業界によっては求人がなく、相変わらず学生の就職活動は厳しい状況となっている。
		-	-	-

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	x	*	*	*

4. 南関東（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (南関東)		一般小売店〔生花〕（店員）	販売量の動き	・9月はお彼岸があつたので、お墓参りの仏花がよく売れた。お祝いの花は相変わらず時々売れるくらいである（東京都）。
		一般小売店〔家具〕（経営者）	販売量の動き	・7～8月は客が非常に少なく厳しい状況であったが、9月に入って多少は客が戻ってきて、成約率も上がっている（東京都）。
		一般小売店〔文房具〕（経営者）	来客数の動き	・9月は緊急事態宣言中であつたが、7～8月に比べて来街者が増加傾向にあり、当店の来客数も若干ではあるが増えて、売上が大きく落ち込むことはなかった。また、飲食店でも通常営業をするところが出てきており、会計伝票など飲食店向け商材の業務需要が伸びてきている（東京都）。
		一般小売店〔書店〕（営業担当）	販売量の動き	・依然として新型コロナウイルスの影響が残っているが、秋期、新学期用の販売量は確保されている（東京都）。
		百貨店（売場主任）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染状況に全て影響されている。感染者数の高止まりの際には、店舗の一部休止や、時短営業のテナントなどの影響が大きく、商況が厳しかった。9月後半の3連休頃からは来客数の戻りがみられ、家族連れのみ来店が多くなり、来客数は上向き傾向にある（東京都）。
		百貨店（営業担当）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数の著しい増加により来客数は減少していたが、今月中旬からは増加してきて、合わせて売上も伸びている。ただし、地方や海外からの観光客が回復していない状況では、し好品に動きがなく、厳しい状況は継続している（東京都）。
		百貨店（経営企画担当）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染者数も減少傾向にあり、緊急事態宣言解除の話が出てきたことに伴い、客の購買意欲も若干高まってきているように感じる。月中にポイントアップ期間を設定したところ、食料品以外の動きも徐々にみられるようになってきている。以前の状態に戻るまでの力強さはないものの、少し明るい兆しが見えてきている（東京都）。
		百貨店（店長）	来客数の動き	・9月の来客数は前年比102%で推移している。
		スーパー（総務担当）	お客様の様子	・緊急事態宣言が解除される見込みであり、浮き足立つ様子がうかがえる。
		乗用車販売店（営業担当）	来客数の動き	・納期が先になることが分かっても注文する客が増えている。
		乗用車販売店（総務担当）	販売量の動き	・新車販売は前年より悪化してはいるものの、在庫売りを徹底し、量を確保している。中古車は小売、卸共に順調に推移している。
		住関連専門店（営業担当）	お客様の様子	・新型コロナウイルスのワクチン接種の進展により、消費者のマインドは徐々に好転していると感じる（東京都）。
		その他専門店〔貴金属〕（統括）	販売量の動き	・接客数が少ない状況に変化はないが、接客した場合は、売上につながるが多くなっている（東京都）。
		その他飲食〔給食・レストラン〕（役員）	販売量の動き	・取引先の新型コロナウイルス対策も前年に比べて落ち着いており、販売量が着実に増加している（東京都）。
		都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・緊急事態宣言の解除により徐々に予約が入ってきている。特に、当日の予約が大幅に増えている（東京都）。
	旅行代理店（販売促進担当）	販売量の動き	・今月は、前半に遅い夏休みの旅行、中盤以降は連休があつたので、国内個人旅行を中心に販売が進んでおり、まだまだ少ないものの、大分客が動いてきた実感がある。加えて、新聞広告などの媒体も出てきているので、秋の紅葉シーズンに向けた販売も始まり、動き出している（東京都）。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		旅行代理店（営業担当）	お客様の様子	・緊急事態宣言が今月末に解除される予定ということで、僅かではあるが個人旅行の申込みが徐々に増えてきている。新型コロナウイルスの感染状況を現在の低い水準で抑えることができれば、秋の旅行シーズンに向けて旅行需要の増加が期待できる。
		通信会社（社員）	お客様の様子	・前月の停滞感から一転、番組提供の引き合いが出てきており、前年よりも増えている。今月、成約になった案件もあり、上昇基調にあると実感している（東京都）。
		通信会社（経営企画担当）	販売量の動き	・案件件数、契約件数が増加しており、少しずつ動き出した感じがある（東京都）。
		その他レジャー施設 [ボウリング場]（支配人）	お客様の様子	・来場者の再来場の回数、予約状況から、財布のひもが多少緩んできてきている気がする（東京都）。
		その他レジャー施設 [複合文化施設]（財務担当）	お客様の様子	・新型コロナウイルスのワクチン接種の進展により、来場者数が増加しつつある（東京都）。
		一般小売店 [家電]（経理担当）	来客数の動き	・9月になっても相変わらず来客数は少ない。
		一般小売店 [家電]（経理担当）	販売量の動き	・いろいろな物を少しずつという販売になっている。新型コロナウイルス禍が長く続いているので、必要になった物を買うという感じである。キャンペーンもできていないので、こんな感じかと受け止めている。
		一般小売店 [印章]（経営者）	来客数の動き	・当店は、アーケード街などではなく、単独の路面店だが、やはり購入目的で来店する客が非常に少なくなっている。こういう状況下なので、インターネット販売などに客が流れているのではないかと。
		一般小売店 [祭用品]（経営者）	来客数の動き	・緊急事態宣言下では、イベント、行事が行われず、需要がない。
		一般小売店 [傘]（店長）	来客数の動き	・目的のある人が買物に出ているため、用事のある客しか来店しない。
		一般小売店 [文具]（販売企画担当）	それ以外	・本来は、9月に大口案件が決まっていたので、もっと伸びるかと思っていた。店頭部門に関しては、支店の真下や横にあった銀行やATMが地域から撤退し、来客数が激減している。外商部門は大口案件でぐっと伸びると思っていたが、営業社員1人に新型コロナウイルスの家庭内感染が発生したため、なかなか思うように伸ばすことができなくなってしまった。
		一般小売店 [茶]（営業担当）	来客数の動き	・自宅用、ギフト需要共に戻りつつあり、来客数、売上共に伸びてきている。
		百貨店（総務担当）	お客様の様子	・月初の天候不順、緊急事態宣言延長などを受け、来店客数に影響があった。また、来店しても目的があって来店しているため、店内に滞留する時間が短くなっている。後半は新型コロナウイルス感染者数の減少、10月1日からの緊急事態宣言解除を受けて一部盛り返したものの、全体を通して厳しい結果となっている。
		百貨店（総務担当）	お客様の様子	・今月については緊急事態宣言が継続中であり、客の動きは依然として慎重であることに変わりはない。商環境としては、相変わらずファッション関連商材の動きが鈍く、現状の自粛ムードの中で、客の消費の行き先が定まらない苦しい状態が続いている（東京都）。
		百貨店（総務担当）	来客数の動き	・緊急事態宣言による人流抑制強化が図られ、来客数が少ない状況が続いている（東京都）。
		百貨店（営業担当）	来客数の動き	・巣籠り、在宅などのニーズで、前年はスキンケアアイテムが伸長したが、それも一巡し、結果的に来客数が少なく、厳しい状況が続いている（東京都）。
		百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・緊急事態宣言が今月末まで延長され、来客数、売上共に改善はみられない（東京都）。
		百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・緊急事態宣言中のため制約されることが多い（東京都）。
		百貨店（財務担当）	販売量の動き	・月末に掛けては新型コロナウイルス感染者数の減少もあり、回復基調にあるものの、月半ばまでの悪化により、ひと月を通して見ると大きな変化はない（東京都）。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		スーパー（販売担当）	単価の動き	・競合店との価格競争があり、主力商材や重点商材の価格が下がっている。客の買上点数は前年を上回っているが、平均単価が下がっている分、客1人当たりのトータルの買上額がなかなか前年を上回る状況にならない（東京都）。
		スーパー（経営者）	販売量の動き	・今月は8月よりも前年比ベースでは少し良くなっている。天候が比較的良かったことと、お彼岸も前々日は雨だったが、それ以外は比較的良かったこともある。加えて、月前半は新型コロナウイルスの感染が拡大していて巣籠り需要があった。後半になって感染者数が減ってきて、徐々に客がいろいろなところに行くようになり、やや需要が減ってきたように感じている。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・緊急事態宣言下であっても、かなりの時間が経過しているため、客の購買行動は緊急事態宣言前と変わらない。ただし、酒類については、外食ができないため販売数が伸びている。
		スーパー（店長）	単価の動き	・買上点数、客単価は前年並みを維持しているものの、商品単価の上昇がみられない（東京都）。
		スーパー（総務担当）	お客様の様子	・今月は、食料品は前年を4%ほど上回っているが、食品以外の衣料品、住まいの品などが非常に苦戦しており、トータルすると前年とほぼ同様の売上となっている。来客数は前年を若干下回っているものの、買上単価が僅かに上回っているために、売上は前年並みとなっている。ただし、10月からの値上げを控えている商材があるなかで、食品の売上がそれほど伸びていないということも多少懸念材料としてある。
		スーパー（営業担当）	単価の動き	・葉物やトマトを中心とした青果など、野菜関係が全体を押し上げており、単価が上がっている。ただし、来客数が若干伸び悩んでいるため、その分が相殺されている（東京都）。
		スーパー（仕入担当）	販売量の動き	・今月も前月に続き買物頻度は減っているものの、1回の買上点数が多く、客単価が上がっているため、前年、前々年の売上は上回っている。
		スーパー（ネット宅配担当）	販売量の動き	・野菜は相場高だが、売上が伸びてこない。緊急事態宣言も日常化しており、特に売上を大きく伸ばす要因にはなっていない。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・買上点数が少ない。理由はまだ分析中である。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・県内のショッピングセンターにも出店しているが、来客数が土日も含めてやはりまだ圧倒的に少ない。最近少しずつ増えてきてはいるが、緊急事態宣言下での自粛が続いており、まだまだ戻っていない。
		コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・客の自粛ムードから販売量、来客数の動きが鈍い。特に繁華街の店舗は継続して厳しい（東京都）。
		コンビニ（商品開発担当）	販売量の動き	・前年に比べて降雨が多く、さらに、気温の低い日も続いたため、全体的な購買量が下がってきている。また、買物頻度も少なくなっている（東京都）。
		衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・寒さが早く訪れ、実用衣料品の売上が良いが、外出着の動きは相変わらず良くない。
		衣料品専門店（店長）	販売量の動き	・9月のイベント催しの結果及び店舗売上状況をみると、計画比で7割となっている（東京都）。
		衣料品専門店（役員）	販売量の動き	・気温が高い影響もあるが、秋物衣料の出足が鈍い。ふだん着や必要最小限の物しか買っていない。
		家電量販店（店長）	お客様の様子	・客足が鈍いことと、商材の価格比較が多くなっている感じがする。高単価商材の動きが少ない（東京都）。
		家電量販店（経営企画担当）	来客数の動き	・9月に入り、首都圏は緊急事態宣言下で、新型コロナウイルス感染症の第5波収束の兆しが見えてきてはいるが、行動抑制が掛かる状況には変わりなく、営業面でも同様である（東京都）。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・自動車の整備は順調に入っている。販売は余り芳しくないが、今月は少しずつ良くなっている。
		乗用車販売店（販売担当）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの影響で、緊急事態宣言が発出されている限りはいろいろなイベントができないため、売上が全体的に落ちている。特に、新車の発表会やイベントにおいて新たな注文を確保できない状況で、販売が拡大できないため、まだ決して良くはない（東京都）。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		乗用車販売店 (店長代行)	来客数の動き	・9月は決算月で売れる月ではあるが、今年は車の納期の長期化や、新型コロナウイルスの影響があり、例年とは違う決算内容である(東京都)。
		その他専門店 [ドラッグストア](経営者)	販売量の動き	・販売量が前月とほとんど変わらない。
		その他専門店 [ガソリンスタンド](団体役員)	来客数の動き	・台風一過の連休は、久しぶりに燃料油、油以外の商材共に好調だったが、それ以外は新型コロナウイルス禍や悪天候等により、売上は低調である(東京都)。
		その他小売 [ショッピングセンター](統括)	販売量の動き	・東京オリンピック開催期間中の医療崩壊の影響が残っており、消費者心理が相当冷え込んでいる。飲食店の売上が低迷しているのは従来どおりだが、それ以上にアパレルファッション店の業績が悪化してきている。
		高級レストラン (仕入担当)	来客数の動き	・緊急事態宣言延長の影響もあり、来客数が増えず、相変わらず厳しい状況が続いている(東京都)。
		一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響で時短営業をしており、売上が伸びない。もちろんケータリングもない。テイクアウトは少しあるが、ほとんど3か月前と変わらない。売上はずっと落ちたままである。
		一般レストラン (経営者)	販売量の動き	・しばらく夜の営業ができず、ランチだけの営業が続いている。大体決まった来店客で1週間が過ぎていく感じで、販売量も単価もそれほど大きな変化はない(東京都)。
		一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・新型コロナウイルスのワクチン接種率が上がるにつれ、客の動向に影響が出ているようである。繁華街の店舗においては来客数が増えており、売上も伸びてきている。ただし、今後についてはまだまだ見えない部分もある。前年も、秋に感染者数が減ったものの、1月以降にまた増えたので、まだ安定はしない(東京都)。
		その他飲食[居酒屋](経営者)	それ以外	・新型コロナウイルス対策の失敗に尽きる(東京都)。
		旅行代理店(経営者)	単価の動き	・新型コロナウイルス禍における不要不急の外出自粛により、なかなか思うようにいかないのが現状である。
		旅行代理店(従業員)	お客様の様子	・新型コロナウイルスの影響で、出かけることを控えている(東京都)。
		旅行代理店(営業担当)	販売量の動き	・緊急事態宣言のため、ツアーは中止となっている(東京都)。
		タクシー運転手	それ以外	・新型コロナウイルス感染拡大の影響で閑散とした夜の歓楽街では、平均3時間は客待ちをしないと客にありつけない。出庫した以上は、ただ帰るわけにはいかないし、苦しい毎日である。今月も悪いままである(東京都)。
		タクシー運転手	来客数の動き	・緊急事態宣言中のため、客の流れがなくなっており、非常に悪い(東京都)。
		通信会社(経営者)	お客様の様子	・9月の客からの問合せ件数は、前年同月と比較して、戸建てでは同等、集合住宅では約3~4割減となっているが、3か月前と比べると両方とも大きな変化はない。緊急事態宣言の影響を受けて提案機会が減少しているものの、訪問拒否やキャンセルは目立っていない(東京都)。
		通信会社(社員)	販売量の動き	・緊急事態宣言解除によりどこまで来客数が増えてくるか。それにより、どれだけ契約数を戻すことができるかを注視している(東京都)。
		通信会社(営業担当)	販売量の動き	・緊急事態宣言の影響により、例年に比べて全国的に転居数が減っており、それに伴いインターネット等の需要が落ちている。
		通信会社(管理担当)	競争相手の様子	・携帯電話の格安プランへの移行も一段落し、新型スマートフォンへの期待も薄い。緊急事態宣言が開けることについては、イエナカ消費とは相反するため、改善する見込みは低い。
		通信会社(局長)	販売量の動き	・東京の緊急事態宣言下で訪問営業活動が停止し、基本サービスであるケーブルテレビ、インターネットのグロス獲得減少に加え、解約も一定程度あるので、純増ベースでマイナスになっている(東京都)。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・新規加入、コース変更共に、「無駄を省き必要最低限」の意識は相変わらず強い。
		通信会社（営業担当）	競争相手の様子	・同業他社の動きを見てみると、やはり訪問型営業を中心に行っているため、緊急事態宣言下ではほぼ動いておらず、加入者数も増えていないようである（東京都）。
		通信会社（経理担当）	単価の動き	・客単価が毎月10円程度下がり続けている。加入者数が増えても総売上高が横ばいで、原価が上がっている状況が続いている。
		通信会社（総務担当）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染再拡大の影響が強く、当社の訪問を避ける世帯も多いなど、営業機会の減少から新規契約獲得件数が伸び悩んでいる（東京都）。
		その他サービス [保険代理店] (経営者)	単価の動き	・新型コロナウイルスの影響を覚悟していたが、さほど影響は感じていない。購買意欲も衰えておらず、日常に戻りつつあると感じる。
		設計事務所（経営者）	お客様の様子	・現在進行形のものはずつつがなく動いている。
		設計事務所（職員）	それ以外	・3か月前との比較ではやや下降気味と感じるが、変わらないと言えるレベルである（東京都）。
		住宅販売会社 (経営者)	来客数の動き	・当社は不動産ディベロッパー業と総合建設業である。当社が都内と関東近郊の保養地などに所有しているホテルの運営状況が非常に悪く、規定の賃料が受け取れていない。今後、Go To Travelキャンペーンが再開されることを期待している。また、住宅の売行きも良くなく、工事請負業も少ないため、良くない。
		住宅販売会社 (従業員)	販売量の動き	・新型コロナウイルス禍が続くなかでも、受注量の顕著な減少はない。
		その他住宅[住宅資材](営業)	お客様の様子	・好調とはいえないが、低位安定の状況が続いている。建材需要の繁忙期を迎えるタイミングとしては例年以下と感じている（東京都）。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・大手の法人が引き締めている。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・商店街の通行量も若干減り気味ではあるが、買物バッグを持っている人がほとんどいないので、何よりも買物客が少なくなっているように感じている。来客数もやや減少傾向なので、今後の景気が心配である。
		一般小売店[和菓子](経営者)	お客様の様子	・9月になり、緊急事態宣言が再発出されて、人の流れがなくなり、ギフト物の需要がかなり減ってしまった。
		一般小売店[酒類](経営者)	お客様の様子	・客との会話のなかで、余り良くなってきたという話をよく聞くようになってきている。
		一般小売店[眼鏡](経営者)	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染者数が徐々に減少傾向にあるが、来客数がまだ少ないように感じる。
		一般小売店[茶](営業担当)	販売量の動き	・販売数が伸びないため、暇になり、交代で休暇を取ったりして、何とかしのいでいる。なかなか新規客の需要がない（東京都）。
		百貨店（広報担当）	お客様の様子	・6月は4月に発出された緊急事態宣言の解除もあり、客の消費マインドも上向きであった。7月下旬の新型コロナウイルス第5波以降、再びブレーキが掛かり停滞している。足元では回復の兆しを見せているものの、6月の水準までは回復しきれていない（東京都）。
		百貨店（販売促進担当）	それ以外	・9月は引き続き緊急事態宣言が継続中であり、8月中旬以降の食品フロアへの入場制限もあって来客数が減少したことで、売上に影響が出ている。
		百貨店（企画宣伝担当）	販売量の動き	・売上が前年から回復していない。
		スーパー（店長）	お客様の様子	・客の新型コロナウイルス疲れというか、今までは雨が降っても翌日にはマイナス分をカバーできたのだが、今月は天候不順が続いたこともあり、売上予算未達が続いている。以前と比べても、雨が降った翌日でも買物する動向にはなく、客自体の買物に対する考え方が静観気味になってきている（東京都）。
		スーパー（販売担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響で社会の先行きが不透明なため、節約志向になっている。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・販売量が落ちてきている（東京都）。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		コンビニ（経営者）	お客様の様子	・緊急事態宣言の再発出以降、夜間、特に深夜の来客数が激減している。深夜は客がゼロという日もあり、24時間営業の限界を感じる。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・近隣の公共施設が閉まっているため、来客数は90%と厳しい状況である。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・売上額が前年を下回っている。たばこの値上げにより、月末は駆け込み需要があり、多少売上に寄与しているが、10月以降の反動減が懸念される。緊急事態宣言の解除により、外出が増えて消費が喚起されることを期待している。
		衣料品専門店（統括）	来客数の動き	・本来動き出す秋物、ブライダル需要の客の来店が非常に少なくなっている。
		衣料品専門店（従業員）	来客数の動き	・来客数がかなり減っている。
		家電量販店（店長）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響で、来客数が激減している。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・新車販売においては、半導体不足と新型コロナウイルスの影響により海外からの部品納入が遅れており、新車の受注があっても登録ができない状態である。しばらく売上減少が続く。
		乗用車販売店（店長）	販売量の動き	・半導体不足の影響により新車の納期が不確定なため、商談などでうまくいかないケースが増えてきている。客も車検の時期を考慮して購入を検討しているので、車検前に納車されないと分かると、購入意欲が薄れてしまう。
		住関連専門店（統括）	来客数の動き	・来客数の減少に伴い、販売件数、販売額も減っている。
		その他専門店 [ドラッグストア]（経営者）	お客様の様子	・9月前半は新型コロナウイルスの感染が、かなりまん延していたので、客の来店がとても悪かった。
		その他小売 [生鮮魚介卸売]（営業）	お客様の様子	・今月末で緊急事態宣言が解除される見通しということもあり、期待している業者が増えている（東京都）。
		高級レストラン（役員）	単価の動き	・緊急事態宣言の延長中だが、新型コロナウイルスの感染者数に歯止めが掛かってきている。雰囲気は改善基調ではあるものの、政府からの指示に従い、酒類の販売は引き続き行っていないため、単価が低く、売上が戻らない（東京都）。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・IT系企業の撤退、事務所縮小が目立ち、来客数が更に減少している（東京都）。
		一般レストラン（経営者）	お客様の様子	・緊急事態宣言中のため客が少ないが、連休に入ると客が増えてくる。景気が良いか悪いかというと、決して良くはなく、客はやはり新型コロナウイルス感染を気にしながら食べているという印象である。
		その他飲食 [カフェ]（経営者）	販売量の動き	・景気が良くなってくると皆が期待をしているが、新型コロナウイルスの感染者数が減少してきているものの、収束はいまだに見えてこない。次々と出てくる変異株やブレイクスルー感染もある。不安材料が減り、明るい未来が見えてきたときに、消費が増え、景気も上向きになってくるのではないかと。今年はお盆の長雨や台風など、天候に恵まれないことも要因ではないかと思う。メディアから流れてくる情報に一喜一憂しているようにも感じる（東京都）。
		都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・8月の反動があり、3か月前と比べて稼働が10%落ちている。
		タクシー運転手	お客様の様子	・以前は普通に乘ってくれていたオフィス街のサラリーマンが、どういいうわけかずっと乗ってくれない。昼間のサラリーマン利用が戻らないので、タクシー業界としては非常に苦しい（東京都）。
		タクシー（団体役員）	来客数の動き	・新型コロナウイルスのワクチン接種が進んでいるとは思いますが、相変わらず人出がない。
		通信会社（経営者）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響による半導体不足のため、受注しても機器の納品ができなくなっている（東京都）。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染拡大により、客と対面で接する営業機会が大きく減少している。新たな営業手法も定着しておらず、新規契約数が落ち込んでいる。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		ゴルフ場（経理担当）	来客数の動き	・東京オリンピックの成功などによりゴルフプレー意欲が旺盛になり、9月は降雨が多かったものの稼働率は底堅く推移しており、ゴルフ会員権相場も上昇基調にある。9月中旬以降、新型コロナウイルスの感染者数が減少傾向にあり、10月の予約状況も高止まりが続いているが、会員制ゴルフ場においては来場者数の中心は会員であり、レストランにおけるアルコール飲料提供制限もあり、収益性の低い状況が続いている。
		パチンコ店（経営者）	来客数の動き	・緊急事態宣言が9月末まで延長されているなか、ちまたで言われているほど人流は増加しておらず、依然として外出自粛が続いている。
		競輪場（職員）	競争相手の様子	・無観客開催が続いており、インターネット販売が一人勝ちの構図となっている。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・若い人の来店頻度はそれほど変わらないが、50歳を過ぎた年配者の来店頻度がまだ鈍っている気がする。
		その他サービス 〔福祉輸送〕 （経営者）	販売量の動き	・自動車販売業界では、メーカーに半導体が供給されないため、納期が非常に遅れている。受注した車についても、売上として計上できない状態である（東京都）。
		設計事務所（経営者）	それ以外	・新型コロナウイルスの影響が今月で収束すると見込んでいるので、多少なりとも良くなる。今まで営業の展開ができず、動きが取れなかったため、これからに期待している。
		設計事務所（経営者）	競争相手の様子	・民間発注が少ない分、官庁案件に殺到し、受注競争が激しくなっている。
		設計事務所（所長）	お客様の様子	・相談話だけで、話を進めるのか止めるのか全く見当がつかず、中途半端な状態が続いている（東京都）。
		住宅販売会社 （従業員）	販売量の動き	・今月の販売量は目標約100%を達成し、やや良い。しかし、3か月前と比べると販売量が約17%落ちているので、景気はやや悪くなっている。3か月前の販売量が好調だったため、それと比べると景気はやや悪くなっているように感じるが、5か月連続で販売量は目標数字を達成している。また、3年以上在庫になっていた分譲地も、問合せ等の反響が増えて、契約が成立している。
		住宅販売会社 （従業員）	販売量の動き	・例年の9月より受注量が少ない。
		住宅販売会社 （従業員）	単価の動き	・地価が下がらず土地の仕入れに苦戦している。情報は入ってくるものの、なかなか事業計画に載る数字では買えず、パワービルダーやエンドユーザーに流れている状況である。アパート用地にもかなり影響が出ている。
		その他住宅〔住宅管理・リフォーム〕（経営者）	競争相手の様子	・とにかく長引く新型コロナウイルスには閉口している。今後、新型コロナウイルスの影響で景気が悪くなったなら、本当に業務内容を変更せざるを得ない。
	×	商店街（代表者）	それ以外	・9月後半になって新型コロナウイルスの新規感染者数が減少に転じ、少し明るさが見えてきたが、8月後半～9月前半までは、飲食店を中心にとてもひどい状況であった。ただし、自粛疲れ、ウィズコロナ的な動きもあり、来街者数は休日を中心にとても多くなっている。総括すると、夜の店が全く駄目なので、商店街としては悪いと判断するしかない（東京都）。
	×	一般小売店〔家電〕（経営者）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響で本当に先が見えない。取引先の人々が仕事を辞めたりもしている（東京都）。
	×	一般小売店〔食料雑貨〕（経営者）	来客数の動き	・政治経済への不安が消費に悪影響を与えている。
	×	百貨店（店長）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染状況によって来客数が左右される。特に、土日を中心に影響が出ており、厳しかった前年をも下回る来客数、売上となっている（東京都）。
	×	乗用車販売店（営業担当）	それ以外	・新車の納期が大幅に遅れており、販売できたとしても売上計上できるのは半年後など、お金が入るのが先になっており、目先の状況が厳しい（東京都）。
	×	その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	お客様の様子	・新型コロナウイルス禍が長期化し、可処分所得が減少傾向にあるのか、財布のひもが固い（東京都）。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	×	高級レストラン (営業担当)	来客数の動き	・各自治体の緊急事態宣言やまん延防止等重点措置に準じて営業又は休業を判断している。加えて、酒類提供禁止が大きく響き、全16店舗中11店舗が開店休業の状態である(東京都)。
	×	一般レストラン (経営者)	販売量の動き	・3か月前の6月1～28日までの前年比は、売上63.4%、来客数52.5%という結果である。今月9月1～28日までの前年比は、売上24.96%、来客数27.7%である。今月も5店舗中4店舗が休業している(東京都)。
	×	一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・緊急事態宣言中で、夜に酒を提供できないので、昼だけで夜は営業していない。昼も客がほぼ1人で来店するので、通常の10分の1程度の売上しかない。
	×	一般レストラン (経営者)	販売量の動き	・あらゆる点で景気悪化を体感できる状況となっている。
	×	都市型ホテル (経営者)	来客数の動き	・緊急事態宣言中で、酒類も提供できないため、売上は3か月前と比べてもかなり減ってきている。
	×	都市型ホテル (スタッフ)	販売量の動き	・緊急事態宣言の月末までの再延長により、更に動きが止まってしまう、特に宴会については特出するイベントがない月ということもあり、ここ数か月で一番売上が悪い。宿泊も低稼働が続いており、危機的な状況に変わりはないどころか、一層悪くなっている。
	×	旅行代理店(従業員)	販売量の動き	・緊急事態宣言が延長になり、行動が制限されていたため、売上につながっていない。2019年度比24.9%である(東京都)。
	×	旅行代理店(従業員)	それ以外	・新型コロナウイルス感染第5波により9月の受注案件が全て日程変更や中止となっており、収益を上げられないなかで手間ばかりが掛かっている。
	×	タクシー運転手	お客様の様子	・緊急事態宣言が9月末に解除されるようだが、すぐに利用が増えるわけではない。いまだに夕方辺りから無線配車が止まり、駅出し中心の仕事に変わり、1時間に1回営業できれば良い方である。昼間はそこそこ利用があるが、ほとんどが病院の送迎と、一般家庭からのオーダーである。
	×	タクシー(経営者)	来客数の動き	・悪い状況は仕方がないと思うが、飲食店を休業させるのであれば、飲食店以外にも気持ちでも補償をするべきである。借入枠だけ増やしても、返さなければならないので、思うように借り入れることができない。また、返済期間、返済額などについても、中小企業を何とか支援しようという政府の思いは感じられない。
×	ゴルフ場(従業員)	それ以外	・緊急事態宣言は9月末で解除される見込みだが、その反動が恐ろしい。人流が一気に増え、新型コロナウイルスのこれまで以上の感染拡大が予想される。経済、社会が思うように動かず、一層の景気悪化が懸念される。	
企業 動向 関連 (南関東)		建設業(従業員)	受注量や販売量の動き	・3か月前と比べて受注が増えて、向こう3か月は仕事がある状況になっている。
		その他サービス業[ソフト開発](従業員)	受注量や販売量の動き	・新規の依頼が増えてきている。
		出版・印刷・同 関連産業(所 長)	受注量や販売量の動き	・月の前半は緊急事態宣言延長で中止になる案件が発生したが、後半は解除後に向けた動きが活発になり、案件が多く動いている。
		輸送業(経営者)	受注量や販売量の動き	・競合他社の勢いが沈静化している様子で、年度末に掛けて受注が増幅している(東京都)。
		税理士	取引先の様子	・長きに渡った緊急事態宣言が解除され、少し経済が動くと思われている。新型コロナウイルスのワクチン接種の進展や特效薬の出現で、相当の強みを得られている。
		その他サービス業[警備](経営者)	取引先の様子	・施設警備の新規案件、公共事業案件等、順調に受注できている。
		食料品製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・3か月前と変わらず今月も非常に良くない(東京都)。
		食料品製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・今の状況では3か月前と変わらず、景気が良くなっているとは思えない。
	出版・印刷・同 関連産業(経営者)	受注量や販売量の動き	・予想より受注量が少なく、景気が悪い(東京都)。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		出版・印刷・同 関連産業（経営 者）	それ以外	・新型コロナウイルスの影響でイベント等が中止や延期となり、それらに伴う印刷物が激減し続けている。
		出版・印刷・同 関連産業（営業 担当）	受注量や販売量 の動き	・印鑑やゴム印、名刺印刷をしている。今月は、法人設立の印鑑の注文が3本あった。印鑑リフォームの注文は主にインターネットで受けており、通常は10万円を少し超える売上有るのだが、今月はやや少ないものの、9万円くらいである（東京都）。
		化学工業（総務 担当）	受注量や販売量 の動き	・電気電子、自動車向けの仕事が元々ないので、初夏の頃と比較しても個人の購買が上向かず、身の回りの景気は低迷したままで変わらない。
		プラスチック製 品製造業（経営 者）	受注量や販売量 の動き	・受注量は増えているが、同業他社でトラブルがあり、その分がこちらに流れてきているからで、全体の景気が良くなったというわけではない。
		プラスチック製 品製造業（経営 者）	受注量や販売量 の動き	・新型コロナウイルスの影響で滞っていた海外工場の生産ラインが少しずつ動き始めたようで、ぼちぼちではあるが発注が掛かり始めている。しかし、以前に比べれば1割程度で、回復軌道には程遠い。
		金属製品製造業 （経営者）	取引先の様子	・新型コロナウイルスの影響はまだ続くようだが、緊急事態宣言が解除されるということで、取引先の仕事が少し動き出したようである。営業力を発揮して仕事を確保し、生産を上げるようにしたい。
		電気機械器具製 造業（経営者）	受注量や販売量 の動き	・新型コロナウイルス感染対策の緊急事態宣言が間もなく解除されるが、いつまた繰り返すかわからない状態が今後も続く（東京都）。
		精密機械器具製 造業（経営者）	受注量や販売量 の動き	・当社は製造業だが、10年前より自動車部品の比率を下げていたことで、現在の生産調整には余り左右されていない。半導体産業の比率が高くなっているため、品薄感のため増産が続き、会社全体では2年前の水準を維持している。
		その他製造業 〔靴〕（経営 者）	取引先の様子	・バッグ業界は非常に悪い。業界全体は余りよく分からないが、自分が知っている限り、周囲は仕事がなくて大変困っている。
		建設業（経営 者）	受注価格や販売 価格の動き	・全体的に順調だが、機器類や材料がなかなかそろわない。
		輸送業（経営 者）	受注量や販売量 の動き	・取扱量の減少が続く状況下、新年度に入って6か月間の売上合計が前年を下回っており、依然として改善の兆しは見えず、売上の低迷が続いている（東京都）。
		輸送業（経営 者）	受注量や販売量 の動き	・半導体不足の影響か、荷主であるメーカーの生産が減ってきているように感じる。第1四半期はそれほどでもなかったが、第2四半期になってから受注量が特に減少してきている（東京都）。
		輸送業（経理担 当）	受注量や販売量 の動き	・秋風が吹き始め、閑散期を迎えるが、新型コロナウイルスの影響で例年にも増して物流量が減るのではないかと考えている。
		輸送業（総務担 当）	取引先の様子	・繁忙期に入っているが、物量が増えないことで収益が伸びてこない。
		通信業（広報担 当）	受注量や販売量 の動き	・7月を底に、横ばいの状態である（東京都）。
		金融業（総務担 当）	取引先の様子	・新型コロナウイルスの影響で飲食業や旅行業の売上は戻っていないが、最近は感染者が減少していることから、やや持ち直している。リモートワークが多くなっているため、自宅を購入する人が増え、建て売りの売上が好調である。その他の業種では、運送業は燃料高騰が続いていることから経費が増加して厳しい一方、新型コロナウイルスの影響で職を失ったパート等がいるため、人手募集は簡単になっている。いずれにしても、今後の感染状況が景気に影響する（東京都）。
		金融業（役員）	取引先の様子	・今後、緊急事態宣言の解除、又は新型コロナウイルスの収束が図れた時期に、消費者のマインドも含めやや景気が上向きになる。
		不動産業（総務 担当）	取引先の様子	・空室となっているオフィススペースが一向に埋まらない。企業も新型コロナウイルス禍が落ち着くまでオフィスの移転、拡張は様子見といった考えのようである（東京都）。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		税理士	それ以外	・夜に近隣駅の商店街にある飲食店をのぞくと、新型コロナウイルスの影響で営業していない店もあるが、緊急事態宣言中でも開いていて、客が騒いでいる店がある。通常は20時までだが、新型コロナウイルスの影響で人が入っていない(東京都)。
		社会保険労務士	取引先の様子	・雇用調整助成金等を使いたい会社が多く見受けられる(東京都)。
		経営コンサルタント	取引先の様子	・緊急事態宣言による営業制限が長引き、打撃を受けている客がいる。
		経営コンサルタント	取引先の様子	・新型コロナウイルスがまだまだ大きく影響している(東京都)。
		その他サービス業[廃棄物処理](経営者)	受注量や販売量の動き	・取引先工場の稼働の低迷が続いているものの、僅かながら回復傾向がみられ、前年比5ポイント減少の状況にまで回復してきている。
		その他サービス業[ビルメンテナンス](経営者)	受注量や販売量の動き	・新規の契約単価は実勢に合った単価になっているが、既存契約単価の値上げはペンディング状態になっている(東京都)。
		その他サービス業[映像制作](経営者)	受注量や販売量の動き	・緊急事態宣言が続いているなか、画質や音質にさほどこだわらないオンラインなどが多くなり、編集や撮影などの仕事が減っている(東京都)。
		その他サービス業[ソフト開発](経営者)	受注量や販売量の動き	・前年並みの仕事を受注できている(東京都)。
		出版・印刷・関連産業(経営者)	受注量や販売量の動き	・電話が鳴らない。見積依頼のFAXも来ない状態が続いている。
		一般機械器具製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・半導体不足などによる受注量の減少について、取引先から事前に説明があったものの、その後の展開については、取引先の説明どおり回復に向かうのかは不透明である。
		輸送用機械器具製造業(総務担当)	取引先の様子	・自動車業界は、海外での半導体やハーネス等の供給不足により、大規模な減産を余儀なくされている。当面、工場の低稼働状態は続くと言われている。
		不動産業(経営者)	競争相手の様子	・大手不動産業界各社の紙を使ったダイレクトメールが充実している。昔はチラシのポスティングがほとんどだったが、最近は3枚ほどの印刷物で、主な活動、サポート、サービス、調査、修理等々の相談カードに返信用封筒までと、懇切丁寧である。共有物件、賃貸物件等も売却の場合は相談をと記されている。これだけ相当な件数に軒並み送られているようでは、大手にかなわない(東京都)。
		広告代理店(経営者)	取引先の様子	・発注の減少やイベントの中止等からの回答である(東京都)。
		広告代理店(従業員)	受注価格や販売価格の動き	・緊急事態宣言の9月末までの延長に伴い、年内のイベント催事はほぼ中止となり、下げ止まりが見えてきている。
		その他サービス業[情報サービス](従業員)	受注量や販売量の動き	・長引く緊急事態宣言の影響があると思われるが、東京オリンピック終了後は受注数が落ち込んでいる。
	×	建設業(経営者)	受注価格や販売価格の動き	・販売の流通は良くなってきているが、価格が余り上がっていない。
	×	建設業(経営者)	取引先の様子	・新型コロナウイルスの影響で動きが悪いことに加え、建材の価格も上がっている。
	×	金融業(従業員)	取引先の様子	・建設業でいえば、受注単価の下落が続いており、その上に鋼材、材料費の高騰が追い打ちを掛けて、苦しさが増している。
雇用 関連 (南関東)		人材派遣会社(営業担当)	求人数の動き	・求人数が増加し、有効求人数は8月の1.98倍となっている。肌感覚としても人手不足感が出てきている(東京都)。
		学校[大学](就職担当)	求人数の動き	・観光業界の求人が少しずつ動き始めている(東京都)。
		人材派遣会社(社員)	求人数の動き	・受注は、3か月前比では100%を割っているものの、前年比では共に前年を20%以上上回っており、堅調に回復傾向にある。長期稼働者数も前年同月比で10%弱まで回復してきている(東京都)。
		人材派遣会社(社員)	求人数の動き	・主軸である派遣事業の受注そのものは回復しつつある(東京都)。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		人材派遣会社 (経理担当)	それ以外	・派遣就業者数はここ数か月微増傾向となっている。企業からの派遣求人は、新型コロナウイルスの影響もあってさほど多くはないものの、前年に比べると増加している。それに加え、派遣社員からの契約終了意向が減少していることもあり、派遣就業者数の増加につながっている(東京都)。
		人材派遣会社 (営業担当)	周辺企業の様子	・製造業向けのエンジニア派遣の引き合いは回復傾向にあるものの、現在の景気が良いといえるまでの景況感はない。
		求人情報誌制作 会社(営業)	求人数の動き	・9月は新型コロナウイルス感染者数が減少し、10月からは緊急事態宣言が解除されようとしている。解除されるとあれば消費も少しずつ動き出し、企業の求人活動も少しずつ増えてくることが予想される。時期的にも、夏を終えて9～10月は求人が多くなるので、景気の上向きに期待したいところである。
		求人情報誌製作 会社(広報担 当)	採用者数の動き	・自社、周辺企業共に中途採用を積極的に行っている(東京都)。
		人材派遣会社 (社員)	それ以外	・会社の業績、個人的な消費活動に変化がみられない(東京都)。
		人材派遣会社 (営業担当)	求人数の動き	・引き続き求人数は横ばいである。短期案件は継続的に多いものの、長期安定的な求人は少なく、新型コロナウイルスのワクチン接種率の上昇によって、変化が出てくるか期待しているところである。
		職業安定所(職 員)	採用者数の動き	・新規求職者数は3か月連続で前年同月を下回っている。新規求人数は増加に転じているが、新型コロナウイルス発生以前の7割程度であり、紹介、就職件数共に前年同月を下回る状況に変化はない。
		職業安定所(職 員)	求人数の動き	・新規求人は前月比で微減となっている。ここ3か月間ずっと大きな変化がなく、新型コロナウイルス後を見据えた求人再開は比較的鈍い動きとなっている(東京都)。
		民間職業紹介機 関(経営者)	採用者数の動き	・来期採用のインターンシップイベントが開催されているが、参加企業は例年より少ない。採用数を増やすという明確な決定はまだできず、もう少し景気の動向を見ようという判断だと思われる(東京都)。
		民間職業紹介機 関(経営者)	採用者数の動き	・技術系職種への求人は全般的に高いが、一般職種はそうでもない。この状況はしばらくは変わらない(東京都)。
		人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・3か月前に比べて、求人数が少し減少している。
		人材派遣会社 (支店長)	それ以外	・官公庁からの複数の受託案件が終了するが、それを補うほどの受注を現状では見通せていない(東京都)。
	×	求人情報誌製作 会社(所長)	求人数の動き	・客から話を聞く限り、仕事が減ってきている。

5. 甲信越(地域別調査機関:株式会社日本経済研究所)

(- : 回答が存在しない、* : 主だった回答等が存在しない)

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連		その他サービス [葬祭業](経 営者)	お客様の様子	・今月は曇じまいの依頼が週2件のペースで入っている。その全てが女性客からの依頼である。
(甲信越)		コンビニ(経 営者)	お客様の様子	・観光ではないが、外出する人が増えている。
		コンビニ(経 営者)	単価の動き	・来月のたばこの値上げに伴い、9月に限れば客単価は上がっている。
		高級レストラン (経営者)	単価の動き	・新型コロナウイルスのワクチン接種も進み、新規感染者も少なくなり会食も戻りつつある。各種クーポン券の効果で、消費意欲も戻り始めている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		観光型旅館（経営者）	販売量の動き	・宿泊業は新型コロナウイルス禍で、週単位で状況が変わってしまうので、3か月前と比較しても余り意味がない。3か月前は緊急事態宣言による強いブレーキがかかっていた。その後、東京オリンピックがあった。現在も緊急事態宣言下ではあるが、以前よりも意識的には緩くなっており、ワクチン接種が終わった一部の方が動いているようである。ただし、全体としては動きは少なく、改善はみられるものの、売上の例年の半分以下である。
		観光名所（職員）	来客数の動き	・今月は週末ごとに観光客が戻ってきている。特に、大型連休中は混雑するほどのにぎわいをみせている。
		遊園地（職員）	来客数の動き	・前年秋は、来客数が新型コロナウイルス流行以前に向けて回復傾向となっていたが、今年はキャンペーン等の実施がない上に、近隣都県の緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の発出により、来客数の落ち込みが顕著である。
		ゴルフ場（経営者）	来客数の動き	・政府の適切な経済対策により、新型コロナウイルスの影響を大きく受けることなく経営を続けており、感謝している。
		住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・別荘購入に前向きな客が多い。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスはスポーツ店には関係ないと思っていたが、これほどまでに関係するとは思ってもみなかった。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスのワクチン接種済みの方の増加が、自粛疲れなのか、今月の連休は県外からの観光客を多く見かけ、駅前のホテルの利用客も増えている。ただし、地元の人は感染に対し敏感で、夜になると入客が全くなっている。
		一般小売店〔家電〕（経営者）	お客様の様子	・商材の動きはすこぶる悪い。新型コロナウイルス禍の生活に慣れたためか、お金を抱え込んでいるのか、消費意欲が見えてこない。
		一般小売店〔薬〕（経営者）	来客数の動き	・来店客は相変わらず少なく、また、固定客の来店が多い。
		スーパー（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大第5波の影響で、前年同月に比べて巣籠り消費傾向が強い。
		スーパー（経営者）	来客数の動き	・売上、来客数共に前年比7%減である。新型コロナウイルスのワクチン接種も進み、少しずつイベントが再開されてきているので、これから人の動きが増えると有り難い。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・客単価は微増となっている。
		スーパー（副店長）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染拡大第5波も落ち着きつつあるが、今後の見通しのつかない状況が続いている。ワクチン接種も進んでいるが、接種をしても感染の可能性があり、精神的に常にどこか心配しているようになっている。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・来客数がやや前年を割っており、たばこの値上げの影響で客単価は若干上がっている。来客数が落ちているのが気になる。
		衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・新型コロナウイルス禍で、ここ1年半ほど何ら変わりはない。
		衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスが収束しない限り、駄目である。
		家電量販店（店長）	来客数の動き	・前年の8割程度の集客状況が続いている。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・車検や一般整備部門は、右肩上がりとはいえませんが、目標どおりの水準となっている。車両販売は、相変わらず厳しい状況が続いている。いろいろな客の話を聞くと、新型コロナウイルス禍での生活が長引くほど、生活の格差的なものを感じる。
		自動車備品販売店（従業員）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響だけではなく、新車の減産等の影響で、来客数はなかなか伸びてこない。
		一般レストラン（経営者）	販売量の動き	・客の動きは若干増えたが、ばらつきが極端で来客ゼロの日が目立ち、前週などは2日間も来客がゼロであった。今までは月の売上こそ少なくとも、来客ゼロの日は数えるほどしかなかった。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		スナック（経営者）	来客数の動き	・時短要請が解除になっても人の出足は変わらない。補助金をもらえない分だけ厳しい。新型コロナウイルスの感染者も減ってきたので、少しずつ上向いていくのではないかと。残り時間が掛かると会社が持たないかもしれない。コロナが入ってきたばかりの頃に、公庫で貸してもらった融資で食いつないでいるだけだが、その返済も厳しい。経済が元に戻ればきちんと返せるが、1年くらいで元に戻ってくれないと駄目かもしれない。
		都市型ホテル（支配人）	販売量の動き	・月別の売上は前年と比べてほぼ同じであり、宿泊料金は前年と同額に設定しているため、全て横ばいで変わらない。
		都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・県独自の時短要請等により、月半ばまでは前月同様、悪いまま来客数が落ち込んでいた。月の途中から時短要請解除となったが、大幅な反動はなく、来客数は若干の増加傾向にあるものの、良くなっているとは言い難い。
		旅行代理店（副支店長）	お客様の様子	・緊急事態宣言やまん延防止等重点措置発出のなか、県をまたぐ往来の自粛が長引いており、需要は減少するばかりである。また、自治体独自の支援策も、前年実施した支援策と同等であり、消費者もマンネリ化と受け取っているため、実施効果が見られない。結局、新型コロナウイルスの感染拡大の影響から、9月の連休もキャンセルが相次ぎ、景気に動きはみられない。
		通信会社（経営者）	お客様の様子	・高齢者世帯の保留や解約が増えつつある。
		通信会社（社員）	販売量の動き	・集客アップを見込んだイベントが開催できず、メディア媒体でのPRのみなので、苦戦している。
		設計事務所（経営者）	来客数の動き	・小規模の物件依頼はあるが、大規模物件数が少なくなっている。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスによる制限が解除されたからといって、すぐに来客が増えるわけではない。回復を感じさせるような動きは全くない。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響からか、金回りが厳しい。
		コンビニ（店長）	販売量の動き	・天候の関係だと思うが、今月は一時的に気温が上がったものの、大分低く変動してきたため、売上が今一つ安定せず、余り良くない。
	×	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・半導体等の部品供給不足により、新車の生産が滞っていて納期が読めない。結果として、売上減少と受注の伸び悩みにつながっている。
	×	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・人は動いているようだが、飲食の消費に直結しているとは思えない。
	×	スナック（経営者）	来客数の動き	・来客数の動きと回答したが、選択肢の全てに当てはまるような気がする。とにかく、この新型コロナウイルスには参っている。何か良い選択はないか。
	×	都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・9月の販売量、売上は、今年度4～9月のなかで最も悪く、3か月前と比べても落ち込んでいる。
	×	タクシー運転手	販売量の動き	・9月は前年比85%、前年の令和2年は前年比78%で、今年と一昨年の令和元年を比べると67%と、年々悪くなっている感じである。
	×	その他レジャー施設〔ボウリング場〕（経営者）	来客数の動き	・まん延防止等重点措置の対象地域になり、9月上旬は非常に厳しい。中旬に解除されたが、すぐに客足が戻るわけではなく、厳しい状況に変わりはない。新型コロナウイルスの感染者数が減少傾向にあるので、このまま減っていけば客足も少しは戻ってくると期待できる。
企業動向関連 (甲信越)		*	*	*
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・公共工事は低調であるが、民間工事は問合せが増えているように感じる。
		食料品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・売上は前年同月比100%を達成したが、本調子ではない。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルス禍の影響は依然として続いており、受注、販売量共に低迷している。
		金融業（調査担当）	取引先の様子	・製造業の改善が維持される一方、非製造業では観光関連を中心に、厳しい状況が続いている。
		金融業（経営企画担当）	取引先の様子	・現状、特に明るい展望は開けていない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		食料品製造業（製造担当）	取引先の様子	・スーパーでの販売点数が日に日に落ち込んできている。
		電気機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・取引先からの受注量や見積案件数共に減っている。電子部品の入荷も悪い。
		新聞販売店〔広告〕（総務担当）	取引先の様子	・緊急事態宣言等により、旅行、飲食、イベント関連会社では少しずつ持ち直してきていたものが再びストップしてしまい、正直厳しいという話が多い。また、半導体不足により、機器販売会社では受注しても納期のめどが立たないので、売りたくても売れない状況だという話も聞いている。
	×	食料品製造業（営業統括）	受注量や販売量の動き	・首都圏の緊急事態宣言発出の影響により、一般酒販店及び業務用の出荷が激減している。また、工場見学者も大幅に落ち込んで、苦境に立たされている。
	×	その他製造業〔宝石・貴金属〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・秋冬商戦の品ぞろえのため、全国からの来場が期待されていた大型宝飾展示会は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、開催県の要請により急きょ延期となった。これを弾みに景気回復を期待していた卸業者にとって、落胆は大きい。緊急事態宣言下ではあるが、既に企画されていた宝飾催事は予定どおり開催されている。しかし、来場者数、売上は、新型コロナウイルス禍の前年から更に2～3割ダウンしている。デパート、小売店共に、客の来店が伸びないため、商材仕入れはストップしている。時短営業や休業日の増加、雇用調整をしながら、何とか経営を維持しているのが現状である。
雇用関連 (甲信越)		-	-	-
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新型コロナウイルスワクチン接種の進行や当県でのまん延防止等重点措置の解除効果が、宿泊業や飲食業からの求人が増加傾向にある。
		人材派遣会社（営業担当）	周辺企業の様子	・飲食店や衣料品店等の閉鎖が続いており、相談者や登録者に偏りがある。新型コロナウイルス対策の短期的な業務があり、時給単価が良いため、そちらに人が流れている。ただし、年末や年度末にその業務も終了予定なので、その後が心配である。
		求人情報誌製作会社（経営者）	求人数の動き	・9月下旬になって、製造業を含め多業種で求人募集広告掲載企業が増えている。現在は新型コロナウイルス新規感染者数が減少傾向にあるが、今後の求人数増減の先行きは不透明である。
		民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き	・求人数は増加傾向だが、契約社員やパート等を優先し、正社員採用には慎重な姿勢が目立っており、積極的な採用には至っていない。
	×	-	-	-

6．東海（地域別調査機関：三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連 (東海)		スーパー（店長）	来客数の動き	・緊急事態宣言で外出や外食を自粛していることで、プレミアム付商品券を利用する客が多く、前年を上回る売上増加につながった。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染が収束に向かっているようで、皆活気が出てきた。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・夏休みや帰省の時期のあった前月からは反動が出たが、3か月前と比べれば上向きである。
		一般小売店〔書店〕（営業担当）	お客様の様子	・年度末の予算消化が少しずつ始まってきている。
		スーパー（ブロック長）	来客数の動き	・新型コロナウイルス第5波による緊急事態宣言のプラスの効果により、来客数が増加している。緊急事態宣言が出ると内食需要が増加する繰り返しとなっている。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・ワクチン効果もあってか新型コロナウイルス新規感染者数が減少し、下旬になるにつれて来客数が金・土曜日を中心に増加傾向である。9月の大型連休以降の週末来客数が、前年レベルに近づくまでになっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		コンビニ（店長）	競争相手の様子	・元々当店は専売品であるたばこの販売が市内でトップのため、来月からの値上げに伴う駆け込み需要による特需の幅が他店より大きく、跳ね上がった感がある。悪天候の影響による販売減少も、前月よりは少なかった。
		コンビニ（商品企画担当）	お客様の様子	・ワクチン接種完了の拡大に伴い来客数が増加傾向にあり、日配品を中心に僅かではあるが売上が伸長傾向にある。一方で、一部店舗の酒類販売自粛に伴い、酒類やおつまみを主体に売上確保が困難な状況が続く。
		衣料品専門店（売場担当）	お客様の様子	・外商については、宝石等の高額商品を購入する客が増えてきている。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・半導体や部品の不足からくる新車の供給不足が、客の購買行動を急がせている。
		その他専門店【雑貨】（店長）	お客様の様子	・ワクチン接種が進み、来客数が増えてきている。
		その他飲食【仕出し】（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルスに対する知恵や教訓が蓄積されつつある感じである。緊急事態宣言の有無や新規感染者数に右往左往せず、冷静に判断できるようになってきた。
		通信会社（サービス担当）	お客様の様子	・大掛かりなシステムメンテナンスの影響で工事手配まで日数が掛かるため、他社のサービスに変更する客があり、販売が減少している。
		テーマパーク（職員）	来客数の動き	・ワクチン接種率が上がり、客の動きが良くなってきている。しかし、人が動くことでまた感染が広がり、制限されるのでは意味がない。
		その他レジャー【スポーツレジャー紙】（広告担当）	お客様の様子	・あからさまにマインドが上向いている。人出も増えてきているように感じる人が多い。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・上半期の締めで、来春はマイホームで過ごしたい人たちにとって最終月でもあり、販売は好調であった。旅行などに行けない分、また、子供の在宅が長い分、戸建て住宅の人気の今はあると思われる。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・9月15日頃までは来客数がさっぱりで本当にひどい状況であったが、中旬を過ぎてぼつぼつと来店があり、何とか持ちこたえている。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・緊急事態宣言中は人出もまばらで、売上はほとんどない。
		一般小売店【高級精肉】（常勤監査役）	販売量の動き	・全て新型コロナウイルス次第である。
		一般小売店【結納品】（経営者）	販売量の動き	・緊急事態宣言が発出されているため、売上が全くない。
		一般小売店【贈答品】（経営者）	お客様の様子	・9月は法人の決算、また個人でも秋口の結婚等で、贈答品や記念品の需要が増える時期だが、新型コロナウイルスの影響で3か月前と同様に厳しさがみられる。残念だが販売量は余り前期と変わらなかった。客が購買に対して様子見の状況が続いている。特に、イベントの中止が売上の伸びない大きな理由である。
		百貨店（売場主任）	お客様の様子	・来客数が減っていることは確かで、夕方6時になると客はほとんど歩いていない。食料品売場だけが入場制限をしている形で、他の売場はずっと暇が続いており売上も厳しい。土日の昼間は少し来客数があるが、夕方になると本当に客がいなくなるため、閉店時間を早くした方がよいのではないかと従業員で話している。
		百貨店（総務担当）	お客様の様子	・緊急事態宣言の発出、第5波ともいわれている新型コロナウイルス感染拡大により、帰省や旅行客の需要を全く取り込むことができない。来客数も前々年比では半分にも届いていない状況で、テレワークなどの在宅勤務によりオフィス需要も取り込めず、非常に厳しい状況が続いている。
		百貨店（販売担当）	来客数の動き	・緊急事態宣言により来客数は少ない日が続いた。新規感染者数が減少し始めると、ワクチン接種の効果もあって徐々に増えてきた。しかし、購入客数は伸び悩み前年割れとなった。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		スーパー（店長）	お客様の様子	・緊急事態宣言のなかで、買い回りも増加しておらず横ばいである。お盆の動きも、長雨の影響もあったが前年には届かなかった。
		スーパー（店員）	単価の動き	・長雨の影響が大きく出た。白菜やキャベツなどの葉物が予想以上の高値で売らざるを得ない状況が続き、売上の減少が大きく響いた。
		スーパー（販売担当）	来客数の動き	・来客数は減ったり増えたりで、余り変わらない。
		スーパー（営業企画）	お客様の様子	・新型コロナウイルス変異株の感染急拡大で、一時的に内食需要の高まりが感じられ客単価の上昇があったが、比較的早期に落ち着いたこともあり、再び安定した消費傾向になっている。
		スーパー（販売担当）	販売量の動き	・旅行に行けない昨今、駅弁イベントの売行きは良かったが、日々の買物はシビアである。トータルでは変わらない。
		スーパー（商品開発担当）	販売量の動き	・緊急事態宣言が発出され、内食・中食需要の高まりから9月の売上は前年比103%とやや好調ではあるが、決して景気が良くて売上が拡大しているわけではなく、さほど変わらない。
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・緊急事態宣言の発出と解除に左右される状況が続いている。いずれにしても売上、来客数共に前年比、前々年比を大幅に下回り、悪い状況が続いている。
		コンビニ（店員）	販売量の動き	・おでんと中華まんがスタートして好調な販売ができていたので、売上が維持できている。
		コンビニ（本部管理担当）	来客数の動き	・既存店の前年比は102.2%である。緊急事態宣言中であつたが、想定ほど客の動きと購買意識は下がらなかった印象を受ける。低調ななかで前年並みの水準となったため、業況は変わらないと判断する。
		衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・中旬までは緊急事態宣言に暑さも重なり、来客がほとんどなかったが、秋物立ち上がりの案内と上客へのアプローチで、下旬は何とかひと息つけた。いまだに年配の人ほど不要不急の外出を家族に抑えられている様子がうかがえた。
		衣料品専門店（売場担当）	販売量の動き	・売上の的には毎日かなり厳しかったが、10月1日からの仕事始めやりモトワークから職場への出勤に戻るため、後半はスーツの売上が伸びた。緊急事態宣言が解除されてからの販売に期待したい。
		家電量販店（フランチャイズ経営者）	単価の動き	・プレミアム付商品券のお陰で来客数は回復傾向だが、一見客も多く商品券の額面までの買物が多い。来客数は多いためレジ業務は忙しいが、大物が売れない。特にエアコンが良くない。これから閑散期に入るので余り期待はできない。
		乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・緊急事態宣言が出ていても来店客はそれほど減らずにきていたが、半期の決算時期にしては、販売台数が少なかった。
		乗用車販売店（経営者）	お客様の様子	・緊急事態宣言の発出で、以前ほどではないが人々の動きは鈍く、車両の走行距離にもそれが表れている。必要最低限以外の出費をできるだけ抑えたい気持ちも見受けられる。
		乗用車販売店（従業員）	お客様の様子	・来店希望や問合せ件数が多く、季節要因を除いても動きは悪くない。いろいろな制限が解除となる方向なので、そういうメンタリティーも関係していると思う。ただ、特段に良いというほどではなく、やや良いという感じである。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・緊急事態宣言が出ており、積極的な販売活動を行うことははばかれる環境にある。客の中には会って話をすることを心配する人もいる。客を不快にさせないためにも最低限の営業活動にならざるを得ない。新型車両も発売されており残念に思う。
		乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・今年に入ってからというもの、緊急事態宣言の有無にかかわらずずっと横ばい状態が続いている。落ち込んでいく様子もなければ、上がる様子もない。
		住関連専門店（営業担当）	販売量の動き	・住宅や商業施設などのリニューアル工事が中止になるなど、まだ様子見の現場が多い。すぐに受注に進むような良い状況ではない。
		その他専門店【書籍】（店員）	単価の動き	・今月は、後半になって新型コロナウイルスも落ち着き人出は戻りつつあるが、ボーナスや給与などは減少傾向にあり先行き不安もあるため、客の財布のひもは固くなっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		高級レストラン (経営企画)	来客数の動き	・まん延防止等重点措置から緊急事態宣言の継続により、来客数は厳しい状況であったが、9月の大型連休は昼の営業については少し活気があった。1か月全体では自粛の月であった。
		一般レストラン (経営者)	それ以外	・まん延防止等重点措置から緊急事態宣言の発出で現在休業中のため、他の店との比較ができないが、客の話を聞くと、出たくても出られないということであった。
		一般レストラン (従業員)	来客数の動き	・新型コロナウイルス第5波の影響で相変わらず団体客は見込めず、売上は落ち込むばかりである。
		一般レストラン (従業員)	来客数の動き	・当店は、現在緊急事態宣言に従い休業している。
		バー(経営者)	お客様の様子	・店によって客の出入りの差が激しい。
		その他飲食[ワイン輸入] (経営企画担当)	お客様の様子	・業種によって好不調が大きく異なる。客も、購入意欲の強い人と購入を控える人の2極化の様相である。今年は新型コロナウイルスの影響のあった前年の売上は超えると予想していたが、前年水準の維持がぎりぎりとなりそうである。
		都市型ホテル (営業担当)	それ以外	・緊急事態宣言のなかで、悪い状態で推移している。
		旅行代理店(経営者)	それ以外	・ターミナル駅前のビルでは、1階に開店した外国製高級腕時計専門店街で来店客の姿を見掛けるのがほとんど難しい。地下1階の洋菓子や和菓子の店も、この頃は行列が少なくなり、和食の店は1月以来閉店したままである。通路でつながっている地下街でも、長期にわたって店が決まらなかったり、ファッション関係の店が減り、マッサージ店やブランド買取り店舗などが増えてきている。
		旅行代理店(経営者)	販売量の動き	・緊急事態宣言下で旅行の仕事はほぼゼロに近い。いつ上向くか判断が付かない。
		旅行代理店(営業担当)	お客様の様子	・やっと緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が解除される日が来るが、カンフル剂的に観光業を援助する施策がないと、元のように客が戻ってこない。Go To Travelキャンペーンの第2弾と、県独自の割引・クーポン等の補助制度の早い実施を期待する。
		旅行代理店(営業担当)	販売量の動き	・観光目的の旅行は依然皆無である。会議やスポーツ選手の遠征に関わる移動の手配は発生するが、行事自体の中止により結局催行されないケースがほとんどである。
		タクシー運転手	来客数の動き	・足元では変わらないが、緊急事態宣言の解除でどうなるか分からない。
		タクシー運転手	お客様の様子	・緊急事態宣言が続いており、相変わらずピヤガーデンは閉店、飲食店でもアルコールは出せず夜8時で閉店のため、夜の街もひっそりしている。この時期の墓参りや結婚式場などの人出も、新型コロナウイルスの感染がなければもっと良かったが、今は結婚式場も土日祭日でも式を挙げる人が少ない。まだまだ厳しい状態が続いている。
		通信会社(企画担当)	販売量の動き	・新規契約数、解約数共に前年を大きく下回ってきており、人が動かなくなっているように感じる。
		テーマパーク職員(総務担当)	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染症の波がある。
		ゴルフ場(支配人)	来客数の動き	・今月は天候も安定せず、入場者数は予算を下回った。3か月前から入場者はやや低調である。ゴルフ場の入場者は新型コロナウイルス感染症の影響よりも天候に大きく左右される。しかし、レストランの売上は、緊急事態宣言等によって大きく減少している。
		その他レジャー施設[鉄道会社](職員)	来客数の動き	・徐々に通学定期利用者数が戻りつつあるものの、回数券利用や家族送迎に対応している様子が見られ、回復には至っていない状況である。
		美顔美容室(経営者)	販売量の動き	・人気商品のキャンペーンに引き続き、別のキャンペーンが始まった。
		美容室(経営者)	来客数の動き	・まだまだ新型コロナウイルスの影響でイベント等がないため、外出を控えている客が多い。
		その他サービス[介護サービス](職員)	販売量の動き	・緊急事態宣言下であったが、思ったほど売上は落ち込んでいない状況である。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		設計事務所（経営者）	来客数の動き	・時間制限のある案件が終了してからは、案件数は減少したままである。大規模な案件はほとんどない。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数の減少はみられるが、まだ売上には反映されてきていない。
		その他住宅〔不動産賃貸及び売買〕（営業）	販売量の動き	・緊急事態宣言のなかで客足も伸びず例年以下であるが、直近では例月並みである。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・周囲のホテル勤務者によると、当地の大きなホテルでも宴会が激減している。大分新規感染者数は減ってきているが、まだ仕事は増えてこない。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・販売量が伸びてこない。商店街・駅・量販店など全ての立地の売店で伸び悩んでいる。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	販売量の動き	・販売量は9月に入ってかなり落ち込んだ。緊急事態宣言の発出でイベント等ほとんどの行事が中止や延期になり、花の出番がなくなった。また、生け花のお稽古を休む先生も多く、売上は半分以下になった。葬儀関係の花も、家族葬ばかりで数が出ない。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	販売量の動き	・緊急事態宣言で、取引先の営業が止まりどうしようもない。
		一般小売店〔生活用品〕（販売担当）	来客数の動き	・緊急事態宣言下で来店客は少なく、通販の伸びも特になかった。
		スーパー（経営者）	お客様の様子	・中小の飲食店は、来客がほとんどないということで悲哀を帯びている。青果物関係は、野菜の価格高騰で売れないということで、悪い状況が続いている。
		スーパー（店員）	単価の動き	・全体的に単価が非常に低い状況である。
		スーパー（販売担当）	来客数の動き	・緊急事態宣言が出て混雑時に入場制限の告知がされた影響もあり、来客数が落ちている状況である。
		コンビニ（企画担当）	販売量の動き	・前月からの緊急事態宣言で通勤客の減少、休日の外出自粛の影響を受け、駅ナカの店舗は売上が減少となった。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・天候も関係して、来客数は前年比で減少気味である。
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・9月も緊急事態宣言の発出中で来客数の減少が続く、特に飲料水、アイスクリームが振るわなかった。
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・夕夜間の来客数は減少傾向にある。また、店舗があるテナントの来客数も少ない。
		衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・コロナ禍の影響で外出が減ったこと、また天候不順により客の仕事が減り、必要となる備品の販売が減った。
		家電量販店（店員）	販売量の動き	・不要不急の外出を避けているのか、来客数が落ちている。全体的に販売台数が伸びない。
		乗用車販売店（従業員）	お客様の様子	・東京オリンピックが終わり当地にも緊急事態宣言が発出されてから、客の元気がなくなり、購買意欲も薄れている。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・7月から販売台数は前年比で減少している。新型車投入で表面上はある程度の販売台数を維持しているが、登録に結び付かないため売上にならない。
		乗用車販売店（従業員）	それ以外	・半導体問題は今月頃には解消する見込みだったが、サプライヤーの施設の火災や海外からの供給遅れで更に長引き、売上のめどが立たない状況で非常に厳しい。
		乗用車販売店（販売担当）	お客様の様子	・今までに余りなかったことであるが、残価設定型ローンを組んでいる客でも再ローンを組んだり、今まで車検を通さずに新しい車に換えていた客が車検を通すケースが増えてきた。
		一般レストラン（経営者）	お客様の様子	・県下でも緊急事態宣言が発出中なので、外出を控える客が多いと思われる。売上は例年の2割減少で推移している。
		観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・まん延防止等重点措置から緊急事態宣言による外出自粛要請のため、かなり来客数が減った。9月は6日間の営業のみで休館せざるを得ず、需要が消失してしまったような状態である。非常に来客数が減っている。
		都市型ホテル（経営者）	来客数の動き	・予約が入ってもすぐキャンセルになる。
		通信会社（営業担当）	販売量の動き	・部品の欠損で、工事が遅れている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・不要なものを見直しているのが、解約申込みが増えていると感じる。
		テーマパーク（職員）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染が収束しないと難しい。
		理美容室（経営者）	来客数の動き	・行動自粛のためか、客が余り来てくれない。
		理容室（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染がこれほど長く世界を騒がせるとは思わなかった。早く静かになってほしい。
		設計事務所（職員）	お客様の様子	・打合せの際に景気の良くなるような話は聞かれない。
		住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・金融機関の住宅ローンが、借入期間40年という超長期でも利用できるようになったことを好感して、検討する人が出てきた。
		その他住宅〔住宅管理〕（経営者）	お客様の様子	・支援をしている物流倉庫の社長に聞くと、忙しいが人件費や燃料費等のコストが掛かり、利益は全く上がらないそうである。倉庫内は前々月よりばたばたしているが、景気が前向きな方向に向かっているようには見受けられない。
	×	一般小売店〔酒類〕（経営者）	販売量の動き	・1か月以上続く飲食店への酒類販売自粛要請と新型コロナウイルス第5波の影響で、コロナ禍が始まってから最も悪い販売量になっている。
	×	一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・8月末に緊急事態宣言が発出されてから、9月一杯この地域で最大の市営駐車場が閉鎖され、観光客をシャットアウトした。毎日2000～3000名程度いた県内外からの観光客は、毎日10数名程度、週末でも200～300名程度となり、その人たちもマイカーで駐車場を探して右往左往していた。観光都市として、史上最低を記録した。
	×	百貨店（経理担当）	お客様の様子	・緊急事態宣言の延長に伴う個人の出控えや企業の出勤抑制等によって、人流が大きく低下している。
	×	百貨店（営業担当）	来客数の動き	・コロナ禍の最中で、緊急事態宣言が始まってから不要不急の外出を控えており、来客数も前年割れが続き例年より大幅減少のまま推移している。店内滞留時間も短くなる傾向にある。
	×	百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・新規感染者数の爆発的な増加と緊急事態宣言の発出による自粛要請で、来客数が減少している。
	×	百貨店（業績管理担当）	来客数の動き	・まん延防止等重点措置の適用から緊急事態宣言の発出により、来客数は激減し、売上も悪化している。
	×	百貨店（計画担当）	お客様の様子	・過去最高の新規感染者数となり、多少上向きかけていた消費意欲の減退が顕著に感じられる。ここ最近では新規感染者数が減少に向かっているが、まだ客の動きには現れてきてはいない。
	×	スーパー（経営者）	来客数の動き	・緊急事態宣言の発出以降、門前町の飲食店への食材納品は皆無である。
	×	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・世界的な半導体不足で生産ができないので、車の納車予定が立たない。非常に販売しにくい状況である。
	×	その他専門店〔貴金属〕（経営者）	来客数の動き	・緊急事態宣言の影響で、商店街は多くの飲食店が閉店しており、人流が完全に滞っている状態である。
	×	一般レストラン（経営者）	それ以外	・緊急事態宣言で、店そのものを開けられないという状態が続いている。
	×	観光型ホテル（支配人）	来客数の動き	・緊急事態宣言が月末まで延長されて最悪の状況である。中旬以降に入っていた会議会合等の宴会も、ほぼキャンセルとなった。9月の大型連休中の個人予約も解約されてしまい、9日間の宿泊休止日を含み4月以降最低の宿泊人数となる。食堂は、特に夜の来店客が激減し、ノーゲストの日を幾日も数えた。
	×	都市型ホテル（総支配人）	来客数の動き	・緊急事態宣言により宿泊客は大幅減少である。レストランは、ランチ客が少しあるのみである。宴会は、ほぼキャンセルである。Go To Travelキャンペーンの効果があった前年と比べて、大幅減収である。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	×	旅行代理店（経営者）	販売量の動き	・夏の旅行シーズンも緊急事態宣言で取消しが発生し、全く新規予約が入らない状況である。客もワクチン接種を2回してもブレイクスルー感染が報道されてからは、ゆっくり旅行する気分ではなさそうである。テレビをみていると、連休中は近場の日帰り、宿泊需要はにぎわいをみせていて旅行業界の景気が戻っているように錯覚をさせられるが、社員旅行など団体旅行は駄目で、海外旅行も帰国後14日間の隔離があり自由に行動できるようになるまでは全く駄目である。旅行会社としては前年あったGo To Travelキャンペーンも中止で厳しい状況のままなので、何か考えてほしい。海外旅行が販売できないと厳しい。
	×	レジャーランド（職員）	来客数の動き	・緊急事態宣言下での移動自粛、営業時間の短縮、酒類提供の停止等により、集客、売上共に例年の水準から大きく減少した。学校団体客は、取消しや日程変更になった。
	×	観光名所（案内係）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの影響はひどく、今月はどこもかしこも大変だった。
	×	パチンコ店（経営者）	販売量の動き	・単価や来客数の動きが悪くなっている。
	×	美容室（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの影響で、客が公共交通機関を利用してまでは来店しなくなった。
	×	美容室（経営者）	それ以外	・2年続いている新型コロナウイルスの影響で、当店は高齢の客が多いため、感染が怖いからとパーマを掛ける客が余計に減り、とても暇になっている。
企業 動向 関連 (東海)		*	*	*
		食料品製造業（経営企画担当）	受注量や販売量の動き	・受注量は、新型コロナウイルス発生前のようにはなかなか戻らない。今後も厳しい状況は続く予想される。
		窯業・土石製品製造業（社員）	受注量や販売量の動き	・半導体関係製造用の消耗品の受注が順調な上に、新規取引先や新規案件も多くあり、残業で対応している。
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・業種によってばらつきはあるが、売上金額をみると注文量等を含めて若干増えている。
		通信業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・物流に関しては、倉庫システム及び輸配送システムの改善依頼などが格段に増えている。
		不動産業（経営者）	それ以外	・例年よりもやや雨の日が多い上に緊急事態宣言の影響もあり、外出や遠出する人が減少していると思われるが、下旬には徐々に人出も回復傾向になっており、売上は前年を上回る状況になってきている。
		その他サービス業【ソフト開発】（社員）	受注量や販売量の動き	・大学の活動が動き始め、需要が増えてきている。また、企業による大規模発注で受注があった。
		化学工業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・引き続き半導体向け電材薬液の需要が好調である。
		化学工業（総務秘書）	それ以外	・長引く外出自粛生活で、景況を感じにくい日々が続いている。機器改修の相見積りを取ると、新型コロナウイルス発生前は価格競争で値が下がったが最近では高止まりで、無理をして仕事を取りにこない傾向が見受けられる。モノもヒトも安売りはしない、無理して売らず働かないという傾向である。コロナ禍で、今までの働き方が見直されたような心境の変化を感じる。
		金属製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・販売量が相変わらず少ない状況が続いている。
		電気機械器具製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・受注は好調だが、部品不足などで制限が出ている。
		輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・荷主の業種によっては、受注量が戻りつつある。しかし、自動車関連については、新型コロナウイルスの影響により部品供給が止まってしまったこともあり、現在は受注量が落ちている。
		輸送業（エリア担当）	受注量や販売量の動き	・コロナ禍にあって荷物量は前年比でほぼ同じくらいである。前年の今頃は、前々年と比べるとマイナス5ポイントくらい荷物量が減った。上半期末の現時点においても荷物量がさほど増えてきていないということが気掛かりである。景気回復には結び付いていない潮流にあると考えている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		輸送業（エリア担当）	受注量や販売量の動き	・航空貨物便はピーク状態が継続している。新型コロナウイルスの感染状況が世界レベルでは変化はなく、同じ状況が続いている。
		金融業（従業員）	取引先の様子	・9月中は緊急事態宣言により時短営業や休業している飲食店が多く、景気は以前と変わらないように感じた。その他の業種においては、新型コロナウイルスとの向き合い方が習慣化されていると思う。
		金融業（従業員）	取引先の様子	・大手自動車メーカーの関連会社が多い当地では、少し前から生産がかなり減少し、労働自体が少なくなっている。そういう点も含めて現在の景気を考えると、良いところもあれば悪いところもあり、どちらともいえない。
		金融業（企画担当）	取引先の様子	・緊急事態宣言下であり、外出の自粛等により特に飲食関連業界、旅行・ホテル等の観光関連業界は引き続き厳しい状況である。もう少し日常が戻らなければ、景気回復は期待できない。
		不動産業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・問合せ等が一段落し、2極化した価格も安定している。
		広告代理店（制作担当）	取引先の様子	・9月に入って、地元でも新型コロナウイルスの新規感染者数が減少してきているが、客の企業側もまだしばらくは様子見の感が強い。
		行政書士	受注量や販売量の動き	・運賃収入は減っているが従来どおりに稼働している物流業者が多い。
		会計事務所（職員）	取引先の様子	・飲食店が、来店客の減少に対応してテイクアウトを拡充したことで売上高の減少を抑えようとしている一方、大手自動車メーカー関連の製造業が8月後半以降減産になり、再度雇用調整助成金の申請が必要になっている。双方を勘案して、変わらないとした。
		その他非製造業〔ソフト開発〕（経営者）	取引先の様子	・外注先は時短や週休3日制の導入など、なかなか厳しい状態が続いている。ただ、新型コロナウイルス感染の沈静化で少し気分的に明るくなり、景気も多少は良くなっていると思う。しかし、大手からの発注量は低水準である。
		食品品製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・受注量の減少が続いている。
		パルプ・紙・紙加工品製造業（顧問）	受注量や販売量の動き	・自動車関連企業は、半導体不足の問題等で景気が落ち込んでいる。全般的にも新型コロナウイルス感染症の影響が引き続き出ており、景気はやや悪い。
		鉄鋼業（経営者）	受注量や販売量の動き	・製鋼メーカーの度重なる一方的な値上げに対して、客も事業者も疲れ切っている。中小零細企業潰しをしているとしか思えない。大手自動車向けの値上げに比して我々は3倍の額の値上げを強要され、更に今も値上げを通達されている。
		金属製品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・非住宅系の建築市場自体は、さほど大きく落ち込んでいないと聞くと聞くと、物流施設が多い。当社製品を必要とするオフィス、商業施設、病院や公共施設は足元の動きが鈍く、受注が伸びない。
		一般機械器具製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・原材料の不足から減産する自動車メーカーが増え、全世界で自動車製造用の設備投資を控える傾向がある。
		電気機械器具製造業（総務担当）	それ以外	・高速通信機器の受注は継続して引き合いが強い状況で申し分ないが、半導体部品の供給不足により一部で生産、供給に遅れが出始めた製品や商品もあり、今後の懸念材料である。
		輸送用機械器具製造業（総務経理担当）	受注量や販売量の動き	・部品調達がうまくいっていない自動車の完成車メーカーが工場を停止することになり、我々にもその影響が出ている。休業も考えなければならぬ。
		建設業（役員）	取引先の様子	・9月は例年住宅販売の繁忙期に入るが、当社の成約件数は伸びず、他社も低調と聞いている。新型コロナウイルスの第5波が大きかったため、その影響があるのではないかと。
		輸送業（経営者）	取引先の様子	・コロナ禍は続いているが、巣籠りによる需要増加といわれてきた日用雑貨の物量が、前年と比べ10%ほど下がってきている。
		通信業（法人営業担当）	競争相手の様子	・公共案件に参入する新規競合の数が増えている。システムベンダのなかでも畑違いの他社に、格安価格で落札されるケースがある。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		通信業（法人営業担当）	それ以外	・基準地価の下落や10月からの小麦粉、油の値上げで、景気回復にはまだまだ時間が必要と感じる。思いの外コロナ禍が深い傷となっている。特に中小の飲食業、観光業及びそれに関連する業者全般において深刻な状況と思われる。政府の種々な交付金等、有り難い面とそれらの対象にならない業種もあり、身の回りを取り巻く環境や率直な意見等を耳にするにつけ、株価のような状況とはとても思えない。
		会計事務所（職員）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルス変異株の感染拡大による客先の売上減少で、販売状況は依然厳しい。緊急事態宣言発出の繰り返しにより自粛ムードが当たり前となり、消費しないことが当たり前となっているように感じる。
	×	出版・印刷・同関連産業（営業担当）	それ以外	・新型コロナウイルスの影響がかなり出ている。
	×	輸送用機械器具製造業（品質管理担当）	受注量や販売量の動き	・生産調整で1か月の3分の2ほどが休みになった。
	×	新聞販売店〔広告〕（店主）	受注量や販売量の動き	・緊急事態宣言下の影響が、新聞折込チラシが減少している。スーパーのなかには全く折込チラシを出さないチェーンも出てきている。
	×	公認会計士	それ以外	・コロナ禍で客である中小企業の業績は厳しい。中小企業の従業員の給与・ボーナスは上がっていない。大企業の好業績や高い株価が理解できない。
雇用 関連 (東海)		-	-	-
		人材派遣会社（営業担当）	周辺企業の様子	・自動車関係の客からは、電動化に関係する業務で、10～11月の期替わりの時期から開始の派遣の引き合いが増えている。
		人材派遣会社（企画統括）	求職者数の動き	・求職者の動きがやや活発化してきており、新規求職者数が前年同期比で増加している。
		人材派遣会社（営業担当）	求人数の動き	・求人数、成約数共に前年同期を上回り、3か月前と比較しても増加している。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数が前年同月と比べ増加している。輸送用機械器具製造業の主な業種である自動車製造業の求人数が、前年同月と比べ大きく増加している。また、労働者派遣業においても、自動車製造業関連業種が派遣先の求人数が、前年同月と比べ増加している。現状では求人状況は好調であるが、半導体等の供給不足による完成車の生産調整の影響が今後は出てくると思われる、先行きに不安がある。
		職業安定所（次長）	求人数の動き	・職種別有効求人数の前年同月比を3か月前と比較すると、一部職種で回復の遅れがみられるものの、多くの職種で上回っており、全体でも4か月連続で増加し、増加幅も伸びている。前年同月は既にコロナ禍の影響を受けており、前々年同月との比較では、全体として大きく減少しており、コロナ禍以前の水準には達していない。
		民間職業紹介機関（営業担当）	採用者数の動き	・採用決定者数は、コロナ禍の影響を受けることなく引き続き堅調に推移している。
		人材派遣会社（経営企画）	周辺企業の様子	・特に大きな変化はない。
		人材派遣業（営業担当）	周辺企業の様子	・新型コロナウイルスの影響から休業する企業も目にしており、緊急事態宣言の解除まで回復の兆しはみえない。
		アウトソーシング企業（エリア担当）	周辺企業の様子	・自動車関連メーカーの大幅減産で、工場の稼働停止は部品製造をする裾野の企業にまで影響がある。今後もこの問題が継続する懸念がある。
		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	それ以外	・求人広告は低迷が続く。緊急事態宣言の解除以降に人の動きが戻るかに注視する。
		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	周辺企業の様子	・新型コロナウイルスの感染状況は改善に向かっているが、1年半に及ぶ影響は大きく、市の中心地の店舗では閉店が増えている。映画など興行系の企業からも悲鳴が届いており、厳しい状況のまま推移していると実感する。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・有効求人数が5か月連続でほぼ同数で推移している。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		職業安定所（職員）	採用者数の動き	・企業が採用に慎重になっている。人手は欲しいが育てる余裕がなく、即戦力でなければ採用しない傾向が顕著である。
		*	*	*
	x	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・緊急事態宣言のため悪い。

7. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連 (北陸)		-	-	-
		商店街（代表者）	来客数の動き	・期待していた9月の大型連休は、1日のみ多少にぎわった感じはあったが、天候に恵まれず、厳しい結果である。新規感染者数の減少とともに少しずつ若い世代を中心ににぎわいは戻りつつあるように見える。郊外に大型ショッピングモールが開業し、市内中心部では空き店舗が目立ち始めている。
		一般小売店〔書籍〕（従業員）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が落ち着き、他の業種も来客数が増えているところは多くなっていると考え。
		百貨店（販売促進担当）	お客様の様子	・まん延防止等重点措置の解除と9月の大型連休が重なり、家族連れの来店が多くなったため、食の物産催事や食品売場は好調に推移した。レストラン街や寝具などの生活関連品フロアへの買い回りもみられる。
		百貨店（販売担当）	来客数の動き	・県による優待など様々な消費活性化策や、食の物産展やキャラクター催事といった店舗企画があり、来客数が大幅に増加している。コロナ禍とは思えないくらいに来店がある。緊急事態宣言により、旅行などをしていない分、金銭的な余裕があるようで、来店時には家族によるレストランでの食事、子供や孫への商品購入が活発化している。高額な工芸品などにも一部動きが出ている。しかし、好調な動きは子供や食に関するものなどに限定され、衣料品やバッグなどの雑貨品の購入は少ない。一方、約2年間止まっていたスーツなどのビジネスアイテムが、気温低下もあってやや回復傾向にあるが、低価格志向は変わらない。
		住関連専門店（役員）	販売量の動き	・外出自粛が少しずつなくなっているのか、来客数も含めて販売量が増加傾向にある。
		一般レストラン（店長）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いてきて、人の動きが少し出てきている。
		旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いてきて、県内の旅行補助キャンペーンが復活したので、僅かながら客が戻ってきている。
		通信会社（役員）	販売量の動き	・放送、通信サービス共に、契約者数が前年同期、さらには、コロナ禍前の前々年同期を超えている。
		美容室（経営者）	それ以外	・売上、来客数、単価、いずれも前年同月を上回っている。ワクチン接種が進んで、客の購買意欲が少しずつ前向きになってきたようである。
		住宅販売会社（営業）	お客様の様子	・活発とまではいかないが、これまで抑制されてきた感じだった客の行動が、ここ最近能動的になってきた印象を受ける。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・デパートの食の催事は例年どおりににぎわいをみせた。衣料品関係、特に婦人物では出掛ける機会が減少しているため、消費意欲は少ない。オープン時に話題となった当商店街の新たな商業施設は開店から1年が経過し、来客数は落ち着いてきたようである。
		スーパー（総務担当）	単価の動き	・特売品は売れるが、定番品が売れない状態が続いている。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・客単価も販売量も変わらない。
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・徐々に1日当たりの来客数は上昇している。週末も少しずつ来客数が回復してきている。ただ、利益という点では、購入単価が余り高くないため、数か月前と変わっていない。来客数は上昇傾向だが、購入点数や購入単価がそこまで高くない。人の流れがあり、店内がにぎわっている割に売上金額はそこまで多くない印象を受ける。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		コンビニ（店舗管理）	来客数の動き	・前半から後半になるにつれ、徐々に来客数が増加傾向にはあるものの、月トータルでは3か月前の状況と変わっていない。
		コンビニ（営業）	来客数の動き	・コロナ禍前の2019年と比べて来客数の動きが鈍化している。
		衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染は、まだ収まっていない。
		衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染拡大が落ち着いてきており、来客数が多少は増えてきているようである。
		家電量販店（本部）	販売量の動き	・前年の特別定額給付金の影響か、大型商品で厳しい状況が継続している。
		観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・緊急事態宣言下のため、人の動きが止まっている。
		観光型旅館（スタッフ）	来客数の動き	・前年はGo To Travelキャンペーンが実施されたが、今年は緊急事態宣言やまん延防止等重点措置等が出されたなかで週末のみ予約が入る状態である。売上は前年の54%にとどまっている。
		タクシー運転手	来客数の動き	・まん延防止等重点措置が適用されていたことから、タクシー利用者が大変少なかった。しかし、山岳登山のための利用が一定数売上に寄与している。
		通信会社（役員）	販売量の動き	・新規契約者数、解約件数共に大きな変化はみられない。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・今月の受注高は新築、リフォーム共に北陸3県において好調である。しかし、これが住宅ローン控除の特例による有利な条件を選択するための駆け込みであったかどうかは、10月以降の状況をみる必要がある。もしそうであれば、今後の反動が怖い。
		百貨店（売場主任）	来客数の動き	・8月2日～9月30日までまん延防止等重点措置が適用され、外出を控える動きが継続しており、来客数の大幅な減少に歯止めが掛かっている。9月の売上は4か月連続で前年割れの見込みである。
		スーパー（仕入担当）	来客数の動き	・競合店の出店や相場高で、来客数、買上点数が下がっている。ワクチン接種が進み、外食や外出需要の高まりも要因の1つと考える。
		家電量販店（店長）	販売量の動き	・残暑がなく夏物商材が売れ残っている。パソコンの販売数量が前年の6割に落ち込んでいる。
		自動車備品販売店（役員）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染が収束に向かっており、来客数や買上単価が戻るだろうと期待したが、飲食店を筆頭に自粛ムードは変わらない。来客数自体が悪かった前年を下回る状況となり、更に景気は悪化している。
		その他小売【ショッピングセンター】（統括）	販売量の動き	・新規感染者数の動向が来客数の増減に影響を与えている。今月は県内の感染状況の悪化や飲食店への時短要請等もあり、来客数が減少している。併せて今月は行楽シーズンを迎えるが、外出自粛や外出しても近場で済ますことが多いことから、依然として外出関連需要の販売量は厳しい状況である。さらに、コロナ禍の長期化により家庭内の大型商材も需要が一巡した様子で、動きが小さい。一方で日常的な実需に関しては引き続き堅調に推移している。
		高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・今月はまん延防止等重点措置適用のため、12日までは酒類の提供ができず、20時までの営業だった。13日から4人までの利用客に酒類の提供ができるようになったが、営業時間は20時までのため、夜の来客数は例年の20%ほどに過ぎず、今年最も来客数が少ない月となっている。
		タクシー運転手	来客数の動き	・9月30日までまん延防止等重点措置の適用により、夜の街は火の消えた状態で人出は全くない。昼間もなるべく外出を避けていることから、タクシーの利用が少ない。
		その他レジャー施設【スポーツクラブ】（総支配人）	お客様の様子	・県をあげての新型コロナウイルス対応で、自粛や外出控えが大変多い。体験入会も新規会員も増える様子は全く見受けられない。
		住宅販売会社（従業員）	単価の動き	・ウッドショックによる木材の価格高騰が続いている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	×	商店街（代表者）	来客数の動き	・9月中旬頃までは恐ろしいほど入出が少なかったが、下旬になって少し入出が戻ってきている。しかし、購買にはなかなか結び付いていないのが現状である。非常に財布のひもが固くなっている。
	×	一般小売店〔事務用品〕（店長）	来客数の動き	・当店では来客数の少なさが目立っている。
	×	一般小売店〔鮮魚〕（役員）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響により、来客数が激減している。
	×	衣料品専門店（経営者）	単価の動き	・アパレルの婦人衣料に関して、特に年配向けの高単価な外出着を取り扱っている店は苦戦している。年配の方は新型コロナウイルスの感染に関して用心深くなり、外出を自粛する傾向が強い。
	×	乗用車販売店（経営者）	それ以外	・メーカーからの新車の入荷が大幅に遅れており、売上が大きく下がっている。それに伴い下取り車も入庫が少なくなるため、中古車も品不足になっている。
	×	その他専門店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・とにかく暇である。長い間商売をしてきたが、最悪の状態である。景気が良くなる兆しもなく、大変厳しい状態である。
	×	一般レストラン（統括）	それ以外	・緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置の延長により、酒類販売の制限や営業時間短縮となったため、飲食店における夜の営業で売上を上げられない状況が続いた。その結果、県内では60日間もの長期の自粛期間が続き、売上に大きく影響している。
	×	スナック（経営者）	それ以外	・9月27日から営業を再開したが、月末までの4日間は無断として閉店している。会社関係が新型コロナウイルス対策を解除しない限り、客は戻らないとみている。
	×	都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・まん延防止等重点措置の延長による自粛とキャンセルにより宿泊の売上は、Go To Travel キャンペーン事業を実施していた前年の30%程度にとどまっており、厳しさが更に増している。来客数の減少に加え、客単価も低い。宴会部門は引き続き自粛で宴会はなく、レストランは休業しているため、今年度で売上が最も悪い月となっている。
	×	都市型ホテル（役員）	来客数の動き	・8月下旬以降、客室稼働率が大幅に減少している。特に金沢と富山の施設に関しては2人利用の宿泊客が減少しており、観光レジャーのための利用が減っているものと考えられる。
	×	テーマパーク（役員）	来客数の動き	・緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の延長があり、人の移動や人流の制限が求められ、今月の予約数は前年同月や2～3か月前と比べて大幅に減少している。
企業 動向 関連 (北陸)		-	-	-
		食料品製造業（経営企画）	受注量や販売量の動き	・コロナ禍における各種施策がうまくはまっていると感じる。市販用、業務用とも変わらず堅調に推移しており、特に直近では海外向けの受注増加が際立っている。
		一般機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・製造業では設備投資に対して積極的になっている。
		建設業（経営者）	それ以外	・新型コロナウイルスの新規感染者数が全国的にも県内でも著しく減少に向かっていて、それに伴いこれまで痛手を被っていた旅行、宿泊、飲食業界に明るさが戻り、設備投資再開の動きも見られる。
		繊維工業（総括）	受注量や販売量の動き	・国内ファッション衣料は依然として低調であるが、自動車用途は早くに回復している。今年度に入ってから大手SPA向けや海外向けに動きが出ており、企業や用途によってはばつきはあるものの、コロナ禍前の水準にまで回復した企業もある。ただし、自動車関連は半導体不足の影響が出ており、先行き不透明となっている。
		化学工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・受注量は大きく変わらず推移している。
		プラスチック製品製造業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大による消費の冷え込み及び半導体不足等による自動車生産停止の影響があり、今一つ回復に力強さが欠ける状況が続いている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		精密機械器具製造業（役員）	取引先の様子	・乗客数が制限されているため、店頭は厳しい状況が続いている。しかし、特に大手を中心とした高付加価値路線に力を入れている取引先に関しては、当社商品を含めて予測以上に仕入れが増えている。
		輸送業（役員）	受注量や販売量の動き	・前年のコロナ禍に比べると荷動きが活発な感じはするが、設備投資等の経費がかさんでいる。
		輸送業（管理会計担当）	受注量や販売量の動き	・前年と比べると物量は増加しているが、コロナ禍前と比べて依然として物量が戻り切っていない。
		金融業（融資担当）	取引先の様子	・緊急事態宣言明けの状態であり、新型コロナウイルスによる経済活動への影響の割合は少ない。最近、ワクチン接種率も向上しており、景気は悪化していないが良くもなっていない。
		不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・期待をしていたが、意外と客からの問合せや反応が少ない。特に個人客からの問合せが少なくなっている。
		広告代理店（経営者）	取引先の様子	・まん延防止等重点措置が解除されたが、これと目立った動きが見られない。
		司法書士	取引先の様子	・前月に引き続き、6月決算の会社の売上、利益、役員報酬等が前年より悪いところが多い。
		通信業（営業）	受注量や販売量の動き	・年度当初より予定していた大型受注取引により、受注額は6月と変化がないものの、緊急事態宣言が長引いていることにより受注量は減少しており、景気が悪化しているように見える。今年に入り、緊急事態宣言を繰り返している状況で世間が慣れてしまっているようだが、緊急事態宣言に左右されない抜本的な景気対策がない限りは一時的な回復にとどまり、本来の回復とはいえない状況が続くと考える。
		税理士（所長）	取引先の様子	・取引先の中小製造業で景気が下向きである。様々な部品関係や大手の下請をしているところで、厳しい会社が多くなっている。半導体も含め、ねじなどの細かいものに至るまで部品における中国やアジア、国内のサプライチェーンが非常に混乱している。既に部品獲得競争も始まっており、中小事業所で仕入れがうまくいっていない。請負の機械、設備投資関連の製造が部品不足で完成までなかなか至らず、売上もうまく上がっていない。
	x	-	-	-
雇用関連		-	-	-
		*	*	*
(北陸)		人材派遣会社（役員）	求人数の動き	・企業からの求人数が少ない。
		新聞社 [求人広告]（営業）	周辺企業の様子	・まん延防止等重点措置解除の期待感はあるものの、やはり新型コロナウイルスへの警戒感が否めない雰囲気が多い。
		新聞社 [求人広告]（担当者）	求人数の動き	・ここ数か月、求人数の動きに大きな変化は見受けられない。長期にわたるコロナ禍の影響で企業の体力が削られ、積極的な人的投資に踏み出せないものとみている。
		民間職業紹介機関（経営者）	周辺企業の様子	・事務所や機械備品などの卸業で、部品不足でメーカーから製品が入荷せず、商売にならないとの話がある。輸入先がコロナ禍で生産体制ができていない影響のようである。国内の景気にも影響している。
		求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・求人数が伸びない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	x	-	-	-

8. 近畿（地域別調査機関：りそな総合研究所株式会社）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (近畿)		百貨店（マネージャー）	お客様の様子	・緊急事態宣言中ではあるが、新型コロナウイルスの新規感染者数の減少による安心感や、コロナ慣れから、購買意欲が上向き、来客数が増えている。9月の中旬頃から、ボリューム層向けのファッション商材の動きが活発であるほか、富裕層向けも好調である。特選婦人服や、特選ブランド、宝飾品、絵画などは、外商活動の動きもあいまって、売上は前年比で2けた以上の増加となっている。
		百貨店（外商担当）	来客数の動き	・高齢者やファミリー客などの来客数が、増加傾向にある。
		スーパー（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数はまだ多いものの、ワクチン接種の拡大で安心感が出てきたのか、来客数が増えている。これまでは夕方以降の客が少なかったが、緊急事態宣言による外食の制限もあり、総菜などの売上が特に伸びている。
		通信会社（社員）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染状況が少し落ち着きをみせており、営業現場では客との面談などが復活しつつある。
		その他レジャー施設〔複合商業施設〕（職員）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの新規感染者数の減少で、緊急事態宣言の解除が近づき、来客数や滞在時間が顕著に改善している。
		一般小売店〔呉服〕（店員）	お客様の様子	・少しだけ客の財布のひもが緩んできた気がする。ワクチンの接種が進み、気持ちにゆとりが出てきたと感じる。
		百貨店（売場主任）	来客数の動き	・9月中旬までは、来客数が前年比で15.0%減少と非常に悪かったが、直近1週間は5.0%減少にまで回復している。10月1日からの緊急事態宣言の全面解除に向け、明るい雰囲気が出てきた。10月以降の更なる回復を期待している。
		百貨店（企画担当）	来客数の動き	・9月の中旬以降、今までに比べて来客数がやや増えてきた。このまま新型コロナウイルスの新規感染者数が減少すれば、消費も持ち直すと予想される。
		百貨店（サービス担当）	お客様の様子	・緊急事態宣言が延長された状態であるが、客の外出自粛も限界となっている。来客数は前年比で約10%減少しているが、来店した客の買上率は上昇している。また、ネット販売も従来どおり好調に推移している。
		百貨店（売場マネージャー）	来客数の動き	・今月の第2週目以降は、来客数が改善傾向にあり、特に土日は以前よりもにぎわっている。
		百貨店（店長）	お客様の様子	・来客数は、郊外を中心に増加傾向にある。買物の内容としては、依然として食料品が中心であるが、お彼岸やお月見といったイベント前後は、夕方から夜まで好調である。
		百貨店（服飾品担当）	単価の動き	・9月に入り、コロナ禍の影響が徐々に小さくなってきている感がある。来店客は前年と比べて少ないものの、高額商材の動きは良く、バッグ、ジュエリー類を中心に、ラグジュアリー商材の動きが活発化し、店舗の売上をけん引している。一方、中間価格帯の商品は、来客数と同様に今一つ振るわず、あと20～30%の来店客の増加を待っている状況である。百貨店への来店リスクが報じられているが、ワクチンを接種済みの客の来店は徐々に増え、年末のクリスマス商戦には期待がもてそうである。
		百貨店（営業推進担当）	来客数の動き	・緊急事態宣言の解除に向けて、着実に来客数が増えており、潮目が変わった印象を受ける。
		スーパー（店長）	お客様の様子	・緊急事態宣言下でも、アウトドアやレジャー関連の動きは悪くなく、客の様子からは、遊びに行きたい気持ちがあふれている。緊急事態宣言の解除後は、活発な人の移動に伴い、消費は少しずつ回復すると予想される。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・来客数が前年比で戻りつつある。新型コロナウイルスの感染対策を行いながら、客は通常の買物を始めつつある。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が減少傾向にあり、ワクチン接種も進んでいるため、今後は生活を平常に戻す動きが始まる。お盆明けに来客数が20%減少した動きも、徐々に回復してくる。
		コンビニ（店員）	来客数の動き	・緊急事態宣言が今月末で解除されることで、来客数が増える。
		コンビニ（店員）	単価の動き	・緊急事態宣言が延長されたため、まとめ買いの客が多い。
		家電量販店（企画担当）	来客数の動き	・秋商戦に向けて、調理家電やリフォームなどの需要が出始めている。巣籠り消費が季節的な需要の後押しにつながっている。
		乗用車販売店（営業企画）	来客数の動き	・良い意味でも、悪い意味でも、コロナ禍は収束に向かっていると感じる。
		乗用車販売店（販売担当）	販売量の動き	・先の予約分があったため、販売量は良かった。客の動きは増えてきている。
		住関連専門店（店長）	お客様の様子	・東京オリンピック・パラリンピックを終えた頃から客が戻り始め、受注も増えてきたように感じる。富裕客が、趣味で買い求めるケースも出てきた。ただし、これも緊急事態宣言などが半年以上続いた影響であり、これまでの状況が悪過ぎただけで、楽観できないことに変わりはない。
		その他小売〔インターネット通販〕（オペレーター）	販売量の動き	・新型コロナウイルス関連ではなく、通常の商品への注文がかなり増えてきている。
		観光型ホテル（経営者）	販売量の動き	・9月の3連休はかなりの人出があったものの、新型コロナウイルス発生前と比べると、まだ3分の1以下の販売量となっている。
		旅行代理店（店長）	販売量の動き	・緊急事態宣言の月末の解除に向けて、客に若干の動きが出てきている。
		競輪場（職員）	単価の動き	・今月の客単価は1万1458円で、3か月前の1万927円よりも上がっている。
		住宅販売会社（総務担当）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数の減少が原因かは分からないが、明らかに人の動きがあり、契約状況は上向いている。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・人流の減少が固定化し、売上の減少も固定化している。商店街の客の多くは高齢者のため、夕方以降の人出が大幅に減少している。
		一般小売店〔時計〕（経営者）	来客数の動き	・今月の景気は、一言でいえば暇であった。不要不急の外出を抑えるという政府の広報を素直に守っているからか、来客数がゼロという日も何日があった。近隣の大型商業施設をみると、駐車場が渋滞しており、車の台数だけでも人出の多さが分かる。客層の年齢差もあるが、客の動きに偏りを感じる。いずれにしても今月は寂しい月となっている。
		一般小売店〔事務用品〕（経営者）	お客様の様子	・コロナ禍が続く現状では、景気は停滞か下降気味と言わざるを得ない。コロナ禍対策の商談はあるものの、前向きな動きは少ない。
		一般小売店〔衣服〕（経営者）	来客数の動き	・緊急事態宣言の延長が続き、景気は常に悪いままである。特に、この半年間は悪いままで変わっていない。
		一般小売店〔鮮魚〕（営業担当）	それ以外	・売上は横ばいで、非常に低調である。
		一般小売店〔野菜〕（店長）	お客様の様子	・今月までは緊急事態宣言が続くため、当店が納品している飲食店も休んでおり、状況は改善されていない。
		一般小売店〔菓子〕（営業担当）	販売量の動き	・コロナ禍の影響で営業活動が難しく、買い控えも増えており、販売量が伸び悩む状況が続いている。
		百貨店（売場主任）	お客様の様子	・今月は目標を下回る見込みである。緊急事態宣言の発出で、来客数が減少しているだけでなく、購買意欲が減退していると感じる。特に、不要不急のアパレルを中心としたファッション商材は厳しさを増している。一部の客の間で、一部の商材だけが好調となっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		百貨店（企画担当）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、今まで好調であった高額品を含め、前月の中旬から今月上旬にかけての動きは非常に悪かった。ただし、今月の中旬を過ぎた頃から、徐々に回復傾向となっている。
		百貨店（販売推進担当）	来客数の動き	・緊急事態宣言に伴う入店規制もあり、来客数は前年比で10%の減少、前々年比で約40%の減少と、月全体で厳しい推移となっている。ワクチン接種が完了した年配客の増加を見込んでいたが、逆に若年層のシェアが上がっている。
		百貨店（販促担当）	来客数の動き	・緊急事態宣言が延長されるなか、必然的に来客数は前年を大きく割り込んでいる。来客数に左右される食品を始め、売上は苦戦しており、外出の自粛ムードからファッション商材の動きも鈍く、消費マインドが冷え切っている。
		百貨店（マネージャー）	お客様の様子	・売上、来客数共に大きな変化はなく、低調な水準が続いている。コロナ禍の状況でも、どうしても必要な行動には変化がないが、余り必要ではない小物の動きは悪く、高額商品を中心とした商品の動きは継続している。この状況は、3か月前と大きく変わっていない。
		スーパー（店長）	お客様の様子	・コロナ禍の状況は前年と変わらないが、各数値は前年を上回っている。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染第5波の影響が薄れつつあるが、学校行事の中止や、旅行などの外出機会の減少が続いており、食料品以外は依然として厳しい状況が続いている。
		スーパー（企画担当）	競争相手の様子	・競合相手による出店ラッシュが続き、しかもモールなどの複合施設であるため、周辺の店舗では週末や休日の来客数が減少している。
		スーパー（経理担当）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が減少傾向となっているが、客の行動に大きな変化はみられない。引き続き内食の需要は大きいままとなっている。
		スーパー（販売促進担当）	来客数の動き	・来客数は増えているが、売上はほぼ横ばいであるなど、まとめ買いの動きが鈍化している。景況感については良くも悪くもなく、大きな変化はない。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・企業の在宅勤務が定着したため、来客数が低水準のまま推移している。休業や時短営業を続けている飲食店が多く、夜間の酒類やつまみ類の売上は増えているものの、売上全体をカバーできるレベルではない。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・今回の緊急事態宣言の影響が、酒販店には最も厳しいと感じる。
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・昼間の客の動きは変わらないが、夜10時以降の客足は一向に戻ってこない。
		コンビニ（店員）	来客数の動き	・緊急事態宣言が長引くなか、特に変化は感じられない。少しずつ新規の客が増えていると感じることもあるが、やはり会社が休みの土日などは、来客数が落ち込む傾向にある。
		コンビニ（店員）	来客数の動き	・目立って大きな変化はないが、来客数がやや減少している。
		家電量販店（経営者）	お客様の様子	・コロナ禍による先行き不安から、個人消費が冷え込んでいる。
		乗用車販売店（経営者）	お客様の様子	・コロナ禍のなかで、飲食やホテル関係は本当に厳しい経営を強いられているが、我々の自動車業界では高級車が売れている。ここへきて貧富の差というべきが、コロナ禍の影響の格差が出てきたと感じる。
		その他専門店 〔宝石〕（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染がようやく収まりつつあるが、米国や中国情勢の変化により、株価が上がったり下がったりしている。状況が変わるたびに、日本の株価に影響が出るため、先行きが心配である。
		その他専門店 〔ドラッグストア〕（店員）	来客数の動き	・9月は雨も多く、来客数が1～2割減った。他社の競合店舗が近くに出店したこともあるが、同じようにクーポン配信を行っても、来客数は明らかに減っている。客の財布のひもも固くなった気がする。
		その他専門店 〔スポーツ用品〕（経理担当）	販売量の動き	・コロナ禍で飲食業や旅行業の業況は大きく悪化しているものの、元々不要不急の産業であるため、景気全体にはこれ以上の大きな影響は出ない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		その他専門店 〔宝飾品〕（販売担当）	お客様の様子	・ワクチン接種が進んでも、緊急事態宣言が発出されている間は、客足は低迷したままである。
		その他専門店 〔医薬品〕（管理担当）	販売量の動き	・緊急事態宣言が続き、外出を控える状況は変わらない。生活必需品への影響は小さいが、嗜好品や季節商材の動きは鈍化している。今後は、緊急事態宣言の解除による回復が期待できる。
		その他専門店 〔ガソリンスタンド〕（経理担当）	販売量の動き	・緊急事態宣言の延長で人流が抑制され、販売量も増えていないなど、景気回復の動きはみられない。
		その他小売〔インターネット通販〕（経営者）	販売量の動き	・緊急事態宣言の影響で来客数が減り、販売も消極的で進歩がない。
		高級レストラン （スタッフ）	来客数の動き	・夏休みが終わり、旅行の代わりに外食する動きも一段落し、今月は落ち着いた動きとなっている。
		一般レストラン （企画）	販売量の動き	・販売量は2年前の80%以下となっており、前月と比較しても微増にとどまるなど、厳しい状況が続いている。特にディナータイムは、2年前の50%の水準を継続的に下回っている。
		観光型ホテル （客室担当）	来客数の動き	・緊急事態宣言の影響が出ている。
		観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・緊急事態宣言による影響で、客の動きが悪い。
		都市型ホテル （管理担当）	来客数の動き	・緊急事態宣言の発出中であるため、営業時間などが引き続き制限されている。
		都市型ホテル （フロント）	販売量の動き	・レジャー利用の回復はなく、ビジネス利用が中心となるが、まだ緊急事態宣言下でビジネスでの往来も少ないため、数字的な伸びは鈍い。
		都市型ホテル （総務担当）	来客数の動き	・アルコール類の提供ができないため、レストランの営業を休止せざるを得ない。
		都市型ホテル （管理担当）	来客数の動き	・客室については、相変わらず個人客の間際予約が動く程度である。一般宴会では、食事付きの宴会は少ないほか、Webでの会議が多くなっている。婚礼についても引き続き延期が多く、実施の場合も少人数での開催となっている。
		旅行代理店（役員）	来客数の動き	・4月以降は緊急事態宣言の発出と、まん延防止等重点措置の適用の繰り返しで、前々年比で10%程度の水準が続いている。県民割の開始に期待していたが、まだ始まる気配はない。
		旅行代理店（支店長）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの新規感染者数が落ち着きをみせている。今年の9月の大型連休は、夏休みに旅行に行かなかった客が動く予想していたが、まだまだ周囲の様子を気にして動きが鈍い。緊急事態宣言下であることも影響しているが、前向きに動こうという気配がない。
		タクシー運転手	お客様の様子	・コロナ禍で、客の乗車機会の減少傾向は続いている。営業収入もコロナ禍以前と比べて30%少ない傾向が続いている。
		タクシー運転手	来客数の動き	・ワクチンの接種が進み、新型コロナウイルスの新規感染者数も減りつつあるが、現在もタクシーは苦しい状況である。駅での待ち時間も、今までの2～3倍に増えているほか、夜も人出が少ない状況が続いている。
		タクシー運転手	お客様の様子	・コロナ禍で客は減っているが、ここ2～3か月の状況を考えれば、少し上向いている。
		タクシー運転手	お客様の様子	・夜に酒類を提供していた店のほとんどが休業状態であり、タクシーの需要が激減している状況に変化はない。
		その他レジャー施設〔飲食・物販系滞在型施設〕（企画担当）	来客数の動き	・9月は緊急事態宣言の延長により、全体としては厳しい状況が続いている。特に、高齢者の利用が少ない。
		住宅販売会社 （経営者）	単価の動き	・以前のような木材価格が急騰する状況は落ち着いたが、住宅設備や資材の緩やかな値上げは継続している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		その他住宅投資の動向を把握できる者〔不動産仲介〕（経営者）	単価の動き	・不動産価格の動きに変化はみられない。
		その他住宅〔展示場〕（従業員）	販売量の動き	・緊急事態宣言の延長により、住宅展示場ではイベントもできないため、相変わらず来客数は伸びていない。
		その他住宅〔情報誌〕（編集者）	お客様の様子	・富裕層を中心とした購買意欲は非常に力強く、高額消費の増加が続いている。その一方、一般消費者の心理に大きな変化はみられない。
		その他住宅〔住宅設備〕（営業担当）	お客様の様子	・低い水準のまま変化がない。訪問予定の客が新型コロナウイルスに感染し、予約がキャンセルされる事例も数件あった。当社からの訪問に際しては、ワクチンの2回接種者の指名が増えているが、まだ全員が接種できていないため、やりくりが大変である。
		一般小売店〔衣服〕（経営者）	販売量の動き	・夏物のバーゲンセールでの売行きが芳しくなく、来客数も減っている。新型コロナウイルスの新規感染者数が急激に増えてから、商店街で買物をする人が減っている。
		百貨店（外商担当）	販売量の動き	・ワクチンの接種が進んでいるものの、まだ全てに行き渡っていないほか、ワクチンを打っても絶対に感染しないわけではないため、依然として来客数は低調なままである。一部の富裕層を中心とした高額消費は動いているものの、全体をカバーするには至らない。
		百貨店（商品担当）	来客数の動き	・緊急事態宣言の再延長で自粛ムードが続いたため、来客数は低調であった。ただし、月後半は新型コロナウイルスの感染が落ち着き、制限の緩和が検討されるなか、回復基調となっている。売上も前年の水準には届いていないが、徐々に回復している。商品別には食品が比較的好調であるが、衣料品や化粧品は厳しい状態が続いている。また、対面による不安がないネット販売は、食品を中心に順調に推移している。
		百貨店（特選品担当）	来客数の動き	・緊急事態宣言が延長になり、来客数が事前の予想を大きく下回っている。
		百貨店（マネージャー）	来客数の動き	・京都地区でも緊急事態宣言が続き、外出を控える人が多かった影響で、来客数が伸びなかった。時期としては、本来はセーターなどの秋物商材が動くシーズンであるが、強い購買意欲がみられない。
		スーパー（店長）	単価の動き	・生活必需品のみを購入する形に変わってきている。
		スーパー（店員）	販売量の動き	・長雨の影響で野菜の値段がかなり上がっており、客もやむを得ず購入していると感じる。
		スーパー（企画担当）	来客数の動き	・3か月前から、来客数の前年比が90%台で推移している。
		スーパー（社員）	来客数の動き	・前年のコロナ禍で大きく減少した来客数が、今年の前半までは順調に回復していたが、前月から今月にかけて、再び減少する店舗が目立つ。コロナ禍への慣れにより、外食から食品スーパーへの需要のシフトが少なくなっている。
		コンビニ（経営者）	それ以外	・以前ほどではないものの、求職者の動きが増えたように感じる。
		コンビニ（店長）	それ以外	・求職者が以前と比べて増えたように感じる。
		衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・与党の総裁選挙のスケジュールが発表され、現総理が立候補しないと表明して以降、来客数が少なくなっている。
		衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・コロナ禍により、来客数は3か月前と比べて横ばいか、少し悪いと感じる。ワクチンの接種率が上がっているため、今後に期待しているが、例年9月は秋冬商戦が始まるものの、今年は来客数が前年の水準にも届いていない。
		家電量販店（店員）	単価の動き	・来店前に、商品の在庫確認や価格の問合せが増えたことで、単価が下がってきたように感じる。以前は、店頭での商品の比較ができたため、商品の変更が可能であり、客への情報提供の機会もあったが、電話での商談では難しいと感じる。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		家電量販店（店員）	お客様の様子	・緊急事態宣言が発出されているが、来客数は前年並みで推移している。ただし、購買意欲がないのか、成約率は低下傾向である。これは先行き不安が原因ではないと感じる。
		家電量販店（店員）	来客数の動き	・家電量販店では、特別定額給付金や内食などによる需要の増加により、前年は売上が増えた。一方、今年は来客数が前年の約75%に減少したため、決算セールもあったものの、売上は減少している。
		乗用車販売店（販売担当）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響で生産が間に合っていない。海外からの部品供給の回復が待たれる。
		その他小売〔インターネット通販〕（企画担当）	お客様の様子	・緊急事態宣言の影響で来客数が伸び悩んでいる。ワクチンを接種済みの人が増えているが、まだ安心できないため、自粛ムードが払拭できない。食品では菓子や酒類、総菜などの持ち帰り需要が堅調な一方、レストランは前年比で2けた減と、依然として厳しい状態が続いている。
		その他飲食〔自動販売機（飲料）〕（管理担当）	販売量の動き	・ホテルは新型コロナウイルスの感染者専用となり、大手企業が入居しているオフィスビルはテレワークが多いため、なかなか販売量が増えない。
		都市型ホテル（販売促進担当）	来客数の動き	・7月の稼働率は40%程度と、春頃の低迷を脱した感があったが、8～9月は30%を下回るなど、再び悪化がみられる。ただし、緊急事態宣言の最中でも、宿泊に大きな変動はなかった。一方、レストランのランチは8～9月の来客数がかなり減っており、1日の平均でも7～8名少なくなっている。
		都市型ホテル（客室担当）	単価の動き	・緊急事態宣言に伴う営業規制や、外出の自粛による影響が大きく、新規予約の獲得は厳しい状況が続いている。単価を下げて販売せざるを得ず、苦戦が続いている。
		通信会社（経営者）	お客様の様子	・ベトナムを中心とした、東南アジアでのロックダウンによる影響が出ている。
		通信会社（企画担当）	お客様の様子	・取引先である広告代理店からは、デジタル関連以外の動きが悪く、全体として売上が減っていると聞いている。リアルなプロモーションができないなかで、売上が2年前の半分以下となる企業も多い。
		テーマパーク（職員）	来客数の動き	・緊急事態宣言の発出で大幅に来場者数が減り、運営しない方が経費の負担が楽という状態である。
		住宅販売会社（経営者）	販売量の動き	・新規客との、対面での接点が少なくなっている。
	×	一般小売店〔花〕（店長）	それ以外	・コロナ禍の影響が続いている。
	×	百貨店（宣伝担当）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染で、8月に百貨店でクラスターが発生した後、入店客の回復がみられない。入場制限が続いていることもあるが、都心に買物に行く行為そのものから離れる状態が、普通になっているようである。
	×	百貨店（売場マネージャー）	来客数の動き	・7月の来客数は、前年比で4.5%の増加と改善傾向にあったが、7月後半の東京オリンピックの開催以降、新型コロナウイルスの感染拡大で来客数は減少し、8月は前年比で7.0%の減少となった。9月も減少の動きが続いている。
	×	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・客が全く店に来ない。商品が売れないのに人件費は掛かるため、事業の継続が難しくなってくる。
	×	家電量販店（人事担当）	販売量の動き	・2年前には消費税増税前の駆け込み需要があり、前年には特別定額給付金による巣籠り需要の拡大があったため、今年はその反動減で低調な推移となっている。
	×	住関連専門店（店員）	それ以外	・周囲に職を失ったり、所得の下がった人がみられる。
	×	その他専門店〔食品〕（経営者）	販売量の動き	・緊急事態宣言の発出による、飲食店での酒類の提供禁止要請が大きく影響している。
	×	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・緊急事態宣言の発出が続くなか、今月は特に来客数と売上が激減している。繁華街には人が戻ってきており、ビジネス街でのランチ需要はあるものの、全体的な人出は少ない。各種の要請に従わない一部の飲食店は、通常よりもにぎわっている印象を受けるが、それを景気の回復とはいえない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	×	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・緊急事態宣言中は自治体のルールに従い、夜は時短営業を行い、酒類の提供なしで対応していたが、やはり人通りは少なく、来客数は減っている。
	×	観光名所（経理担当）	来客数の動き	・緊急事態宣言の発出や延長が発表されるたびに、来場客数が減少し、解除が近づくにつれて、徐々に来街者が増えるという状況を繰り返している。
企業 動向 関連		-	-	-
(近畿)		*	*	*
		食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・依然として外食向けの製品は動きが悪く、家庭向けの製品で何とかカバーしている状況に変化はない。
		食料品製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・緊急事態宣言が解除されない限り、人の流れは鈍いままのため、特に飲食店向けの売上は全く変わらない。
		繊維工業（団体職員）	受注量や販売量の動き	・原材料価格の高騰が続いている一方、販売価格の値上げ交渉が思うように進んでいない。
		パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	取引先の様子	・部品調達の遅れや取引先の在庫調整の影響で、受注量が増加しない。
		出版・印刷・同関連産業（企画営業担当）	受注量や販売量の動き	・受注量に変化はみられない。新型コロナウイルスの影響で、各企業の動きにも勢いが感じられない。
		窯業・土石製品製造業（管理担当）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数は減少傾向にあるが、受注量や販売量が増加するまでには至らず、現状で大きな変化はない。
		金属製品製造業（開発担当）	受注量や販売量の動き	・中国が国慶節に入るため、状況は変わらない。
		一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・過去1年半の間に、急激に引き合いや注文が減っている。この状況はほとんど変わっていない。
		一般機械器具製造業（設計担当）	受注価格や販売価格の動き	・新型コロナウイルスの影響で、設備投資関連の売上増加が期待されたが、物品の価格上昇で先送りされる案件も出てきている。
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・今年は前年よりも良くなっているが、9月になって少し停滞気味となっている。
		電気機械器具製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・受注、売上共に横ばいである。
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・このところは受注が増えそうな気配がなく、問合せも増えていない。
		建設業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・木材などの建設資材価格の高騰が続いている。コロナ禍に加え、建設価格の上昇についても、設備投資への影響が出てくる可能性が高い。
		金融業（副支店長）	取引先の様子	・取引先との会話でも、受注が増加したといった声はなく、余り変わらないという内容が多い。
		金融業〔投資運用業〕（代表）	それ以外	・新型コロナウイルスの新規感染者数は徐々に減っているものの、飲食店を中心に、本格的な回復にはしばらく時間が掛かる。
		広告代理店（営業担当）	受注量や販売量の動き	・Web媒体、紙媒体の広告売上が、2年前の水準を下回っている。
		広告代理店（営業担当）	受注量や販売量の動き	・緊急事態宣言の解除が予想されるが、広告出稿の動きはまだ戻ってこない。
		その他非製造業〔商社〕（営業担当）	受注量や販売量の動き	・引き合いの件数は増えてきたが、細切れでの問合せが多くなり、受注量という意味ではかなり減っている。
		繊維工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・緊急事態宣言下で集客の制限があるなか、催事の延期や中止もあって売上が伸びず、前年よりも20%以上ダウンしている。年度後半に向けて、余り期待が持てない状況である。
		化学工業（管理担当）	受注量や販売量の動き	・自動車、電機、建設材料関連共に、出荷量が減少してきている。
		プラスチック製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・取引先からの問合せ件数が減っている。受注量の減少は若干であるが、問合せ件数の減り方は、それを上回っている。
		金属製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・半導体不足や、コロナ禍による海外からの部品の入荷不足で、自動車各社が2割強の減産を余儀なくされている。それに伴い、自動車向けを中心に、20~30%の減産となっている。
		金属製品製造業（営業担当）	受注価格や販売価格の動き	・鋼材のほか、様々な資材の値上がりで製造コストが上昇しているが、それに伴う販売価格への転嫁がなかなか認められず、採算が悪化している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		電気機械器具製造業（宣伝担当）	受注量や販売量の動き	・エアコンや冷蔵庫を中心に、全般的に低調な荷動きとなっている。
		建設業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・これだけ夜の飲食業の営業自粛が続けば、設備投資の減少はもちろん、社員のモチベーションも下がりがねない。
		輸送業（営業担当）	取引先の様子	・海外でのロックダウンによって商品が入らず、納期が3か月先となっている。
		金融業（営業担当）	それ以外	・緊急事態宣言の発出により、食品関連の不振が続いている。今後もコロナ禍の状況によっては、まだまだ厳しい期間が続く。
		その他サービス業〔店舗開発〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・お盆以降も、緊急事態宣言の影響で鉄道の利用客数は一向に回復せず、新幹線の輸送人数も前々年比で3割程度となっている。
		その他非製造業〔機械器具卸〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量が少なくなってきたほか、設備投資や物件の見積依頼もないため、先行きは不安である。
	×	不動産業（営業担当）	取引先の様子	・新型コロナウイルスの影響で次々と店舗が閉鎖している。本日もチケット販売店から、新幹線の切符や回数券の販売を中止するため、解約したいという申出がきている。
	×	経営コンサルタント	取引先の様子	・当社は3年ほど前から不動産事業も行っている。土地を調達するデベロッパーにとって、今は仕入れ時であり、建築費は高いが、土地のストックを増やしている。一方、地主側では、補助金や家賃の減免で何とか営業を続けてきたが、いよいよテナントの撤退が本格化し、空き店舗が続出している。資金の回らない状況が続き、景気は更に悪化すると感じる。
	×	経営コンサルタント	競争相手の様子	・企業向けに社員の能力開発の支援を行っているが、同業他社も大きな嵐のなかで苦しんでいる。コロナ禍の大不況のなかで、各社ともコンサルタントを活用したり、社員の能力開発を行う状況では全くないため、かなり苦戦している。
	×	その他非製造業〔民間放送〕（従業員）	取引先の様子	・2年近く続いているコロナ禍による業績悪化で、来年度以降の予算への大きな重しとなってきている。
	×	その他非製造業〔電気業〕（営業担当）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染収束時期が見通せない。
雇用 関連 (近畿)		人材派遣会社（営業担当）	求職者数の動き	・緊急事態宣言中も休業などの話が減り、通常出社の動きが増えてきた。また、求職者も20～30代の動きが活発化しており、求人件数も増えているため、転職が決まる確率も高い。
		人材派遣会社（支店長）	求人数の動き	・下期に向けて、各社の増員計画が明らかとなっている。
		職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・新型コロナウイルスの新規感染者数が激減しており、まん延防止等重点措置などの解除も予定されているため、良くなってきている。
		人材派遣会社（経営者）	求人数の動き	・今月末での派遣の終了件数は、思ったほど多くなかった。派遣先企業が下期をにらんで人材の確保を進めていることが一番の原因である。ずれ込んでいた案件がようやく動き出しており、この下半期から年末にかけて、景気は少し上向きそうである。
		人材派遣会社（営業担当）	周辺企業の様子	・心齋橋や難波などの商業施設での、飲食店や大型の薬局の閉店が目立つ。
		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	周辺企業の様子	・これまで緊急事態宣言の発出や解除を繰り返してきたこともあり、宣言が解除されただけでは、企業の慎重な姿勢は変わらない。消費者の購買意欲も瞬間的には高まるかもしれないが、継続しないと予想される。
		新聞社〔求人広告〕（管理担当）	求人数の動き	・緊急事態宣言が再び延長され、飲食や旅行、ホテル、観光などの業界は苦しい状況が続く。多くの業界で求人数の伸びはみられず、景気は引き続きコロナ禍の影響を大きく受けている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		職業安定所（職員）	求職者数の動き	・大阪の有効求人数は前月比で横ばいであったが、有効求職者数が前月比で3.8%の増加と2か月連続で増えた。その結果、有効求人倍率は1.10倍と、再び令和2年以降での最低水準となっている。自己都合での離職者が4か月ぶりに前年比で増加に転じたものの、積極的な転職活動というよりも、新型コロナウイルスに感染し、職場に居づらくなつての退職や、時短営業で収入が減少しての退職など、感染の影響による離職が多い。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人数は底堅く推移しており、製造業や交通警備、製造業派遣などの求人数が少し増えている。
		人材派遣会社（役員）	求人数の動き	・前年並みのオーダー件数は確保しているものの、伸びが鈍化している。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・関西の地元企業からの新聞出稿をみると、コロナ禍の影響もあり、前年比で80%程度の水準にとどまるなど、引き続き悪化傾向がみられる。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・8月20日の緊急事態宣言の発出以降、新規求職者数は減少している。過去のケースでは、解除中は一貫して求職者数が増加傾向となるなど、コロナ禍では求職者数は増加傾向にあることから、この動きが変わらない限り、景気が良くなっているとは言い難い。
		民間職業紹介機関（営業担当）	求人数の動き	・新卒採用市場では、6～7月の採用広報解禁時と比べると、9月は求人数が徐々に減少する時期となる。今年は前年以上に求人が限られており、採用が難しい理系の技術職や、求職者が集まりにくい販売職に限られる。
		民間職業紹介機関（営業担当）	求人数の動き	・コロナ禍による、ワクチン接種関連の受付や事務処理といった特需が一巡し、落ち着いてきた一方、通常の求人数は横ばいで推移している。
		学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・未内定の学生が、面接を受けられる企業が日に日に減っているため、面接先を探すのに苦労している。
	×	アウトソーシング企業（社員）	採用者数の動き	・職場に欠員が出て、すぐに募集を掛けようとしないうえ、人手不足の状況である。

9. 中国（地域別調査機関：公益財団法人中国地域創造研究センター）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連		-	-	-
(中国)		一般小売店〔靴〕（経営者）	販売量の動き	・既存客が戻ってきている。
		百貨店（営業企画担当）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの新規感染者数の減少で、婦人服の売上の前年比が上昇傾向にある。その他の商材の売上は、依然として減少傾向が続くが、近隣イベントも開催されつつあり、徐々に回復してきている。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・売上は前年比99.5%で推移し、3か月前と比べて増加している。緊急事態宣言の影響で、特に週末は来客数が増加し、まとめ買いも増え、客単価が上昇している。
		スーパー（財務担当）	単価の動き	・売上は、8月27日からの緊急事態宣言発出により、前年を上回っており、9月13日にまん延防止等重点措置に切り替わっても、前年を上回っている。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・競合店が出店してから1年経過し、新型コロナウイルスも落ち着いてきたので、9月に入り、来客数が戻りつつある。
		コンビニ（副地域ブロック長）	来客数の動き	・緊急事態宣言の発出以降、客が近くのコンビニを利用する頻度が上がっている。今後、ワクチン接種が進み、人々の往来も増えてくる。
		自動車備品販売店（経営者）	販売量の動き	・月末近くなり、来客数が少しずつ増加している。売上にはつながっていないが、今後が期待できる。
		その他専門店〔土産物〕（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が減少し、来客数が若干上向きになってきている。近隣からの個人客が多く、観光客は少ないが、良くなっている。
		タクシー運転手	お客様の様子	・まん延防止等重点措置で、飲食店等が時短営業している影響で、夜間の売上が激減しているが、日中の仕事がまずまず良い状態であることから、3か月前と比べるとやや良くなっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		放送通信サービス（総務経理担当）	お客様の様子	・利用料金の延滞率もここ数か月落ち着いており、家計の支出能力に大きな変化がない。
		競艇場（企画営業担当）	販売量の動き	・G1競走が開催されたため、十分な売上が確保できている。
		設計事務所（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルス禍でも、一定の来客数や問合せ件数があり、前向きに考える客の割合が多い。
		住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・人の動きが良くなり、客が時間制予約のイベントに比較的集まりやすくなっている。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの新規感染者数が減少してきているが、景気は変化していない。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・3か月前と比べても、特に変化はない。
		一般小売店〔眼鏡〕（経営者）	販売量の動き	・7月以降、売上が減少に転じている。
		一般小売店〔印章〕（経営者）	販売量の動き	・景気に変化はないが、新型コロナウイルスの規制が解除されれば、人の動きが多少良くなる。
		一般小売店〔洋裁附属品〕（経営者）	販売量の動き	・人の流れが多少良くなっているが、売上がつながっていない。
		百貨店（経理担当）	販売量の動き	・百貨店部門はほぼ前年並みだが、観光部門は緊急事態宣言の影響で前年を下回っている。
		百貨店（営業担当）	来客数の動き	・月の前半は新型コロナウイルス感染症に加え、雨や台風の影響もあり、来客数が前年と比べて少なかった。中旬以降は、新型コロナウイルスの新規感染者数が減少してきたこともあり、特に、大型連休以降、若者を中心に来客数が増加している。ただ、依然として、客の購買意欲は戻っていない。
		百貨店（営業担当）	販売量の動き	・家族そろっての来店が多く、1着当たりの単価が低下している。
		百貨店（営業担当）	来客数の動き	・緊急事態宣言が月末まで延長されたため、来客数が落ち込んでいる。
		百貨店（売場担当）	販売量の動き	・300万円の時計やブランドのバッグが売れている。
		百貨店（売場担当）	お客様の様子	・食品や高級ブランドなどは回復基調にあるが、婦人服や紳士服といった衣料品はまだまだ厳しい状況が続いている。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・緊急事態宣言の影響で、客の来店頻度が低下している。客が週末の午前中に集中し、午後以降夕方にかけて、来客数が減少傾向にある。競合店の影響もあり、高単価商品が不調である。また、秋の行楽という雰囲気もなく、家飲み等の行動制限も残っている。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・8月は雨の影響で来客数が若干減少したが、9月は徐々に元に戻ってきている。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・ここ2～3か月の間、来客数や売上の前年比にほとんど変化がなく、緊急事態宣言中であっても変わった様子がない。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・来客数の減少傾向が続いており、状況が好転していない。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・ここ3か月間、販売量にほとんど変化がない。
		スーパー（総務担当）	単価の動き	・単価、来客数共に順調に推移している。
		スーパー（業務開発担当）	来客数の動き	・野菜の単価が落ち着いてくるなど好転材料はあるが、食品全体が値上がりしているため、客の購買意欲は低下気味である。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・来客数は前年割れだが、客単価は回復傾向にある。
		コンビニ（支店長）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染症の影響で、客が外食を見合わせる事が定着し、主食系の落ち込みが大きくなっている。
		家電量販店（店長）	来客数の動き	・例年と比べ、エアコンの売上が悪くなっている。また、東京オリンピックが開催されたことや、アナログ放送から地上デジタルテレビ放送に移行して10年経過したことなどから、テレビの買換え需要を期待したが、来客数が少なく、売上也良くなっていない。
		家電量販店（企画担当）	来客数の動き	・来客数や売上が前年の8割程度となっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		乗用車販売店 (営業担当)	来客数の動き	・9月決算フェアを開催したが、今までのような来客数ではなかった。緊急事態宣言によって、大型のイベントが開催できなくなっている。
		その他専門店 [和菓子](経営者)	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響で、景気は変わらない。
		その他専門店 [時計](経営者)	単価の動き	・今月は高単価の商品が売れている。
		その他小売 [ショッピングセンター](支配人)	来客数の動き	・3か月前は、緊急事態宣言が解除され、課題の飲食も前年並みまで回復していた。現在は、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の適用による時短営業の継続で、特に、飲食が大きな影響を受けているため、景気は改善していない。
		その他小売 [ショッピングセンター](管理担当)	お客様の様子	・緊急事態宣言中ではあるが、以前ほど客が行動を自粛している様子はなく、状況は大きく変わっていない。ただ、依然として、客に将来的な不安や感染に対する危機感があり、人の多い混雑する場所を避けている様子はある。
		高級レストラン (事業戦略担当)	販売量の動き	・9月で緊急事態宣言解除との見方が強いが、まだ予約数などに動きはない。
		観光型ホテル (営業担当)	来客数の動き	・緊急事態宣言やまん延防止等重点措置などの影響で、景気は良くなっていない。
		都市型ホテル (企画担当)	来客数の動き	・緊急事態宣言からまん延防止等重点措置への切替えにもかかわらず、アルコールの提供ができないため、レストランや宴会などは来客数の低迷が続いている。3連休は行楽シーズンでもあり、近県からの個人客で宿泊の稼働はやや持ち直したが、その後は落ち込んでいる。駅周辺の商業施設ではテナントの入替えが目立っている。
		都市型ホテル (総支配人)	来客数の動き	・今月も緊急事態宣言やまん延防止等重点措置による人流の自粛期間のため、県境を越える移動が抑制され大幅な落ち込みとなっている。また、自治体による県内需要の促進策が一時停止されたことが追い打ちとなり、更に厳しさが増している。
		旅行代理店(経営者)	販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響で、旅行業界は、相変わらず、最悪の状況である。
		旅行代理店(支店長)	販売量の動き	・緊急事態宣言が継続され、旅行需要が引き続き低迷している。緊急事態宣言解除後の行動規制の緩和に期待したい。
		タクシー運転手 タクシー運転手	来客数の動き お客様の様子	・景気の悪い状況が続く、先行きも不透明である。 ・新型コロナウイルス感染症に対する客の警戒心が強く、夜の動きが悪いため、景気は良くなっていない。
		通信会社(営業担当)	お客様の様子	・緊急事態宣言の長期化により、客の購買意欲に制限が掛かっている。
		通信会社(企画担当)	お客様の様子	・緊急事態宣言やまん延防止等重点措置を繰り返すサイクルからようやく抜け出す環境になってきているが、新型コロナウイルス感染症への対応が常態となってきたなかで、日常活動を一遍に元に戻そうという機運はない。
		通信会社(工事担当)	お客様の様子	・客の様子から判断すると、景気に変化はない。
		通信会社(経理担当)	お客様の様子	・緊急事態宣言の影響で、人の動きも悪く、景気に余り変化はない。
		テーマパーク (業務担当)	それ以外	・緊急事態宣言に伴い、臨時休園となっている。
		ゴルフ場(営業担当)	来客数の動き	・以前よりは若干良くなっているが、3か月前とさほど変わらない。
		美容室(経営者)	来客数の動き	・緊急事態宣言中で客が戻ってこない。
		設計事務所(経営者)	販売量の動き	・新型コロナウイルス禍で、景気の先行きが不安という理由で建築計画を先延ばしする客が増加している。
		設計事務所(経営者)	お客様の様子	・緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の影響で、民間の客が建築工事に慎重となっており、しばらくの間は不透明な状況が続く。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		住宅販売会社 (営業所長)	お客様の様子	・政府の税制や補助金制度の期限が迫っている関係で、客の動きが出ているが、一時的な現象であり、今後は、政府の支援策が必要となる。
		商店街(代表者)	単価の動き	・子供服の需要が低下しており、商品価格を下げても購入してもらえない。
		一般小売店〔食品〕(経営者)	来客数の動き	・新型コロナウイルス禍で、食品スーパーは追い風の状況にあったが、ワクチン接種が進み、客の新型コロナウイルスに対する意識が変化していることから、来客数は減少傾向にある。
		一般小売店〔茶〕(経営者)	来客数の動き	・前年と比べ、Go To TravelキャンペーンやGo To 商店街キャンペーンの補助がないため、経済が冷え込んだままである。
		百貨店(外商担当)	お客様の様子	・緊急事態宣言の発出により来客数、売上共に大幅に減少している。特に、主要客である高齢者の来客数が大幅に減少している。
		スーパー(販売担当)	来客数の動き	・客単価が少しずつ低下している。
		衣料品専門店(経営者)	お客様の様子	・新型コロナウイルス禍で、着物を着る機会がなくなっている。
		衣料品専門店(代表)	来客数の動き	・緊急事態宣言が続くなか、旅行やイベント等を自粛することにより、洋服を買う機会が減少している。
		家電量販店(店長)	販売量の動き	・来客数は若干回復傾向にあるが、客の財布のひもが固い。小物商材の需要が多く、大物商材の購入は依然として低迷している。
		家電量販店(販売担当)	販売量の動き	・来客数は戻ってきているが、販売量は少ない。
		乗用車販売店(営業担当)	販売量の動き	・車の生産が半年程度遅れているため、新車を販売するにも客の購買意欲が湧かない。
		乗用車販売店(営業担当)	販売量の動き	・半導体不足や商品改良のタイミングが重なり、生産が追いつかず、売上に繋がらないため、過去にない販売量となっている。
		その他専門店〔布地〕(経営者)	お客様の様子	・月の後半から新型コロナウイルスの感染が少し落ち着き、県外からの客も増加しているが、新型コロナウイルスに対する不安が残っているため、依然として、人々の動きは鈍い。
		一般レストラン(経営者)	来客数の動き	・外食自体が悪ととられる風潮ができてしまい、客がびくびくしながら利用している。
		一般レストラン(店長)	来客数の動き	・前月からの緊急事態宣言の影響による客の自粛が顕著であり、既に新型コロナウイルス禍だった前年と比べても、来客数が約5割減少している。デリバリーなどに力を入れて営業しているが、それでも追いついていない。
		バー(経営者)	それ以外	・緊急事態宣言やまん延防止等重点措置により終日休業している。
		都市型ホテル(企画担当)	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、入出が減り、閑散とした場所が多い。
		タクシー運転手	販売量の動き	・夜の街は閑散としており、運転手を2割程度休ませている状況で、売上が減少している。景気は今が底で、非常に悪い状況である。
		通信会社(広報担当)	お客様の様子	・新型コロナウイルス禍で買い控えが当たり前になっている。
		テーマパーク(管理担当)	お客様の様子	・政府の政策の影響で、景気はやや悪くなっている。
	×	商店街(理事)	来客数の動き	・緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の影響で、客が商品を購入するどころか、外出もしない状況になっているため、来客数が落ち込んでいる。
	×	スーパー(販売担当)	来客数の動き	・同系列の近隣店舗が改装で閉店している状況にありながらも、来客数や売上が伸び悩んでいる。生活雑貨品は比較的好調に推移しているが、衣料品や食品は落ち込みが著しい。
	×	乗用車販売店(統括)	販売量の動き	・9月の販売は、前年比70%と大変厳しい状況である。
	×	自動車備品販売店(経営者)	販売量の動き	・緊急事態宣言中で自家用車での遠出や旅行もなく、客の来店頻度が低迷、消耗品の需要も減少している。
	×	一般レストラン(経営者)	来客数の動き	・緊急事態宣言の延長や時短営業の要請で、売上が前年の7割以下となっている。
	×	一般レストラン(経営者)	それ以外	・飲食店で、酒を販売しているため、1か月以上営業していない。支援金も振込みが遅く、滞っているものもあるため、非常に苦しい。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	×	観光型ホテル（副支配人）	お客様の様子	・緊急事態宣言の延長で、ホテルの休業が続き、客の動きがなくなっている。
	×	タクシー運転手	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響で、飲食業界が厳しく、人の動きが良くないため、非常に厳しい状況が続いている。
	×	観光名所（管理担当）	来客数の動き	・7月は全日営業ができたが、まん延防止等重点措置により8月21日以降9月末まで休館となっている。
	×	美容室（経営者）	お客様の様子	・緊急事態宣言が発出されるたびに、客が引き籠り、景気が悪くなっている。
企業 動向 関連 (中国)		輸送用機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量や販売量の動きが良くなっている。
		繊維工業（財務担当）	それ以外	・新型コロナウイルスの新規感染者数が減少し、経済活動が活発になっている。
		窯業・土石製品製造業（総務経理担当）	受注量や販売量の動き	・鉄鋼業向け生産が好調を維持している。また、大型案件の納期が迫っており、その対応もあって生産現場は非常に多忙な状況となっている。
		輸送業（支店長）	受注量や販売量の動き	・小口の商品が伸びている一方で、農産物や会社関係の書類が減少している。
		不動産業（総務担当）	それ以外	・来客数や成約件数が、1～2か月前と比べると約10%程度増加している。
		会計事務所（経営者）	受注量や販売量の動き	・間接部門系アウトソーシング業務受託について、発注者側で外注化処理が進んでいる。マーケティング業務等販売促進関連業務も徐々に回復、コンサルティング部門での事業再構築支援等の経営コンサルティング業務受託も増加している。
		農林水産業（従業員）	受注量や販売量の動き	・緊急事態宣言中の時短営業等の影響で、景気は良くない。
		食料品製造業（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・経費削減を進めているが、原料費の高騰が激しく、販売価格を引き上げているため、厳しい状況が続いている。
		木材木製品製造業（経理担当）	受注価格や販売価格の動き	・緊急事態宣言等の影響で、景気は余り良くないが、業界としてはテレワーク等で自宅の滞在時間が増加し、リフォームや新規の住宅購入などの需要が創出されることで、売上が安定している。ただ、資材や運賃の高騰など、コスト高もあり、利益面では厳しい状況にある。
		化学工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・取引先の様子を含め、景気についての変化は感じられない。
		鉄鋼業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・受注量や販売量が高水準で推移している。
		鉄鋼業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・お盆休みが明けてからも大きな変化はない。
		非鉄金属製造業（業務担当）	受注価格や販売価格の動き	・非鉄金属価格の高値安定が好材料となっている。
		金属製品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・受注量は3か月前とほぼ同水準であり、大きな変化はない。
		電気機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・5G市場や半導体向けのパッケージ基板は、需要が拡大しているものの、電子部品等の供給不足の影響で、受注から出荷前までのリードタイムが伸びている。このため、売上は前月比で横ばい、前年比では減少傾向にある。
		輸送業（総務・人事担当）	受注量や販売量の動き	・海外向けの受注量が新型コロナウイルス感染症の流行前の水準まで回復する兆しがない。
		輸送業（総務担当）	取引先の様子	・客ごとに違いはあるものの、全体的な荷動きに大きな回復はみられない。
		通信業（営業企画担当）	受注量や販売量の動き	・ここ3か月のデータセンターやICTに関する商材への引き合いの動きは落ち着いており、新型コロナウイルスによる影響も余り感じない。
		金融業（融資企画担当）	取引先の様子	・地元完成車メーカーの国内生産が半導体不足により当初計画の5～6割程度に落ち込んでいるため、系列の地元部品メーカーの受注も大幅な減少となり、操業度も大幅に低下している。
		金融業（貸付担当）	取引先の様子	・ワクチン接種が進んでいるが、地方ではまだ行動自粛のマインドが残っており、消費拡大につながらないため、企業の業績回復の動きは鈍い。
	広告代理店（営業担当）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響で、受注量や販売量が増加しない。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量がやや減少している。客の店内での滞在時間が短くなり、出費も控えているようである。
		輸送用機械器具製造業（経営企画担当）	受注量や販売量の動き	・半導体不足やアジア圏の新型コロナウイルス禍による輸入品の停滞で、受注の減少が続いている。
		建設業（総務担当）	取引先の様子	・物件数が多く、技術者の稼働状況を考慮しながらの調整が必要な状況が続いている。ただ、新型コロナウイルスの感染拡大で、衛生器具等の納期遅延や鋼材等の資材高騰といった負の要素が増加している。
	x	*	*	*
雇用関連		-	-	-
(中国)		人材派遣会社（支店長）	求人数の動き	・新型コロナウイルス禍でも、人材派遣の依頼があり、求人数は前年と比べて増加傾向にある。
		求人情報誌製作会社（経営者）	求人数の動き	・年末にかけての景気回復を見込んで、求人数が増加している。
		民間職業紹介機関（求人・人材採用担当）	周辺企業の様子	・製造業を中心に求人数が急拡大しているが、一時的なものかもしれない、先行きは不透明である。
		職業安定所（所長）	求人数の動き	・宿泊業、飲食サービス業の8月の新規求人数は、前年の150%となり、大幅に増加しているが、前々年からは70%減少している。改善傾向にあった新規求人数は、新型コロナウイルスの新規感染者数が急増したこともあり、8月は横ばいとなっている。
		職業安定所（雇用関連担当）	採用者数の動き	・7～8月は紹介件数が前年を下回り、就職件数が前年と比べ微増となっている。8月の求人数は前年と比べ、12.5%増加している。
		職業安定所（事業所担当）	求人数の動き	・令和3年7月の新規求人数は、前年から5.1%減少している。主な産業別では、製造業が26.2%の増加、卸売業・小売業が28.7%の増加となっているが、建設業が0.2%の減少、情報通信業が9.6%の減少、運輸業・郵便業が12.5%の減少、宿泊業、飲食サービス業が36.5%の減少、生活関連サービス業、娯楽業が28.4%の減少、医療、福祉が2.2%の減少となっている。
		民間職業紹介機関（職員）	それ以外	・業績は良いものの、後継者がおらず、売却しようにも従業員がほとんどいないため買手がなく、後継者採用を検討するものの、高齢な経営者にそこまでの余力、熱意もなく、結果的に後継者採用は行わず、廃業へ向けて調整するという話がある。
		学校〔短期大学〕（進路指導担当）	求人数の動き	・3か月前と比べても、求人数に大幅な増加がみられない。
		学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・企業の求人件数に大きな変化がない。
		その他雇用の動向を把握できる者	求人数の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大で雇用面等に影響が出ている。
		人材派遣会社（支社長）	求人数の動き	・全体の求人数は増加しているが、内訳をみると、難しい求人の数が増加し、簡単な求人の数は減少しており、就労支援が進んでいない。
		人材派遣会社（経営戦略担当）	周辺企業の様子	・新型コロナウイルス感染症の第5波の影響で、地域経済はやや悪くなっている。
		求人情報誌製作会社（広告担当）	採用者数の動き	・新型コロナウイルスの影響が長引き、新卒、中途採用共に、前年よりも今年の方が悪い。大企業の採用人数は現状維持か微増、中小企業の採用人数は景気に左右され、現状維持か減少の企業が増えている。採用をしない企業は余りない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・企業の採用意欲に変化はないが、新型コロナウイルスの長引く感染拡大によって、8月以降、個人消費の減少が顕著になっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	x	-	-	-

10. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (四国)		-	-	-
		一般小売店〔書籍〕（営業担当）	販売量の動き	・店頭売上は前年と変わらないが、外商売上が伸びており、総合売上は前年を超えた。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・ワクチン接種が進み、販促日やピーク時の来客数が増加した。密に対する客の意識に変化がうかがえる。
		スーパー（財務担当）	単価の動き	・新型コロナウイルスのまん延防止等重点措置で、外食需要を取り込めている。
		コンビニ（店長）	販売量の動き	・この9月は、地域のキャッシュレス決済による25%還元キャンペーンの恩恵と、たばこの値上げに伴う駆け込み需要により、何年ぶりかにプラス推移となった。
		観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いてきて、僅かだが予約数が増加している。
		商店街（事務局長）	販売量の動き	・多くの人々が安心して旅行や外食に出掛けられるようにならないと、衣料品や雑貨の売上も上がらない。何度も感染拡大と行動自粛を繰り返してきたので、まだまだ用心している人が多数派であり、今後の感染状況を大変注視している。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	お客様の様子	・街や商店などの店舗の来客は極端に少ないが、反対にスーパーマーケットや産直市は密になってレジも長蛇の列になる。自粛期間中も関係なく人手があった。
		百貨店（企画担当）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、消費者マインドが冷え込んでおり、回復していない。
		百貨店（販売促進）	来客数の動き	・まん延防止等重点措置などにより、特に土曜日や日曜日の外出意欲が低下している。
		スーパー（企画担当）	来客数の動き	・9月一杯までは外食の自粛が続き、家庭での食事が継続して増えている。各種の制限が解除されても以前の状況に戻るのには時間が掛かる。
		コンビニ（商品担当）	来客数の動き	・来客頻度が落ち、客単価が上がっているが、レジャーシーズンとしてはかなり悪い。
		コンビニ（総務）	来客数の動き	・本年もコロナ禍による影響は大きいですが、前年減少した来客数が依然として戻っていない。売上高が前年比で微増なのは客単価増加による企業努力が大きく、状況はほとんど変わっていない。
		衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・依然として新型コロナウイルスの影響で来客数が少ない。
		乗用車販売業（営業担当）	販売量の動き	・新型車のお陰で契約者数は減ってないが、新型コロナウイルスの影響と半導体不足で新車の納入が遅れている。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・今月も新型車の発表があり、新車受注は前年比並みの推移であるが、生産台数の遅れにより販売台数は非常に厳しい状況である。
		乗用車販売店（役員）	販売量の動き	・受注は前年並みの数字を稼げているが他国の新型コロナウイルスの感染拡大による半導体や工場の稼働停止により生産台数が減少しているため、売上に大きく影響してくる。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（副支配人）	お客様の様子	・これまでのところ、大きな変化はない。
		旅行代理店（営業担当）	販売量の動き	・まん延防止等重点措置の適用により、新規の受注がなく、修学旅行等も日帰り又は延期になっている。個人についても新規受注はなかった。
		通信会社（営業部長）	販売量の動き	・来客数は多くはないが、販売数は好調を維持している。必要なものであれば購買意欲は下がっていない。
		美容室（経営者）	お客様の様子	・コロナ禍での生活が日常化している。
		設計事務所（所長）	単価の動き	・建築単価の高止まり、若しくは若干上昇している。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・9月は第5波の影響でかなりの感染者が出た。商店街への来客数がほとんどないという状況が続いており、飲食業を中心に売上がかなり厳しい状況である。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		商店街（代表者）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染症の状況が3か月前は減少傾向にあって、多少、商店街に訪れる来客数に回復の兆しがあったが、その後、まん延防止等重点措置の自粛要請があり、減少傾向となった。解除後も、商店街に訪れる来客数は鈍化している。
		商店街（代表者）	それ以外	・我が国、特に地方都市の経済状況が好転する要素は見つからない。新型コロナウイルスの影響やネット社会の進展で人口や企業立地の地方移動が起こると考えていたが、ほとんど兆候がみられない。
		一般小売店〔酒〕（販売担当）	販売量の動き	・取引先の飲食店が時短営業により、ほとんど納品がない状況である。
		百貨店（営業管理担当）	来客数の動き	・来客数の減少のうち、一般の来店客の減少が売上に影響している。高額商品は比較的安定しているが、それ以外は改善はしていない。客層は、二極化傾向がある。
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染症の影響で客の外出自粛のときと比較すると平常時の来客数まで戻りつつはあるが、販売単価が低いなど販売額は減少し、客足は分散傾向である。
		衣料品専門店（営業責任者）	来客数の動き	・売上は大幅に減少しており、新型コロナウイルス感染症で大きな影響を受けた前年を更に下回る結果となった。前年よりも売上は10%以上が減少し、前々年比では売上は40%以上減少している。現在については助成金等はなく、経営状態は非常に厳しくなっている。
		家電量販店（店員）	販売量の動き	・季節商材を始め、全体的な販売量が減っている。
		家電量販店（副店長）	来客数の動き	・決算月ながら、前年度回復まで至らず。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・秋祭りが中止となったため、売上が悪化している。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・前年売上が底だと信じていたが、今年の方が更に売上が落ちている。給付金や協力金といった救済もなく、最悪の状態である。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・時短営業もあり、客足が激減しているなか、来客数の減少のほか、客単価も下がっている。客の所得減少の影響が大きいものと思われる。
		都市型ホテル（経営者）	販売量の動き	・前年の同時期と比べても先行き不透明感が強い。選挙の影響がある。
		通信会社（社員）	販売量の動き	・当地域の新型コロナウイルス感染防止の警戒レベルの上昇により、訪問販売の販路が稼働停止中であり、販売量が大幅に減少している。
		観光遊園地（職員）	お客様の様子	・まん延防止等重点措置の適用に加え、当地域独自の警戒レベルが最高レベルに引き上げられ、人流が抑制され、顕著に客の出入りが減少した。
		競輪競馬（マネージャー）	販売量の動き	・新型コロナウイルス感染防止の観点から、外食や交遊面の出歩き控えの傾向が続いており、関連業者の営業収入は減少傾向にある。
	×	タクシー運転手	それ以外	・当地域の時短要請やアルコール飲料提供の自粛で、客の動きはほとんどない状態である。
	×	タクシー運転手	来客数の動き	・まん延防止等重点措置により、夜の店の閉店時間が早くなり、かつ休業している店も多いため、夜間は街に人がいない状況である。また、本来この時期に多いはずの遍路客もさっぱりおらず、最悪の状態である。
企業 動向 関連 (四国)		*	*	*
		木材木製品製造業（営業部長）	受注量や販売量の動き	・受注量がアップしている。ウッドショックの影響があると見込んでいたが、受注量に影響は少なかった。
		鉄鋼業（総務部長）	受注量や販売量の動き	・前月に引き続き、受注量は増加傾向である。
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・売上は余り伸びていないが、経営努力により利益率が向上した。
		税理士事務所	競争相手の様子	・同業の顧問料がかなり高額であっても、客が安定して増えてきている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		農林水産業（職員）	取引先の様子	・取引先である直販所の月次売上は3か月連続前年同月を下回った。原因は新型コロナウイルスの感染拡大に伴う飲食店等の業務需要者の来店がパツタリ止まったことが大きく、土日に実施している駐車場の当地域以外のナンバー調査では、当地域のナンバー車は5%未満と少なく、業務需要に次いで売上減少の要因と思われる。また、客単価も少し下がっている。
		化学工業（所長）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が減少している。持続すれば、回復に向かっていくと考える。
		一般機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・各国政府の経済対策により、市場マインドは上向きつつあるものの、地域的ばらつきが大きく、全体として本格的な需要回復には至っていない。
		電気機械器具製造業（経理）	受注量や販売量の動き	・ワクチンを保管する保冷庫の需要が一段落し、一過性の特需による注文は、落ち着いている。
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・官民共に工事が非常に少ない。
		輸送業（経営者）	取引先の様子	・大きくは変わらない。期待感はまだ薄い。
		通信業（総務担当）	それ以外	・ワクチン接種が進み、新型コロナウイルスの感染状況もある程度落ち着いていると感じるものの、各種イベントは引き続き自粛やリモート開催となっており、具体的な変化の見込みはない。
		通信業（企画・売上管理）	受注量や販売量の動き	・前年同時期と比べると良くなっているが、3か月前と比べると大して変わらない。
		金融業（副支店長）	取引先の様子	・取引先の代表者等へ景況感をモニタリングしたところ、足元の受注や販売状況に改善がみられず、今後の動向も明るい兆しはないとの見解が大半である。
		繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・夏前から回復基調にあったが、緊急事態宣言が長引き、8月お盆明けから全国的に小売店店頭の売上が厳しくなっている。相変わらず、ネット販売に注力しているルートは好調であるが、全体的に消費マインドが低下しており、不要不急のものには手を出さない。
		建設業（経営者）	それ以外	・本業は公共事業量の堅調さから、業界全体で悪くはなく、景況感は、これまでと比べて変わらない。しかし、当地域及び周辺地域では、新型コロナウイルス感染対応の警戒レベルが高くなったことから、業務上の行動並びに私的な行動が大きく制限され、景況感は悪くなってきている。
		輸送業（営業）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルス感染症の感染拡大による緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の対象となる地域が拡大したことを受け、四国を発着する貨物の取扱物量の減少に拍車が掛からない状態であり、前年の実績を大きく下回っている。
		輸送業（経理）	受注量や販売量の動き	・海外向けの全体的な輸出数量、国内向けの出荷数量は変わらず減少傾向にある。
	x	-	-	-
雇用関連 (四国)		人材派遣会社（営業）	周辺企業の様子	・新型コロナウイルスの感染状況が減少傾向にあると言っても自粛ムードは依然継続している。飲食業界の時短営業の要請により、公共交通機関や観光業界も空前の灯で苦難は逃れていない状況である。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・新型コロナウイルスの感染が落ち着きつつも、経済活動はまだ低調である。
		職業安定所（求人開発）	求人数の動き	・求人数については、新規求人数が3か月前の令和3年5月と比べると増加したものの、僅かであったことや、新規求人倍率についても令和3年5月と比べると増加したものの、僅かであったため、現状維持であると判断した。
		学校〔大学〕（就職担当）	それ以外	・新型コロナウイルスの感染拡大のため、実習を伴う授業が通常の実施時期よりも遅い時期での実施となったため、学生の中には就職活動が例年よりも遅れるなど、内定にも影響が出ている面がある。
		求人情報誌（営業）	求職者数の動き	・中途採用での求人数が、多少回復傾向にあるものの、各業種とも低い数字のままで推移している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	x	-	-	-

11.九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (九州)		スーパー（統括者）	単価の動き	・1人当たり買上点数は横ばいではあるものの、4回目の緊急事態宣言発出と延長に伴う単籠り需要の増加や青果物の相場高騰、店内のパン屋の集中レジ化による客単価の増加によって、1品単価が5円増となり、来客数も更に増加し、売上前年比が大幅に増えている。
		住関連専門店（従業員）	単価の動き	・単価の高い秋冬商材が動き出し、売上も好調に推移している。季節要因が大きい。
		競馬場（職員）	来客数の動き	・ワクチン接種が進み、来客数の増加が見込まれる。
		一般小売店〔青果〕（店長）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が減少しており、来客数も増えている。朝晩の気温が涼しくなり、当県の野菜も増え単価も下がっていることで、購買意欲も上がっている。
		百貨店（企画担当）	来客数の動き	・土日の来客数が増えている。また、催事等の大型イベントに対する反応も回復傾向がみられる。
		スーパー（経理担当）	販売量の動き	・ここ数年続いた大型台風の影響が少なく、また、野菜が安値から徐々に回復している。都市部での新型コロナウイルスによる過去の大きな落ち込みが、徐々に戻っている状況である。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・売上自体は、前年を僅かではあるが上回っている。ただ、前年が新型コロナウイルスの影響で非常に落ち込んでいたため、絶対的には良いとはいえないものの、少なくともベクトルとしては回復傾向である。また、長雨による影響がなければ、来客数も前年並み以上であったと考えられ、客単価が上回り、更に良い結果が出たと予想される。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・まん延防止等重点措置で時短営業をしている店舗が多く、コンビニエンスストアの利用客は増加している。すぐに食べることでできる中食の売上は増加しているが、それ以外の雑貨や食品は売上が良くない。来客数は僅かに増加し、客単価は大幅に増加している。
		コンビニ（店長）	販売量の動き	・前月と比較すると増加しているが、前年と比較するとまだまだ低い。
		家電量販店（総務担当）	お客様の様子	・前年は売上をクリアしてきたが、全体的には新型コロナウイルスの影響もまだまだ残っており、厳しい状況が続いている。残暑が厳しいため、例年この時期に動き始める秋冬物も動きがない。
		その他専門店〔コーヒー豆〕（経営者）	お客様の様子	・前月と比較すると、客の様子からコーヒーの消費は僅かに増えている。購入単価も前月と比べるとやや上がっており、景氣的には若干良くなっている。
		その他専門店〔書籍〕（副店長）	販売量の動き	・一部商業施設が閉館したため、人の流れが変化し、来客数、売上共に微増している。
		その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（支配人）	来客数の動き	・新型コロナウイルス新規感染者数が増え、消費者動向にも陰りが見えた5～6月頃と比較すると、10月以降の緊急事態宣言解除により、客足は増えている。まん延防止等重点措置の解除や、8月の豪雨の反動もあり、週末は特に客が増えている。一方で映画館やディスカウントストア、食物販売系は前年の売上が良かったため、一概に好調とはいえない。
		観光型ホテル（専務）	来客数の動き	・先週、県の新型コロナウイルスの感染状況が好転したため、県民向けの5000円引き宿泊割引キャンペーンが再開した。しかし、前回より動きが鈍く、やはり全国で規制が解除されなければ従来の売上は見込めない。来月には県外からの団体客の予約が入っているが、実際に来るかどうか不安である。長い間、地域内で貸し切りバスの往來を見ていない。
	都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染状況に振り回されている。	
	通信会社（営業担当）	来客数の動き	・ショッピングモールでも人出は戻っている。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・天候に恵まれていること、新型コロナウイルスにより夜の飲食店以外での社交場として選ばれていること、世界的なゴルフブームであることなどの理由により、順調に来客数が推移している。
		その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大が縮小傾向にあり、ワクチン接種率も増加し、サービスのキャンセル数が減少している。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・住宅ローン減税13年の控除適用の契約期限による駆け込み需要で、販売が伸びている。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・緊急事態宣言で、飲食店が休業しており、仕入れに来る客もいない。一般の客もスーパーマーケットやコンビニエンスストア等で買物をしている。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・季節性の変動と緊急事態宣言の影響により、前年より更に悪い状況が続いている。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・昼間の来客数は若干戻りつつあるが 特に17時以降の来店客が途絶えている。
		一般小売店〔鮮魚〕（店員）	お客様の様子	・居酒屋等に納めている小売業には元気がなく、また、一般客を相手にしている魚屋も売れていない。その理由として、選択肢が増えており、わざわざ魚を買って面倒な調理をしなくても良くなっていることにある。
		百貨店（経理担当）	競争相手の様子	・売上高の前年比について、6月実績と9月見通しを比較すると、店舗により変化の程度にばらつきはあるが、全体的には状況は変わっていない。
		百貨店（営業担当）	来客数の動き	・緊急事態宣言の発出による外出自粛、混雑回避、県外との往來自粛で来客数の減少は継続している。しかし、催事効果による休日の午前中の来客数増加や、新規感染者数の減少で、午前中の来客数は増加している。また、ワクチン接種やマスク着用での目的買いが多く、午後の来客数、滞留時間共に回復している。店頭では換気等店内環境への関心が強く、感染者数増加への不安の声があり、オンラインでの受注や地元のリテライトショップ、ギフトショップでの購買志向、外出の自粛は継続している。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・営業の動向としては、大きな変動はない。食品関連の動きは、全体的に依然好調で推移しているが、衣料や住居関連の動向は、それに反して鈍化傾向になっている。
		スーパー（総務担当）	来客数の動き	・緊急事態宣言の影響で来客数が減少し、客単価は上昇している。新規感染者数が減少傾向にあり、9月30日で緊急事態宣言の解除が見込まれていた影響で、客足が外食や競合他社等へ分散している。
		スーパー（企画担当）	来客数の動き	・9月から、秋の味覚の催物が開催され、規模は小さくなっているものの集客効果は大きい。ただし、催物の期間中以外は来客数がさほど伸びておらず、本格的な来客数回復には至っていない。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・緊急事態宣言が実際に解除されなければ、一般消費にどのような変動が出てくるのか予想が立たない。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・緊急事態宣言の継続で、コロナ禍による新しい生活様式の定着による食品や生活必需品の購入は現状維持であるが、仕事やイベント、学校、行楽等の利用は変わらず低迷しており、全体としての売上減少が続いている。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・たばこ増税前の駆け込み需要があり、売上は一時的に改善されているが、それ以外は大きく変化がない。
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・ワクチン接種が進展しているが、油断できない状況である。
		コンビニ（エリア担当・店長）	単価の動き	・前年と比較すると、来客数に変化はないが、客単価が若干減少しており、それに伴い売上も落ちている。
		衣料品専門店（総務担当）	来客数の動き	・当地においても全国と同じ水準で新型コロナウイルスの影響を受けており、来街数及び来客数の減少が長期間継続している状態である。
		家電量販店（店長）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数の状況により、来客数の大幅な変動が続いており、これが解消されなければ来客状況の改善につながらない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		家電量販店（店員）	販売量の動き	・直近3か月の状況と変わらない。9月は閑散時期で核となる商品がなく、例年売上が良いわけではなく、今年もその状態である。
		住関連専門店（経営者）	お客様の様子	・今月の店舗での販売は、来客数は多くないが、客単価が高く、前年より良い。地域のイベント参加では初来店の客が多い。一方、都市部でのキャンペーンは来場者が少ない。
		その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（統括者）	来客数の動き	・緊急事態宣言の影響で、来場者数が回復していない。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・まん延防止等重点措置の適用と緊急事態宣言により、全く売上がない状態である。補助金制度もあるが、店の規模から正常な経営状態ではない。緊急事態宣言が解除となり、売上の回復を待っている。
		一般レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・3か月前も休業要請があり、状況は良くない。
		スナック（経営者）	それ以外	・8～9月は、緊急事態宣言で休業しており、景気判断が分からない。
		旅行代理店（職員）	販売量の動き	・3か月前は、緊急事態宣言が解除になっていたが、現状に変化がない。
		タクシー運転手	お客様の様子	・新型コロナウイルスは少しずつ落ち着いているが、昼夜問わず人の動きが余りない。
		タクシー運転手	お客様の様子	・今月のこの業界に関しては、かなり切迫した状況が長期間続いている。
		通信会社（統括者）	販売量の動き	・携帯電話の販売台数は、前年と比較すると増加しているが、スマートフォン教室等の来店客がやや減少しており、販売計画台数よりは減少する見込みである。
		その他サービスの動向を把握できる者（所長）	お客様の様子	・派遣社員の期日前契約破棄等、客先が経費削減を進めている。
		設計事務所（所長）	単価の動き	・建築材料である木材や鉄骨の単価が上昇し、その他の材料費も徐々に上がっている。また、生活必需品や食品も値上がりしており、それに対して収入は減少している。
		設計事務所（代表）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの影響が長引いている。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・来客数が少なく、売上高も悪く、客の様子も含めて良くない。特に新型コロナウイルスの関係で人の動きが制限されており、婦人服を必要とする客の数は減っている。このままの状態が続くと大変厳しい。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの新規感染者数も減少し、若干ではあるが商店街への来客数も増えつつある。しかし、客の多くは生鮮食料品店への買物ばかりで、その他の業種では販売不振が続いている。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	お客様の様子	・9月は発表会や催物の開催で花の需要が高まるが、自粛要請等により予約が減少しており、売上も減少している。
		一般小売店〔茶〕（販売・事務）	来客数の動き	・緊急事態宣言の影響で、来店客も減少しており、売上が伸びていない。ここまで売上が減少するとその要因も分からなくなってくる。新型コロナウイルス発生前と比較すると人出はかなり減少しており、来店客は必要限度の購入のみで、今までとは様子がかなり変わっている。
		百貨店（企画担当）	来客数の動き	・食品売場で多数の感染者が出たことで、イメージの悪化を招き、来客数が減少している。郊外店の来客数は徐々に回復傾向ではあるが、新型コロナウイルスの感染拡大第5波より前の水準には達していない。
		百貨店（業務担当）	お客様の様子	・秋物商材が入荷した際に客へ連絡すると、例年であれば7割程度の客の反応があるが、前年から今年に掛け、実際に来店に結び付くことは1割に満たない。外出に慎重になっている客や必要がないと断る客が多くなっている。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・新型コロナウイルス新規感染者数は激減しているが、人流の変化はなく、依然として来客数不足である。また、景気も悪い状態であり、食品で例えると野菜高騰やブランド商品値上げ等で消費者の生活防衛意識が高まり、節約意識が高まっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		衣料品専門店 (店員)	お客様の様子	・3か月前は東京オリンピックや夏休み前で旅行や外出への期待感が多少あったが、今は緊急事態宣言の延長続きで、購買意欲がますます失われている。
		乗用車販売店 (従業員)	販売量の動き	・半導体不足により商品の納期が長期化しており、購入意欲を減退させる一因になっている。
		乗用車販売店 (総務担当)	販売量の動き	・半導体不足とコロナ禍の影響によりメーカーが大幅な減産をしているため、受注が取れても登録や販売につながらず、新車販売台数が減少している。異常な長期の状態が続き、客の購買意欲低下が心配される。
		タクシー運転手	来客数の動き	・緊急事態宣言の延長により新規感染者数は減少しつつも、夜の繁華街は閑散としており、タクシー利用者は通常の半分以下である。また、在宅勤務増加の影響もあり、仕事でのタクシー利用も減少している。
		通信会社(企画担当)	販売量の動き	・仕入先の大規模システムトラブルで販売量が減少している。
		通信会社(業務担当)	販売量の動き	・閑散期と緊急事態宣言が重なり、販売量が大幅に低下している。
		美容室(経営者)	販売量の動き	・夏の需要は低い、緊急事態宣言もあり、6～8月と比較すると、9月は特に悪い。この業界では、夏より秋口の方が忙しくなる傾向があるが、先行き不透明であるため、客の動きが自粛傾向にあり、売上は落ちている。
		美容室(店長)	来客数の動き	・今まで定期的に来店していた客の来店頻度が低下し、客単価も上がっていない。
	×	商店街(代表者)	お客様の様子	・まん延防止等重点措置により、人通りが全くなく、開店しても売上に繋がらない。
	×	商店街(代表者)	来客数の動き	・新型コロナウイルスの第5波の影響で、新規感染者数が8～9月に増え来客数が非常に減少している。商店街の各店では、来客数と売上共に大きく下がっている。
	×	一般小売店[精肉](店員)	販売量の動き	・客先の飲食店が営業自粛しているため、景気が悪くなっている。
	×	衣料品専門店(店長)	お客様の様子	・要因は幾つかあると考えられるが、新型コロナウイルスの影響で来客数が減っており、売上も30～40%落ち込んでいる。
	×	衣料品専門店(取締役)	お客様の様子	・来客数が極端に減少している。来店しても購入目的ではなく、目的なく立ち寄る客が多く、創業以来最も厳しい売上となっている。
	×	高級レストラン(経営者)	来客数の動き	・新型コロナウイルス新規感染者数が増加し、まん延防止等重点措置が適用されたことで、夜間は人の動きが全くない。昼間のランチの客は減り、売上はかなり減少している。
	×	高級レストラン(経営者)	来客数の動き	・時短営業要請が発出され、客はほとんどなく、厳しい状況である。
	×	その他飲食の動向を把握できる者[酒卸売](経理)	販売量の動き	・2021年7月下旬の連休で新型コロナウイルスの感染拡大を抑えるため、8～9月の2か月間、酒類の提供ができない状況になり、景気は大幅に下がっている。
	×	観光型ホテル(総務)	来客数の動き	・運営するシティホテルの宿泊稼働率は30%を切っており、県外からの出張や観光客の動きが停止状態である。まん延防止等重点措置の対象地域のため、特に夜間の人の動きがなく、ホテル周辺も週末の昼間以外は閑散としている。
企業 動向 関連 (九州)		-	-	-
		食料品製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・農産物の原料が収穫期に入ったため、製造業も繁忙期となり、製造と販売共に比較的順調に推移している。
		一般機械器具製造業(経営者)	取引先の様子	・景気の状態が上向きになっているが、たまたま取引先に新型コロナウイルスのクラスターが発生したことで、この1か月は動きが制約され、足踏みの状態が続いている。
		一般機械器具製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・半導体製造装置関連の金属加工部品の受注が、今月は増えている。
		電気機械器具製造業(総務担当)	受注量や販売量の動き	・半導体関連の受注が継続して好調である。
		電気機械器具製造業(取締役)	取引先の様子	・半導体不足の影響はあるものの、自動車関連の設備投資や環境、都市インフラ、健康関連業種についても引き続き堅調である。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		建設業（社員）	受注量や販売量の動き	・型枠業者や鉄筋業者は、コロナ禍で人手不足や資材入荷が悪く不安を持っている業者が多いが、早めの対応を検討している。官公庁の発注が上半期で80%目標であるが、全く発注されていない状況である。
		新聞社〔広告〕（担当者）	受注量や販売量の動き	・広告申込みの状況が良くなっている。
		農林水産業（従業者）	取引先の様子	・九州は果物を除き、1年間のなかで、今が一番生産量が少ない時期となっている。長雨の影響で露地栽培の冬春野菜は作付けが遅れており、メディアで報じられているとおり、市況単価は高く物が無い状況となっている。
		繊維工業（営業担当）	取引先の様子	・取引先に新型コロナウイルス感染者が発生し、仕事量が慎重になっているが、そうでない企業では、少しずつ動き出している。また、最低賃金上がる前の駆け込み需要がある。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	取引先の様子	・商社では新型コロナウイルスの影響で出張できないため、取引が順調に進まず、社員の休みを増やしている状況である。産地全体では、なかなか売上が上向きになる状態ではない。当社では、インターネット販売とふるさと納税がある程度順調にしている。
		金属製品製造業（事業統括）	受注価格や販売価格の動き	・引き合いは増加しているものの、半導体を始め東南アジアで生産している部材について、新型コロナウイルスが工場操業に影響し、入庫が遅れ受注や売上に影響が出ている。
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・引き続き半導体製造装置の引き合いは好調であり、主要取引先からの受注も好調を維持している。
		輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・特に大きな変化はない。
		輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・海上運賃の高騰により、依然北米向けのコンテナブッキングが取れず輸出したくてもできない状況となっている。また、自動車関係では減産により工場に部品やタイヤがあふれているため、付近の倉庫は満杯となっているが、一時的な状況である。
		輸送業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルス新規感染者数が減少しており、また、ワクチン接種がある程度進んでいることから飲食店等に客足が戻りつつあることを実感している。ただ、物量自体は大きく変わらず、依然工場等では生産調整している部分もあり、すぐに景気回復にはつながらない。
		通信業（経理担当）	取引先の様子	・新型コロナウイルスの対策に大きな変化がない。
		金融業（営業）	取引先の様子	・飲食業や観光業等の状況は厳しく、それが長期間にわたっており、閉店も目立ち始めている。
		金融業（調査担当）	取引先の様子	・需要が旺盛な半導体関連や、EC化の広がりにより物流関連が堅調な一方で、好調だった自動車業界等では、半導体不足による減産が行われており、地場の部品メーカーにも影響が出ている。また、飲食店やホテル等のサービス業では、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で依然として客足が戻らず厳しい状況が続いている。景気は業種によりばらつきがあるが、総合的には3か月前と同様、景気は悪い状況である。
		金融業（調査担当）	取引先の様子	・新型コロナウイルスの新規感染者数は減少傾向にあるが、企業全体では、新型コロナウイルスの影響度合いが数か月前よりも強まっている。人手不足感も総じて高まっているが、そのなかでも建設業の人手不足がより顕著である。
		広告代理店（従業員）	受注量や販売量の動き	・前々年比で3か月連続30%超の売上減少が続いている状況で、景気回復の実感が感じられない。
		広告代理店（役員）	受注量や販売量の動き	・客先からの業務依頼数、予算共に大きな変動がない。
		経営コンサルタント（社員）	競争相手の様子	・同業の会合ができず、情報が入手できないので現状と変わらない。
		経営コンサルタント（代表取締役）	取引先の様子	・取引先に採用や教育等の人材投資について確認しても、特に変化がみられない。
		その他サービス業〔物品リース〕（職員）	取引先の様子	・3か月前と比較しても、取引先の状況は変わらない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・9月の計画は例年よりかなり落とした計画であるが、それでも達成率は90%ギリギリである。やはり、新型コロナウイルスの感染が与える外食産業への影響は大きいものがあり、外食単体では対計画の40%を切る状況である。9月はスーパーマーケットや冷凍食品メーカー向けも例年と比較すると余り伸びていない。今まで、工場生産は順調であったが、実習生が入らず、人手不足が徐々に負担となってきそうである。
		その他製造業 [産業廃棄物処理業]	受注価格や販売価格の動き	・中国の不動産絡みでの下落が、金属系相場にも影響し落ち込んでいる。さらに、コロナ禍でまだ生産量も上がっておらず、ダブルパンチで打撃を受けている。
		金融業（従業員）	取引先の様子	・百貨店の売上は弱含みながら、スーパーマーケットやコンビニエンスストア、家電販売は持ち直している。一方、新型コロナウイルスの影響で、旅行業始めホテル・旅館、飲食店等では厳しい状況が続いている。
		金融業（営業担当）	取引先の様子	・8月から当県では緊急事態宣言が発出され、飲食店を中心に営業時間の制限が続いており、売上も徐々に低下しているため、3か月前と比べてサービス業、観光業といった業種は景気が底にきている。全体的には、状況は悪くなっている。
		経営コンサルタント（代表取締役）	取引先の様子	・まん延防止等重点措置により、時短営業等を強いられているため、一般的に人の流れが悪くなり閉店する店も多くなっている。3か月前よりも経済が沈滞している。
	×	経営コンサルタント（社員）	受注量や販売量の動き	・飲食店の落ち込みが大きく、回復の兆しがみえない。
	×	その他サービス業 [コンサルタント]（代表取締役）	競争相手の様子	・市町村からの調査や計画策定支援の業務の発注はククチン接種等で遅れており、通常、年度当初に発注されているものが、9月に入ってようやく入札の案内が入るようになってきている。既に入札が行われていたものは、ダンピングにより予定価格の4割以下で落札される傾向にあり、受注が困難な状況にあるために景気が悪くなっている。
雇用 関連 (九州)		-	-	-
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・徐々に新しい生活様式に向けた動きのなかで、求人数が回復している。
		求人情報誌製作会社（編集者）	周辺企業の様子	・コロナ禍で求人取扱件数が激減し、経営が厳しい状況である。例年8月の後半から11月まで繁忙期であるが、今年は一部の業界を除いて動きが鈍い。緊急事態宣言が解除される10月を待つばかりである。
		新聞社[求人広告]（担当者）	それ以外	・緊急事態宣言やまん延防止等重点措置等が解除となり、人流や飲食店等の購買意欲にも動きがみられる。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・有効求人数の前年比での増加が続いており、新規求人も20%以上の増加となっている。
		民間職業紹介機関（職員）	求人数の動き	・当県では緊急事態宣言が発出されていたが、前年より求人数は多く、業種による差はあるものの、やや良くなってきている。また、各大学内で行われる3年生に対する就職支援につながる企業研究会の機会も増えているため、若干回復傾向にある。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・緊急事態宣言の影響により、キャンセル案件が相次いでいる。
		人材派遣会社（社員）	雇用形態の様子	・フルタイムではなく時短や期間限定の求人、また業界経験必須を条件にしたシステムエンジニアや医療系の専門的な求人等が多い。また、求職者と企業に対してのマッチングも厳しい状況が続いており、新しい雇用を生み出すのに苦戦している。
		新聞社[求人広告]（社員）	周辺企業の様子	・悪い状況は変わらず、決して楽観できない。新聞広告の量は、低迷が続いており、旅行、宿泊施設関連の広告は緊急事態宣言の解除を見越し9月中旬から復活しつつあるものの、それまでは皆無に等しい状況であった。催物の告知は、全てが中止ではなく、ある程度は行われているため、前年より広告の量も増えているが、低迷している状況には変わりはない。
		新聞社[求人広告]（担当者）	周辺企業の様子	・新型コロナウイルスの緊急事態宣言が延長され、企業活動もリモート勤務が多くなり、会食や消費等の人と会わない状況が続いている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		学校〔大学〕 (就職支援業務)	求人数の動き	・2022年卒求人数の底堅さがあり、特に福祉系の求人数が活発になっている。その他の企業の採用活動も活発に動いており、内定報告者の数も前月より増加している。
		人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・求人数が6月と比べると3割減少している。求職者数の動向はやや鈍っており、登録にくるスタッフ数も約1割減少である。求人各媒体に出しても、問合せも少ない。
		職業安定所(職員)	求人数の動き	・令和3年6月の新規求人数は、5837人と令和3年4月以降最高数値となっている。令和3年7月以降の新規求人数は6月より低いが、増加傾向は継続している。しかし3か月前の6月と9月の新規求人数を比較すると減少している。
	x	*	*	*

12. 沖縄(地域別調査機関:一般財団法人南西地域産業活性化センター)

(-:回答が存在しない、*:主だった回答等が存在しない)

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (沖縄)		-	-	-
		一般小売店 〔酒〕(店長)	お客様の様子	・ワクチン接種により新型コロナウイルス新規感染者が少なくなっているため、今月より緊急事態宣言解除の方向で動いていて、今後来客数や売上など期待できる。
		百貨店(店舗企画)	販売量の動き	・緊急事態宣言下ではあるが、感染防止対策を施した上で物産展を開催し、自粛疲れもあったのか、多くの客に期待されにぎわった。
		コンビニ(経営者)	単価の動き	・来客数は3か月前とほぼ変わらないが客単価が上がっていて、売上もやや良くなっている。
		乗用車販売店 (経理担当)	販売量の動き	・新車の受注は好調で前年を上回っている。プレミアムブランドも新型車を中心に受注が伸びている。
		旅行代理店(マネージャー)	販売量の動き	・10月以降の問合せ予約は少しずつ増えているが、政府の方針次第ではすぐにゼロへ戻る。
		スーパー(企画担当)	来客数の動き	・店舗改装や緊急事態宣言中ということもあり、来客数は、それほど変わらない状況である。
		コンビニ(副店長)	販売量の動き	・新型コロナウイルスのワクチン接種は確かに進んできているものの緊急事態宣言が延長に続く延長である。9月の大型連休の来客数は伸びきらなかった。
		その他飲食〔居酒屋〕(経営者)	それ以外	・緊急事態宣言が継続しているなか、本業を休業しており、デリバリーなどもやっているが、手数料が大きく打開策にはなっていない。
		住宅販売会社 (役員)	お客様の様子	・賃貸、売買共に物件問合せは一定数あるが、物件内覧については盛り上がり欠ける。
		スーパー(販売企画)	来客数の動き	・客単価は3か月前と同じであるが、新型コロナウイルスの感染拡大第5波の影響で来客数が悪い。
		通信会社(営業担当)	販売量の動き	・販売数が前年比で85%と落ち込んでいる。来客数も同様に減っていて、長く続いている緊急事態宣言の影響が大きい。
		住宅販売会社 (代表取締役)	販売量の動き	・大型建築案件が少なく、建築請負金額が減少傾向にある。
	x	商店街(代表者)	来客数の動き	・現在、新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言も発出されており、飲食店、その他の業種も全部大変な事態となっている。新型コロナウイルスの感染が収束しない限りは景気は大変厳しく、来客数も減っている。
	x	衣料品専門店 (経営者)	来客数の動き	・9月は緊急事態宣言の延長を受け、これまで以上に悪い月となっている。外出を規制されても飲食店のような支援金や協力金などはなく、周辺の同業者や他業種も大変な思いをしているとみている。
	x	観光型ホテル (代表取締役)	来客数の動き	・9月は緊急事態宣言の延長により、一般の宿泊者数がピークの10分の1、修学旅行がほぼ0件になっている。夕食、宴会も0件である。
	x	観光型ホテル (企画担当)	販売量の動き	・ホテルの6月の販売室数が前年比24%減少なのに対し、9月の販売室数は緊急事態宣言の影響があつて前年比55%減少で、マイナス幅が大きくなっている。
企業 動向 関連		食料品製造業 (役員)	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数の減少が続くなか、緊急事態宣言下ではあるものの、学校給食関連のような一部を除き売上は増加している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
(沖縄)		輸送業（経営企画室）	受注量や販売量の動き	・ホテル関係や4か月ぶりに空港関係への納品が再開している。外食関係の酒類の発注も徐々に増えてきており、緊急事態宣言解除に向けた各納品先の動きが活発化している。
		窯業土石業（取締役）	受注量や販売量の動き	・前月と比較して公共、民間工事共に見積依頼、出荷に大きな変化はない。
		会計事務所（所長）	取引先の様子	・衆議院選挙もあり、政治動向が様子見されるとみられる。
	x	*	*	*
	x	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・契約、販売が全く動かず、止まったままである。
雇用 関連 (沖縄)		-	-	-
		求人情報誌製作会社（営業）	求人数の動き	・過去直近3か月はほぼ横ばい状態で推移していたが、今月は3か月前と比較すると求人数は20%増加、前月比だと15%増加している。緊急事態宣言解除後を想定した採用活動再開の兆しがみえてきている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・就職数が、6月から8月までは前年同月を下回っていたが、9月は4か月ぶりに前年同月を上回る予定である。
		人材派遣会社（経営者）	求職者数の動き	・派遣の依頼は確実に増加しているものの、求職者数が少ない。また新型コロナウイルス感染により休職中のスタッフも多数いて、売上の数字に影響を及ぼしている。
		人材派遣会社（総務担当）	求職者数の動き	・緊急事態宣言のため求職者数の動きが鈍く、なかなかマッチングにつながられない。
		学校〔大学〕（就職支援担当）	求人数の動き	・企業の求人数の動きが鈍くなってきている。
		学校〔専門学校〕（就職担当）	求人数の動き	・IT系求人数については良い状況が継続しているが、ゲーム、デザイン系求人数は厳しい状況が続いている。3か月前と比較してもその状況に変化は余りみられない。
	x	-	-	-